

## 序

国連の「環境と開発に関する世界委員会」の報告書（1987年）以来、「持続可能な発展」が世界共通の課題となっています。枯渇する資源、環境の悪化、大きな気候変動など、喫緊の課題の中に私たちはいます。また、グローバル化、デジタル化などによる社会構造の変化も、経済や生活に大きな影響を与えています。今までとは違い、地球規模で考え行動しなければならない課題が山積しています。未来を担う子どもたちには、この難題を解決し、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手として、かつて経験したことのない未来を創造する力を伝えていかなければなりません。

社会に適応する力を育成する教育で育った私たちが、社会を自ら創り上げていく力を子どもたちに育成していくのです。

そのために私たちができることは、子ども自身の学びを構築すること。大きなタスクに向けて決して諦めることなく協力し、目的に向かって進む学びです。ですから、学校での授業の在り方が今まで以上に大きく問われているのです。

十勝教育研究所は、各教育研究所・関係機関と連携し、十勝での授業の省察的検証に足場を置いた2つの調査・研究を進めています。

1つは、「主体的・対話的で深い学び」に光を当てた十勝管内19市町村教育研究所と連携して進めている共同研究です。もう1つは、自他を認め合う心の育成に視点を置いた管内小・中学校の協力を得て進めている協力員研究です。

ここに2つの成果をまとめた研究紀要No.217を発刊する運びとなりました。現場で活用されることを願っております。

結びに、2つの研究の推進に当たり、お力添えをいただいた関係の皆様へ感謝とお礼を申し上げ、研究紀要発刊の言葉といたします。

十 勝 教 育 研 究 所 長  
十勝管内教育研究所連絡協議会長

山 田 洋

令和5年3月

# 目 次

序

十勝教育研究所長  
十勝管内教育研究所連絡協議会長

山 田 洋

## 十勝管内教育研究所連絡協議会 共同研究

### 「深い学び」に向かう子どもを育む研究

～ICTを生かした、パフォーマンス課題を位置付けた単元計画を通して～

I	研究の概要	2
II	研究の視点と内容	6
III	授業実践（小学校）	12
IV	授業実践（中学校）	26
V	研究のまとめ	41
VI	共同研究員紹介／参考・引用文献	42

## 十勝教育研究所 協力員研究

### 子どもたちに自他を認め合う心を育む研究

～ICTを活用した「考え、議論する」道徳科の授業を通して～

I	研究の概要	44
II	研究の視点と内容	48
III	授業実践	52
IV	研究のまとめ	66
V	研究協力校紹介／参考・引用文献	69

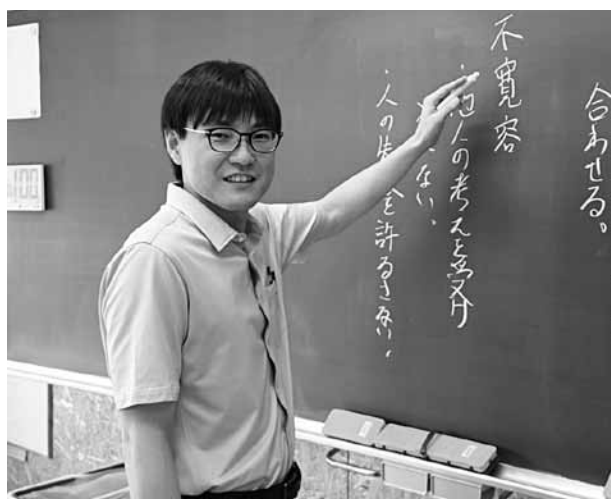
あとがき

# 「深い学び」に向かう子どもを育む研究

～ICTを生かした、パフォーマンス課題を位置付けた単元計画を通して～  
(2か年継続研究 2年次)



授業者  
上士幌町立上士幌小学校  
教諭 政野 里歩



授業者  
中札内村立中札内中学校  
教諭 佐藤 悠樹

## I 研究の概要

- 1 研究主題
- 2 主題設定の理由
- 3 研究の仮説と内容、構造図
- 4 研究計画
- 5 検証計画
- 6 研究の推進
- 7 研究の組織
- 8 研究推進計画

## II 研究の視点と内容

- 1 研究の視点
- 2 研究の内容

## III 授業実践 (小学校)

- 1 単元計画
- 2 授業記録
- 3 ICTの活用場面と工夫
- 4 研究内容の検証
- 5 共同研究員による単元計画例

## IV 授業実践 (中学校)

- 1 単元計画
- 2 授業記録
- 3 ICTの活用場面と工夫
- 4 研究内容の検証
- 5 共同研究員による単元計画例

## V 研究のまとめ

- 1 今年度の研究の成果と課題
- 2 2か年の研究の成果と課題

## VI 共同研究員紹介／参考・引用文献

## I 研究の概要

### 1 研究主題

「深い学び」に向かう子どもを育む研究（2／2年次）

～ICTを生かした、パフォーマンス課題を位置付けた単元計画を通して～

### 2 主題設定の理由

#### 今日的な課題 学習指導要領の趣旨から

学習指導要領では、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で「資質・能力」が示されている。さらに、「資質・能力」の育成のために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。その一つである「深い学び」の実現の鍵として、見方・考え方を働かせることが重要であるとされている。

また、観点別学習状況の評価については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に整理された。学習評価を通して「どのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図る「指導と評価の一体化」の実現が重要である。子どもが自ら学習した意義や価値を実感するためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められている。

さらに、学習指導要領に基づき、GIGAスクール構想の実現によるICT環境や設備を適切に活用した学習活動の充実を図ることが重要視されている。また、「令和の日本型学校教育」を構築し、子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためにICTは、必要不可欠とされている。

#### 北海道の現状から

北海道の子どもたちの実態としては、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果から、令和3年度に新たに調査に追加された「前年度までに、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を計画的に取り入れました」という項目では、「よく行った」と回答している割合は、全国平均より高いものの2割にも満たない結果となり、他の項目と比較して低い傾向にある。

また、同調査の学校質問紙の結果から、「前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」の項目では、平成31年度（令和元年度）と比べて、低い傾向にあるものの、全国平均を大きく上回り、習得・活用及び探究の学習過程への意識が高いことがうかがえる。さらには、令和3年度から、ICTを活用した学習状況に関する項目が追加されるなど、ICTの効果的な活用により、学習指導要領の着実な実施が求められている。

これらのことから、知識の習得のみならず、活用や探究という学びの過程の中で、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりするなど、「深い学び」の実現に向けた指導方法の工夫改善が一層求められている。また、ICTを活用した学習活動の充実を図ることで、子どもたちに必要な力を育むことが重要であるとされている。

### 研究1年次の取組の成果と課題

研究1年次では、ねらいを具体化した課題設定の工夫と、到達目標を明確化した評価の充実を通して、「深い学び」に向かう子どもを育てることができるだろうと考え、パフォーマンス課題とルーブリックに焦点を当てて研究を推進した。

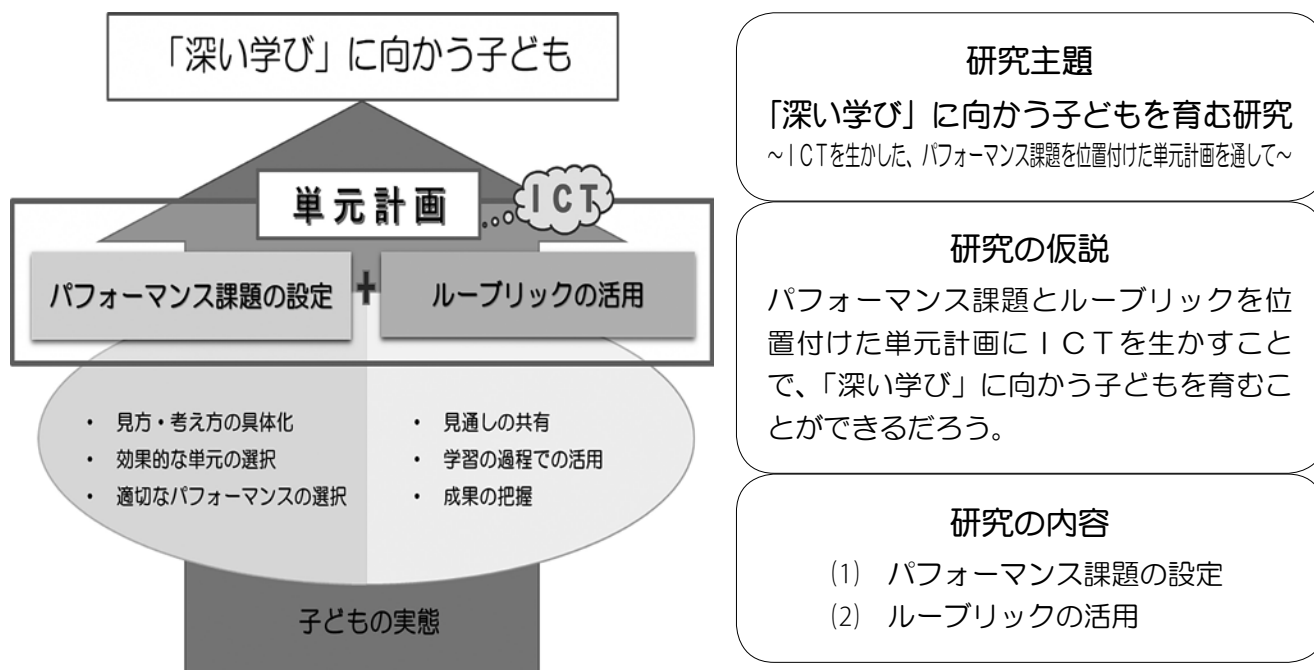
2つのグループに分かれて、それぞれ2回の授業実践を行った。その検証から、成果として、パフォーマンス課題とルーブリックを位置付けたパフォーマンス単元計画を作成し、単元全体を見通しながら課題設定の工夫や評価の充実を図ることで、知識を相互に関連付けてより深く理解しようとするなど「深い学び」に向かう子どもの姿につなげることができたことなどが挙げられた。また、パフォーマンス課題を位置付けた単元計画の作成と実践を通して共同研究員から、「深い学び」に向かう子どもの姿につなげることができただけでなく、教師にとっても単元全体を構想するなど、効果的であったという声があった。さらに、パフォーマンス課題とルーブリックを単元の導入時など早い段階に提示し、子どもと共有することで、主体的に学習に取り組む姿にもつなげることができた。

一方課題としては、教科や単元の特性、子どもの発達段階に応じてパフォーマンス課題の内容やルーブリックの活用を工夫する必要があることが挙げられた。また、評価に時間が掛かり過ぎてしまうことや学習過程でのルーブリックの活用が課題だった。そこで、子どもがパフォーマンス課題に取り組んだり、教師がパフォーマンス課題やルーブリックを提示したりする際にICTを活用することで、これらの課題の解消へつなげるとともに、より「深い学び」に向かう子どもにつなげることができたのではないだろうかと考えた。

### 今年度の研究の方向性

そこで、1年次の成果と課題から、パフォーマンス課題とルーブリックの活用を、幅広く実践していく必要があるだろうと考える。また、パフォーマンス課題とルーブリックを単元計画に位置付け、パフォーマンス課題の設定やルーブリックの活用においてICTを活用した工夫をすることで、「深い学び」に向かう子どもを育てることができるであろうと考え、主題を設定した。

## 3 研究の仮説と構造図



## 4 研究計画

### (1) 第1年次（令和3年度）

- ① 研究主題、仮説、内容等の検討
- ② 理論研究
- ③ 共同研究員による実践検証（小学校第3学年算数科、中学校第2学年社会科）
- ④ 研究の中間まとめと研究紀要の刊行

### (2) 第2年次（令和4年度）

- ① 研究仮説、内容、計画の修正
- ② 理論研究
- ③ 共同研究員による実践検証（小学校第3学年理科、中学校第3学年国語科）
- ④ 研究のまとめと研究紀要の刊行

## 5 検証計画

### (1) 検証内容

#### ① パフォーマンス課題

見方・考え方を単元の目標に合わせて明確にした上で単元に位置付け、適切なパフォーマンスが選択されたパフォーマンス課題の実施を通して、「深い学び」に向かう子どもの姿につながっていたか。

#### ② ルーブリック

見通しを共有し、学習の過程での活用を図り、成果の把握することを通して、「深い学び」に向かう子どもの姿につながっていたか。

### (2) 検証方法

パフォーマンス課題や結果等からの分析をする。

（子どもの見取り・授業記録・単元前後のアンケート調査・振り返りシート・作成物など）

## 6 研究の推進

- 本研究は、十勝教育研究所と管内各研究所が一体となり推進するものである。
- 管内の子どもたちの実態を踏まえた研究仮説を基に、理論研究や実践検証を進める。
- 共同研究員を2つのグループに分け、推進幹事、副幹事を選出して、協議を重ねながら実践検証をする。
- 幹事は、グループ研究の中心となり実践検証を推進し、副幹事はそれをサポートする。
- 十勝教育研究所は共同研究員と協議し研究を総括する。また、研究推進に関わる文献、資料等を提供する。
- 共同研究員による研究実践の成果を広く管内に提供する。

## 7 研究の組織

グループ	Aグループ	Bグループ
学年・教科	小学校第3学年・理科	中学校第3学年・国語科
推進幹事	大草 恵輔（芽室南小）	山田 征洋（陸 別 中）
推進副幹事	長谷川知英（広 陽 小）	兒玉 真一（幕 別 中）
授 業 者	政野 里歩（上土幌小）	佐藤 悠樹（中札内中）
共同研究員	日水 直樹（音 更 小） 市原 秀樹（新 得 小） 吉田 哲朗（清 水 小） 岩田 浩平（更 別 小） 齊藤 織斗（大 樹 小） 森岡 達昭（広 尾 小） 中田 和行（池 田 小）	鈴木日向子（土幌町中央中） 梅原 翔太（鹿 追 中） 関谷昂二郎（豊 頃 中） 松林 一彦（浦 幌 中） 乾 克彦（勇 足 中） 山田 優里（足 寄 中）
担当所員	杉澤 諭 野村 知未	白澤 大輔

## 8 研究推進計画（令和4年度 2 / 2年次）

月	研究の推進内容	諸 会 議
4	・研究主題、研究計画の作成	・十勝教育研究所業務計画会議
5	・研究の視点、研究推進の方向性の確認	・十勝管内教育研究所連絡協議会総会
6	・共同研究員の委嘱 ・研究概要の説明 ・グループ分け、幹事・副幹事・授業者の決定 ・実践研究の内容、方針等の検討	・第1回共同研究員会議(6/9) （全体・グループ会議） ・第2回共同研究員会議(6/23)【Zoom】 （推進幹事・副幹事・授業者会議）
7	・理論研究	・第3回共同研究員会議(7/12) （全体・グループ会議）
8	<pre> graph TD     A[Aグループ] --&gt; C[実践計画]     B[Bグループ] --&gt; C     C --&gt; D[内容検討]     D --&gt; E[授業実践1・2]     E --&gt; F[各グループ 実践の成果と課題のまとめ] </pre>	・第4回共同研究員会議(8/23) （グループ会議）
9		・第5回共同研究員会議(8/30・9/13) （授業実践1・グループ会議）
10		・第6回共同研究員会議(9/20) （授業実践2・グループ会議） ・第7回共同研究員会議(10/6)【Zoom】 （グループ会議）
11	・理論研究・研究の経過報告（広報誌） ・研究紀要原稿の検討・集約	
12	・研究紀要の執筆 ・ダイジェスト版の作成 ・研究発表大会パワーポイント作成	
1	・研究紀要の作成 ・ダイジェスト版の完成、刊行 ・研究発表大会に向けての最終打合せ ・研究発表大会リハーサル	・第8回共同研究員会議(1/12)【Zoom】 （推進幹事・副幹事・授業者会議） ・第9回共同研究員会議(1/24) （推進幹事・副幹事・授業者会議）
2	・研究発表大会(2/7)	
3	・研究紀要の完成、刊行	

## II 研究の視点と内容

### 1 研究の視点

#### (1) 「深い学び」に向かう子ども

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が推し進められている。見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返り次につなげる「主体的な学び」、子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」の実現が求められている。さらに、それまでの「主体的な学び」や「対話的な学び」を通して、「深い学び」につなげていくことが求められている。

また、「何を学ぶか」という教育の内容を重視しつつ、その内容を学ぶことで子どもが「何ができるようになるか」を併せて重視する必要がある、子どもに対してどのような資質・能力の育成を目指すのかを指導のねらいとして設定していくことが重要とされている。社会で活用できる資質・能力を育成していくためには、単に知識を記憶するだけにとどまらず、「知っていること・できることをどう使うか」という思考力、判断力、表現力等の向上が求められている。身に付けた知識や技能を活用して思考することを通して、より確かなものとして習得するとともに、思考力、判断力、表現力等を養い、新たな学びに向かったり、学びを人生や社会に生かそうとしたりする力を高めていくことができるような学びの深まりが大切になってくると考えられている。

学習指導要領解説総則編では、深い学びの視点を以下のように示している。

#### 「深い学び」

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

#### 本研究における「深い学び」に向かう子ども

見方・考え方を働かせながら

- ① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿
- ② 情報を精査して考えを形成しようとする姿
- ③ 問題を見いだして解決策を考えようとする姿
- ④ 思いや考えを基に創造しようとする姿

#### (2) パフォーマンス課題を位置付けた単元計画

学習指導要領では、「深い学び」に向かう子どもの姿は、一単位時間の授業の中で全てが実現されるものではないため、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、見通しを立てたり振り返ったりする場面や、学びの深まりをつくり出すための場面などを、どう組み立てるかという授業改善を進めることが重要であるとされている。

#### 本研究におけるパフォーマンス課題を位置付けた単元計画

本研究では、単元で期待する「深い学び」に向かう子どもの姿、目標と観点別評価規準、単元で働かせる見方・考え方、パフォーマンス課題とルーブリック、ICTを生かした場面の設定などを明確にし、指導に生かすものとして活用する。



## ① パフォーマンス課題

パフォーマンス課題とは、「知識・技能」のようにペーパーテストだけでは評価が難しい、習得した知識及び技能を活用したり、応用したり、統合したりすることを求める課題である。また、「子どもの思考を可視化する課題」とも言われている。考えを言語化したり、記述したりするなど様々な設定をすることで、思考力、判断力、表現力等が高まる学習活動であるといえる。特に重要な概念やプロセスを何らかの問題解決場面で使いこなせるレベルにまで深く理解し、身に付けているかを確認するには、パフォーマンス課題を活用する必要があるだろう。

## 本研究におけるパフォーマンス課題

- 各教科による見方・考え方を働かせる課題
- 習得した知識及び技能を活用したり、応用したりする課題
- 「思考・判断・表現」を評価するための課題

## ② ルーブリック

ルーブリックとは「成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語（評価規準）からなる評価基準表」のことである。この基準を基に評価を行うことで、ペーパーテストでは測り切れなかった姿を見取ることができるなど評価の充実を図ることにつながると考えられる。

ペーパーテストで評価可能な事柄に対して無理にルーブリックを使う必要はなく、レポート課題などの「思考・判断・表現」、実技テストなどの「技能」に対して必要に応じて、活用しやすい観点で使うことができる。決して、全ての観点を同時に評価しなければならないものではないと考えられる。評価基準については、ねらいに合わせて3段階程度設定し、記述する。基準については、全員の達成を目指すB基準を設定するが、課題に対する子どもの願いをルーブリックに生かしたり、子どもの実態に応じて柔軟に対応したりすることも必要とされている。また、子どもによる自己評価や相互評価を可能とするため、評価の充実を図ることにつながるだろう。なお、記述内容については、対象となる子どもが理解できることや、これから学習する内容が明らかになりすぎないことなど、工夫が必要である。

## 本研究におけるルーブリック

- パフォーマンス課題を評価するときに用いる数レベル程度の評価基準表
- 単元や内容の導入時など早い段階に提示し、子どもと共有するもの
- 子どもが学習の過程や終末において、成果の把握に役立つもの

## (3) ICT

GIGAスクール構想では、「1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する」ことがねらいとされている。1人1台端末の整備が急速に進んだ今、これまでの実践とICTを最適に組み合わせながら、教科の学びを深め、教科の学びの本質に迫ることが一層求められている。

本研究においても、パフォーマンス課題の設定やルーブリックの活用など単元においてICTを効果的に活用することで、より「深い学び」に向かう子どもを育てることができるだろうと考える。

## 2 研究の内容

### (1) パフォーマンス課題の設定

#### ① 見方・考え方の具体化

学習指導要領では、見方・考え方を『どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか』というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方」であり、「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの」としている。深い学びの視点に関して、見方・考え方が各教科等の学びの深まりの鍵となる。教師が子どもの思考を想定しながら課題や問いにおいて着目する視点や考える方向性を焦点化することで、「深い学び」に向かう子どもの姿につなげることができると考える。

そのため、本研究では各教科等の見方・考え方を単元の目標に合わせて具体化し、パフォーマンス課題の設定の際に位置付け、充実を図るようにする。

社会的事象の地理的な見方・考え方（地理的分野）	
社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。	
↓	
単元の目標（「思考・判断・表現」のみ）	
中部地方において、産業の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目し、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。	
単元で働かせる見方	考え方
産業の成立条件を、地域の広がりや環境要因、人々の対応などに着目し	他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察する。

【社会科における見方・考え方の具体化例】

#### ② 効果的な単元の選択

思考力、判断力、表現力等を見取るからといって、全ての単元でパフォーマンス課題を実施しなければならないわけではないだろう。単元や題材など内容や時間のまとまりの「いつ」「どのような」パフォーマンス課題を設定するかは、子どもたちが身に付ける力が何かをよく考え、思考力、判断力、表現力等がより表出されることが期待できる単元等を見極め、決める必要があるだろう。少なくとも数時間を掛けて思考を練ったり、何度か繰り返し取り組んで質の向上を図ったりすることが必要となるため、1・2時間程度の小単元はパフォーマンス課題に適さないと言えるだろう。場合によっては、複数の単元を組み合わせ設定することも考えられる。教科の特性に応じながら、単元のねらいに加え、効果的な単元や時期、回数を年間の中で見通し、効果的な単元を選択してパフォーマンス課題を設定する必要がある。

#### ③ 適切なパフォーマンスの選択

パフォーマンス課題は、習得した知識及び技能を活用したり、応用したり、統合したりする課題であることから、言語による表現のみを求めるものであると誤解されがちである。彫刻や演奏などの技術的な表現や、サッカーの試合などの身体的な表現を求めるような課題も考えられる。さらには、レポートや絵画などまとまりのある完成作品を求めるものや、プレゼンテーションや実験など実演を求めるものもある。

パフォーマンスの主な選択については、以下のようなものが考えられる。

- |                |                     |
|----------------|---------------------|
| ○ エッセイ、小論文、論説文 | ○ 朗読、口頭発表、プレゼンテーション |
| ○ 研究レポート、研究論文  | ○ グループでの話し合い、ディベート  |
| ○ 実験レポート、観察記録  | ○ 実験計画・実施・報告        |
| ○ 物語、脚本、詩、曲、絵画 | ○ 演劇、ダンス、曲の演奏       |
| ○ ワークシート、歴史新聞  | ○ スポーツの試合           |

なお、上記を例に教科の特性や見方・考え方により、具体的な方法は異なってくるだろう。どのようなパフォーマンス課題においても、単元のねらいを明確にし、適切なパフォーマンスの選択をしていく必要がある。

## (2) ルーブリックの活用

### ① 見通しの共有

ルーブリックが単元導入時など早い段階に提示されることで、これからの学習で何を学び、単元の終わりにはどのような力を身に付けていくのかという学習に対する見通しをもつことができる。授業の目標が明確になることで、身に付けるべき基礎的な知識と求められる応用力についてのイメージをもつことができ、次の段階へと学びを深めることが期待できる。到達目標を明確にすることで、「深い学び」へ向かう子どもの姿につながるであろう。

さらに、学習評価においては妥当性や信頼性を高めることが重要であるとされており、評価の具体を事前に子どもと共有する場面を設けることは、評価の充実を図ることにもつながると考える。

### ② 学習の過程での活用

ルーブリックを単元導入時など早い段階に提示すると、単元の途中やパフォーマンス課題の実施中など学習のどの過程においても、子どもが評価基準と現状を照らし合わせることで、「何ができているか」や「何が不足しているか」を確認することができるだろう。例えば、パフォーマンス課題実施前の学習の過程での把握の場合、授業の終末において、ルーブリックを活用した振り返りの場面を設定することで、パフォーマンス課題を取り組むために必要な知識や技能を確認することができるであろう。さらには、パフォーマンス課題によっては、パフォーマンス課題に取り組んでいる途中にも、自己評価や相互評価などルーブリックを活用する場面を設定することで、より学びを深めることができるのではないかと考える。

### ③ 成果の把握

ルーブリックを活用し、単元の終わりやパフォーマンス課題の実施後には、子ども自身で「何ができるようになったか」と学びを実感することができるだろう。

評価者からの評価を受け取った際には、ルーブリックと照らし合わせながら、自己の成果や課題の把握に役立てることができる。どのような基準で評価されたかを確認することができるため、評価の信頼性・妥当性が高まることにつながるであろう。また、子どもの励みになったり、次の目標の設定につながったりする効果をもたらすとされている。さらに、子どもや保護者に対して、どのような基準で評価したのかを具体的に説明する材料となり、評価の信頼性・妥当性を高めることにつながれると考える。

II 研究の視点と内容

(3) 資料

① 単元計画

教科名		学 年	
単元名	*単元や題材など内容や時間のまとまりで作成する。	児童・生徒数	
		授業者	
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
*単元の目標に合わせ、「深い学び」に向かう子どもの姿を選択し、明確にする。			
2 単元の目標と観点別評価規準			
*学習指導要領に基づきながら、各学校の教育課程や単元の内容に合わせ、育成を目指す資質・能力を明確にする。			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
*単元の目標に合わせ、3つの観点での評価規準を設定する。			
3 単元で働かせる見方・考え方			
*各教科の見方・考え方を、単元の内容に合わせ、明確にする。			
4 パフォーマンス課題（〇〇）←選択したパフォーマンスの種類を明記する			
*単元の「思考・判断・表現」を評価するために、見方・考え方を働かせ、習得した知識及び技能を活用したり、応用したりする課題を設定する。 *パフォーマンス課題の実施方法として、パフォーマンスの種類を明確にする。			
5 ルーブリック			
*パフォーマンス課題を評価するときに用いる数レベル程度の評価基準を明確にする。			
6 ICTの活用場面と工夫			
*「深い学び」に向かうためのICTの活用場面と工夫について明確にする。			

7 単元の指導と評価の計画（全〇時間）		
時間	学習課題（◆） 主な学習活動（〇）	評価の観点【 】評価規準
1	<p><b>★パフォーマンス課題・ループリックの提示</b></p> <p>*学習課題は、単元の学習課題を解決することを基盤に、本時における学習課題を設定する。</p> <p>*単元の内容等に応じて、単元の導入時など早い段階にパフォーマンス課題とループリックを提示する場面を設定する。</p>	<p>*「2 単元の目標と観点別評価規準」に基づき評価の観点と評価規準を設定し、目標との整合性が図られているか留意する。</p> <p>*単位時間の評価項目は1～2つを想定する。</p>
	<p><b>★ループリックの活用</b></p> <p>*パフォーマンス課題につながる学習活動など必要に応じて、ループリックを活用し、身に付けた力や今後身に付けていきたい力などについて確認したり、今後の見通しをもったりすることにつなげる。</p>	
	<p><b>★ICTの活用</b></p> <p>*「深い学び」に向かうためのICTの活用場面を明確にする。</p>	
	<p><b>★パフォーマンス課題（〇〇）</b></p> <p>*パフォーマンス課題を実施する場面を設定する。ループリックを活用し、目指す姿を明確にしたり、成果の把握をしたりする。</p>	【思・判・表】





\*当研究所のホームページから資料をダウンロードしていただくことができます。



### Ⅲ 授業実践 (小学校)

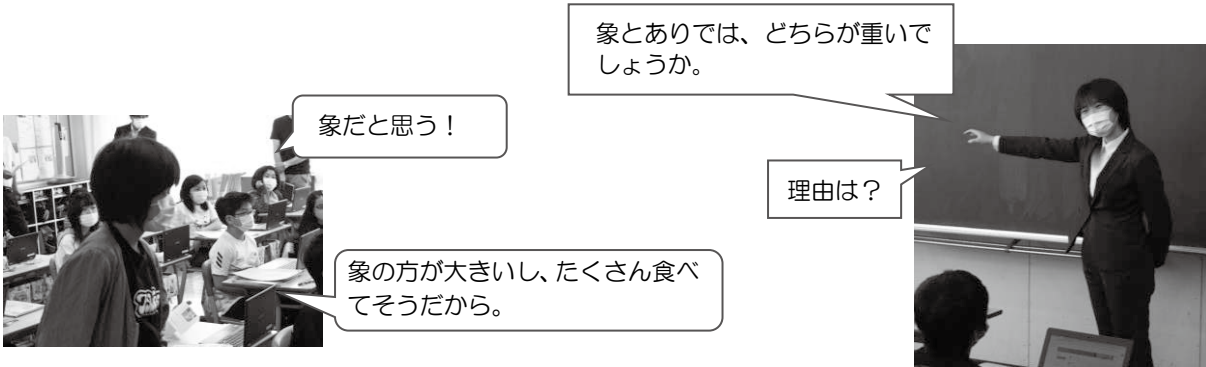
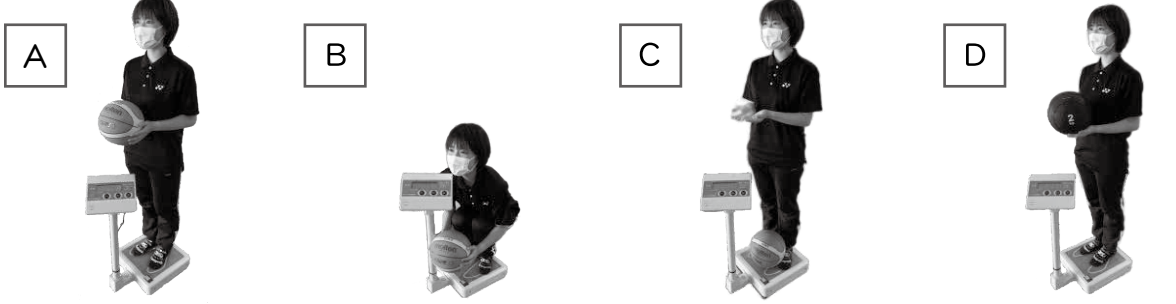
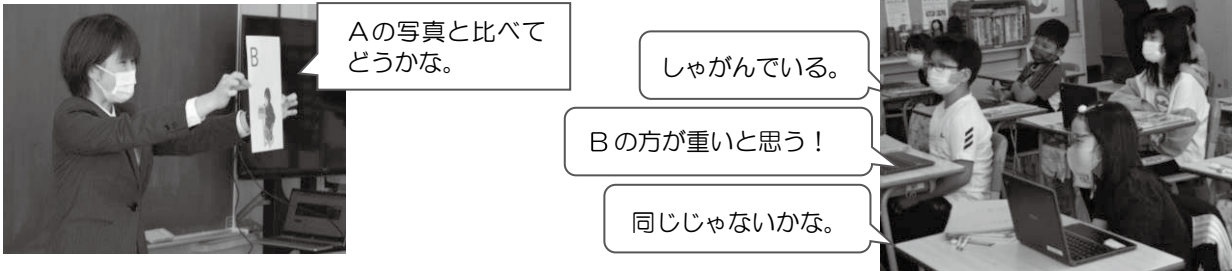
#### 1 単元計画

教科名	小学校 理科	学 年	3学年
単元名	ものの重さ	児童数	19名
		授業者	政野 里歩
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿			
③ 問題を見いだして解決策を考えようとする姿			
2 単元の目標と観点別評価規準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>物の重さについて、物の形や体積と重さに着目し、それらを比較しながら調べる活動を通して、形を変えた物や体積が同じ物の重さについての理解や実験に関する技能を身に付け、物の形や体積と重さとの関係について追究する中で差異点や共通点を基に問題を見いだして表現する。</li> </ul>			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>形を変えた物や体積が同じ物の重さを理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行いその結果を分かりやすく記録している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物の重さについて、差異点や共通点を基に問題を見だし、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物の重さについて、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</li> </ul>	
3 単元で働かせる見方・考え方			
物の性質について、形は変わっても重さは変わらないことや体積が同じでも物の重さが異なることがあることに着目し、比較したり、関連付けたりしながら考える。			

4 パフォーマンス課題 (ワークシート)			
B・C・Dの重さは、Aの重さに比べてどうですか。その理由も答えましょう。			
A	B	C	D
			
ボールを持って体重計の上に立っている。	ボールを持って体重計の上にしゃがんでいる。	ボールを体重計の上に置いて立っている。	メディシンボールを持って体重計の上に立っている。
5 ルーブリック			
A	実験写真の同じところや違うところに注目して、実験結果や結論(「形を変えても、ものの重さは変わらない」や「体積が同じでも、種類が違えば、ものの重さは違う」)を根拠にしながら、B・C・Dの重さはAの重さに比べてどうか説明している。		
B	実験結果や結論を根拠にしながら、B・C・Dの重さはAの重さに比べてどうか説明している。		
C	Bの基準を満たしていない(当てずっぽうや、結論を根拠にしていないなど)。		
6 ICTの活用場面と工夫			
パフォーマンス課題の提示時に、子どもがタブレット端末で上記の写真を見ながら、予想を立てる。2つの実験(3・5時間目)のあとに、パフォーマンス課題の答えを予想する。友達と考えを比較したり、単元を通して自分の考えを振り返ったりすることにつなげる。			

7 単元の指導と評価の計画 (全7時間)		
時間	学習課題 (◆) 主な学習活動 (○)	評価の観点【 】 評価規準
1	<p>◆形を変えた粘土は、どちらの方が重いか考えよう。</p> <p>★パフォーマンス課題・ループリックの提示</p> <p>○ パフォーマンス課題を確認し、単元を見通す。</p> <p>○ 元の形の粘土と形を変えた粘土を持って、重さを比べる。</p> <p>★ICTの活用 (Jamboard)</p>	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>形を変えたときの物の重さについて、差異点や共通点を基に問題を見いだして表現している。(観察)</li> </ul> <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物の重さに着目し、問題を見いだそうとしている。(観察)</li> </ul>
2	<p>◆形を変えると、物の重さは変わるのだろうか。</p> <p>○ キッチンスケールを使い、元の形の粘土と形を変えた粘土の重さを比べる。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>器具を正しく扱いながら、物の形を変える前後で重さを確かめ、その結果を分かりやすく記録している。(観察・ワークシート)</li> </ul> <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>形を変えたときの物の重さについて興味をもち、他者と関わりながら、進んで問題を解決しようとしている。(観察・ワークシート)</li> </ul>
3	<p>◆形を変えると、物の重さは変わるのだろうか。</p> <p>○ キッチンスケールを使い、元の形の粘土と形を変えた粘土の重さを比べた実験結果を基に考察し、結論を導き出す。</p> <p>○ 予想を立てる。</p> <p>★ICTの活用 (スライド)</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>形を変えても物の重さは変わらないことを理解している。(ワークシート)</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>形を変えたときの物の重さについて、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現している。(ワークシート)</li> </ul> <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学んだことを、身の回りの事例に当てはめて考えようとしている。(ワークシート)</li> </ul>
4	<p>◆体積が同じでも種類が違くと物の重さは違うのだろうか。</p> <p>○ 体積が同じで種類が異なる物の重さを天秤で比べた様子を見て、重さについて話し合う。</p>	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体積が同じで種類が異なる物の重さについて、差異点や共通点を基に問題を見いだして表現している。(観察)</li> </ul>
5	<p>◆体積が同じで種類が違うものの重さを調べよう。</p> <p>○ キッチンスケールを使い、体積が同じで、種類が違うものの重さを比べる。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>器具を正しく扱いながら、体積が同じで種類が異なる物の重さを確かめ、その結果を分かりやすく記録している。(観察・ワークシート)</li> </ul> <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体積が同じで種類が異なる物の重さについて興味をもち、他者と関わりながら、進んで問題を解決しようとしている。(観察)</li> </ul>
6	<p>◆体積が同じで種類が違うものの重さを調べよう。</p> <p>○ キッチンスケールを使い、体積が同じで、種類が違うものの重さを比べた実験結果を基に考察し、結論を導き出す。</p> <p>○ 予想を立てる。</p> <p>★ICTの活用 (スライド)</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体積が同じでも種類が異なると物の重さが違うことを理解している。(ワークシート)</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体積が同じで種類が異なる物の重さについて、実験の結果を基に考察し、その考えを表現している。(ワークシート)</li> </ul> <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学んだことを、身の回りの事例に当てはめて考えようとしている。(ワークシート)</li> </ul>
7	<p>◆B・C・Dの重さは、Aの重さに比べてどうですか。その理由も答えましょう。</p> <p>★パフォーマンス課題 (ワークシート)</p> <p>★ループリックの活用</p> <p>○ Cの問題を参考にしながら、BとDの重さについて、Aの重さの関係とその理由を答える。</p>	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物の重さについて、差異点や共通点を基に問題を見だし、表現している。(ワークシート)</li> </ul>

2 授業記録

8 細案 授業実践 (1/7時)	
本時の目標	評価規準
形を変えた粘土は、どちらの方が重いか考える。	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>形を変えたときの物の重さについて、差異点や共通点を基に問題を見いだして表現している。(観察)</li> </ul> <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物の重さに着目し、問題を見いだそうとしている。(観察)</li> </ul>
<p>具体的な子どもの姿 学習課題 (◆) 主な学習活動 (○)</p>	教師の手立て
<p>○ 「ものの重さクイズ」をする。</p> <p>問1 象とあり 問2 ○○先生と政野先生の机</p>	<p>・身近なものの「重さ」や「大きさ」について考えることで、単元で学習する内容の通しをもたせる。</p>
	
<p>○ パフォーマンス課題を確認する。</p>	<p>・重さクイズのように、Aの写真とB・C・Dの写真を比較し、違いに気付いたり、重さの比較を予想したりできるようにする。</p>
<p>B・C・Dの重さは、Aの重さにくらべてどうですか。</p>	
	
<p>ボールを持って体重計の上に立っている。      ボールを持って体重計の上にしゃがんでいる。      ボールを体重計の上に置いて立っている。      メディシンボールを持って体重計の上に立っている。</p>	
	

見通す (単元)



○ タブレットを使って予想し、全体で共有する。



「理由を説明してください」と言われたら、どんな風に説明したらいいかな。



- Jamboard で予想を立て、友達 の考え と比較する。
- 説明の仕方を考えることができるようにする。
- パフォーマンス課題とのつながりを伝える。

見通す (単元)

○ ループリックを確認しながら、単元の見通しをもつ。

【ループリック】

- ◎ (A) …写真の同じところや違うところに注目して、単元で学習した実験の結果や結論を基に答える。
- (B) …単元で学習した実験の結果や結論を基に答える。
- △ (C) …当てずっぽうで答える。

実験で理由が分かるんだな。



○ 本時の課題を確認する。

形を変えた粘土は、どちらの方が重いか考えよう。

○ 問題の確認と課題について予想を立てる。

問題

形を変えると、物の重さは変わるのだろうか。

- 「そのまま」「ぺたんこ」「丸」の3種類に形を変えたときの重さの違いを予想する。

○ 実際に形を変え、粘土の重さを比べる。

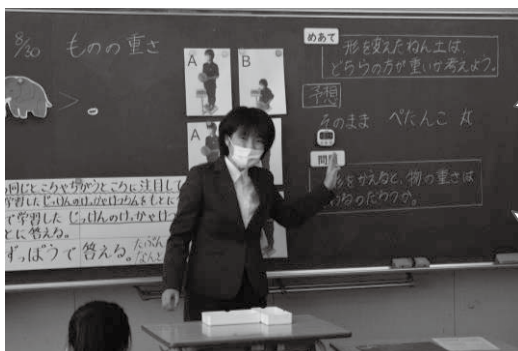
丸が一番重くて、ぺたんこが一番軽い。



同じ重さのような気がする。でも、はっきりと分からないなあ…。

探究する

○ 学習問題を見いだす。



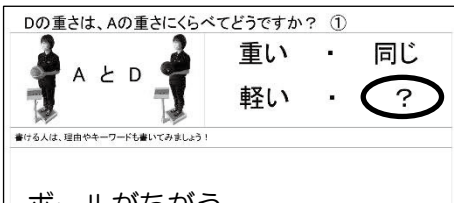
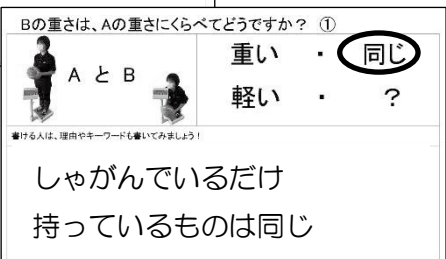

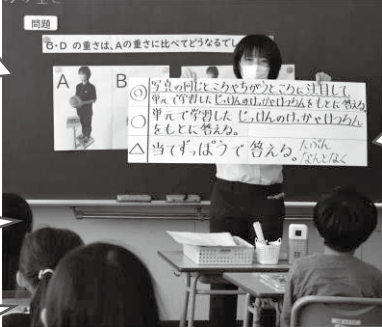


どうしたら、これが一番重いか、確実な結果が分かるかな？

次回から、はかりなどを使って物の重さを調べていきましょう。

量ってみる。



8 細案 授業実践 (7/7時)	
本時の目標	評価規準
図のように重さを量ったとき、重さはどうなるか説明する。	【思・判・表】 ・物の重さについて、差異点や共通点を基に問題を見だし、表現している。(ワークシート)
具体的な子どもの姿 学習課題 (◆) 主な学習活動 (○)	教師の手立て
<p>○ <u>単元で学習した内容を振り返る。</u></p>  <p>どんな実験をやったかな。</p> <p>粘土をどうしたの？</p> <p>ものの重さは？</p>  <p>粘土を使った。</p> <p>形を変えて重さを量った。</p> <p>変わらなかった。</p>	<p>・2つの実験の内容と結論について簡単に触れることで、既習内容を想起できるようにする。</p>
<p>見通す</p> <p>○ <u>前時までの予想を振り返る。</u></p>  <p>Dの重さは、Aの重さにくらべてどうですか？ ①</p> <p>AとD</p> <p>重い ・ 同じ</p> <p>軽い ・ ?</p> <p>■ける人は、理由やキーワードも書いてみましょう！</p> <p>ボールがちがう。</p>  <p>Bの重さは、Aの重さにくらべてどうですか？ ①</p> <p>AとB</p> <p>重い ・ ①同じ</p> <p>軽い ・ ?</p> <p>■ける人は、理由やキーワードも書いてみましょう！</p> <p>しゃがんでいるだけ 持っているものは同じ</p> 	<p>ICTの活用</p> <p>・スライドを活用した、単元の冒頭に立てた予想と実験の後に立てた予想を振り返りながら、本時の課題に取り組めるようにする。</p>
<p>○ <u>パフォーマンス課題とループリックについて再確認する。</u></p> <p>◆ B・C・Dの重さは、Aの重さにくらべてどうでしょうか。</p>  <p>問題</p> <p>B・Dの重さは、Aの重さに比べてどうなるでしょう。</p> <p>A B</p> <p>○ ◎</p> <p>△</p> <p>△だと思う。</p> <p>学習した内容じゃない。</p> <p>そうだね。「◎」になるためには、写真の同じところや違うところに注目して、単元で学習した実験の結果や結論を基に答えよう。</p>	<p>・練習問題として、Cの写真とAの写真の比較について全体で取り組み、解答の仕方を確認する。</p>
<p>探究する</p>	

探究する

○ パフォーマンス課題に取り組む。



Aの写真との違いはボールの種類だな。  
実験の結果から考えると…。



2回目の実験のあとの予想で、ボールの種類が違うことに気付いていたんだっ!



- スライドの予想シートやルーブリックを確認しながら、解答を考えるように助言する。

違いや実験の理由も書いたけど、これでいいのかな。



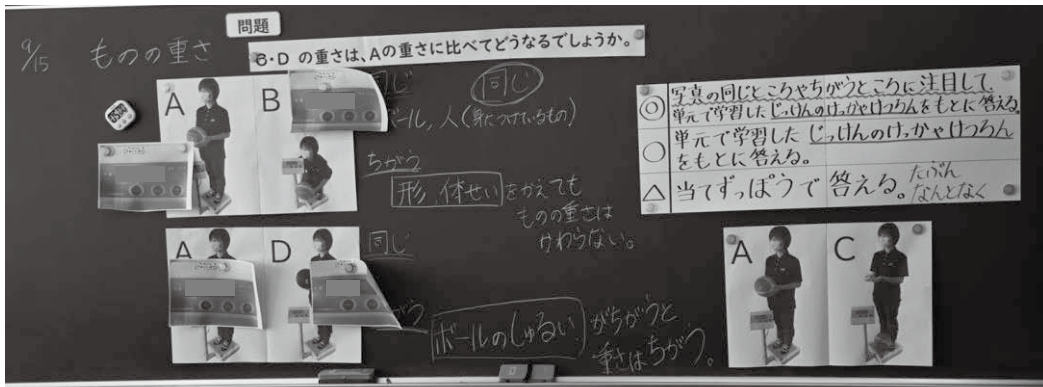
- 机間巡視しながら、今までの実験の様子を振り返る「ヒントコーナー」の活用の声掛けをする。

あっ、そうだ! そうだ! だから…。



○ パフォーマンス課題について、考えたことを発表し合い、交流する。

- B・Dの重さは、Aの重さに比べてどうなるかを、理由も含めて全体で交流することで、理解を深める。



振り返る

○ 振り返る。



- 単元のパフォーマンス課題に対しての自己の学習を振り返ることができるよう、教科書やノートを確認するなど振り返りの視点を提示する。

【本時の振り返りシート】

- パフォーマンス課題は、最初は難しかったけど、最後は今まで習ったことを使ったら簡単にできた。
- よく考えて、書くことができた。

### 3 ICTの活用場面と工夫

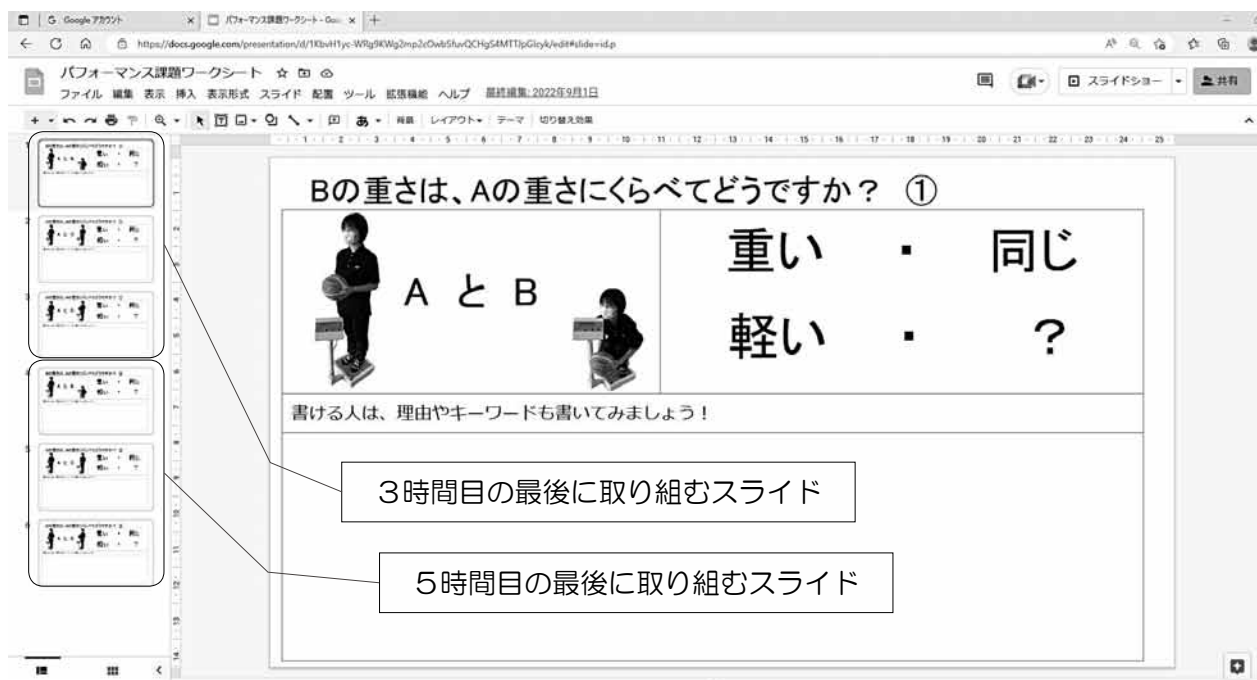
#### (1) Google Jamboard

今回の単元では、1時間目にパフォーマンス課題を提示し、子どもたちに回答を予想させた。その際に、各自のタブレット端末から、Jamboardを活用して、自分の予想を表示した。理由や根拠もなく「当てずっぽう」に予想する子どももいると考え、Jamboardを全体で共有し、友達の考えを確認したり、比較したりする機会を設けた。自分の予想との違いや、友達の予想の理由について考えたり、予想の正当性について考えたりすることをねらいとした。



#### (2) Google スライド

Googleスライドを活用して、パフォーマンス課題について予想と理由をメモできるワークシートを作成し、3時間目と5時間目の実験の後に記入した。単元の導入時に立てた予想は、根拠が曖昧だったり、理由がなかったりしている子どもが多いことから、パフォーマンス課題に取り組むまでのスモールステップとして取り入れた。実験後に再度予想する場面を設定することで、以前のワークシートと比較しながら、自分の予想や理由の根拠を見付けようとしていたり、根拠をもって理由を書き留めたりすることができる考えた。また、単元の最後にパフォーマンス課題を実施する際にも、単元を通して自分の考えがどうであったのかを振り返ることで、考えが深まったり、学びを実感したりすることをねらいとした。



## 4 研究内容の検証

### (1) 子どもの見取り・聞き取り

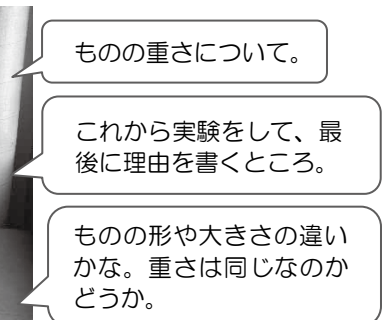
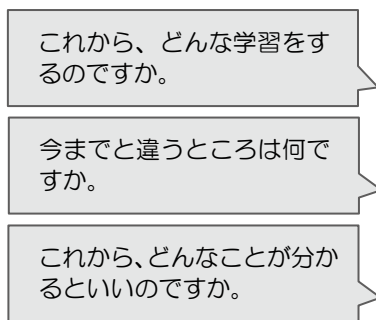
#### ① 授業実践 1



##### ○ 授業中の様子より

Jamboardを使ってパフォーマンス課題の予想を立て、全体で共有したことで、単元の最後にどんなことをするかというイメージをもつことができた。また、ループリックの提示により、パフォーマンス課題に取り組む際には、自分の考えに対して理由を説明することや、実験結果や結論を根拠とする必要があることを理解できていた。

##### ○ インタビューより



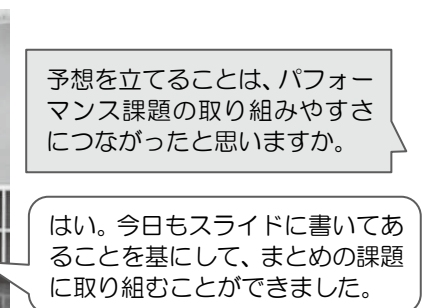
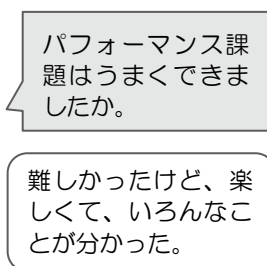
#### ② 授業実践 2



##### ○ 授業中の様子より

ICTを活用したワークシートを使って、自分の今までの予想とその理由について振り返りながら、パフォーマンス課題に取り組んでいた。また、パフォーマンス課題に取り組む前に、再度ループリックについて確認し、黒板に掲示しておいたことで、ループリックを確認しながら、課題に取り組む様子が見られた。

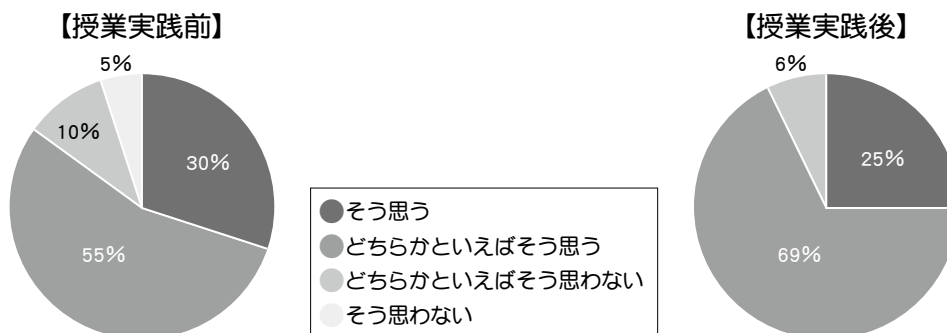
##### ○ インタビューより



パフォーマンス課題とループリックを単元の1時間目に提示したことで、単元の見通しをもつことができ、意欲的に学習する姿につながった。また、ICTを活用したシートで予想を立てる活動を繰り返し取り組んだことで、単元の途中においても1単位時間の学習内容とパフォーマンス課題とのつながりを考えることができていた。

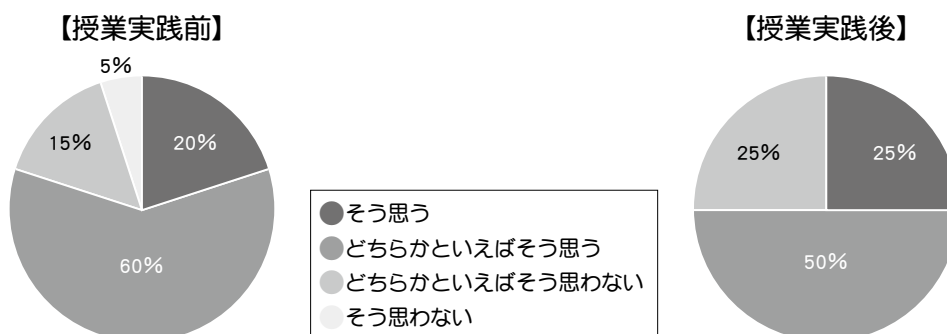
(2) 授業実践前後のアンケート結果から

理科の学習では、学習の途中や終わりに、それまでに自分ができるようになったことを、確かめることができていた。



アンケートの結果から、「そう思う」と回答した子どもが若干減少したものの、ほぼ肯定的な回答をしている。このことから、パフォーマンス課題と同様の問題を繰り返し取り組む場を設定したことにより、子どもが今まで学習してきた知識を相互に関連付けてより深く理解しようとしたり、問題を見いだして解決策を考えようとしたりする深い学びに向かう子どもの姿へつながったのではないかと考察できる。

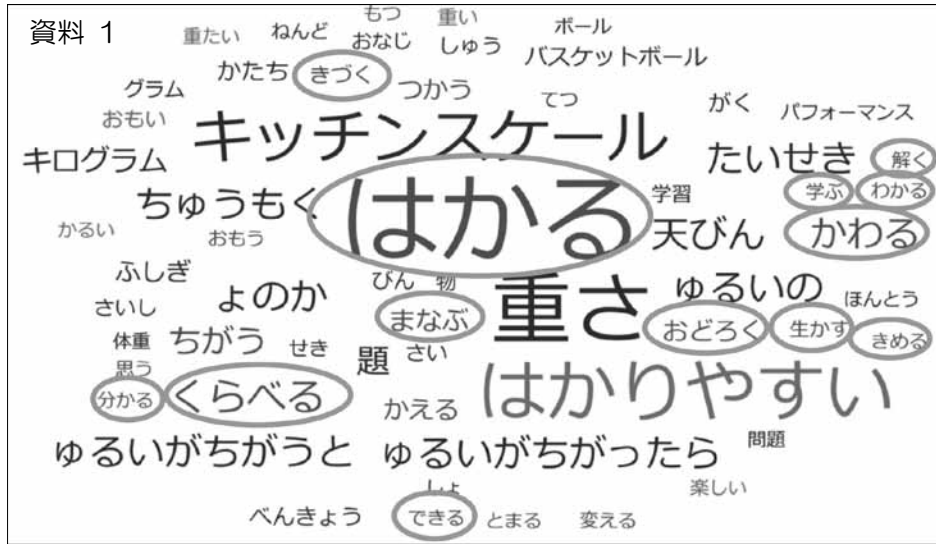
理科の学習では、学習してきたことを生かして、説明することができた。



アンケートの結果から、「そう思う」と回答した子どもが増えた。このことから、今まで学習してきた知識を相互に関連付け、より深く理解しようとする取り組みの様子が伺える。ただし、否定的な回答をしている子どもも増えたことから、自分の考えを文章でまとめる難しさを感じていたのではないだろうかと推察できる。

(3) 単元を振り返っての感想

- 最初にパフォーマンス課題を見たときは、今と意見が違ったけど、物の重さの学習でいろんなことを学んだんだと思いました。
- 最初の課題をしたときはよく分からなかったけれど、体積の学習や、粘土の学習を学んで、最後のパフォーマンス課題が分かりました。
- 他の物もたくさん量ってみたいと思った。形を変えても、物の重さは変わらないことが分かった。上皿天びんでの重さ比べも楽しかった。
- 形が同じで種類が違えば、ものの重さは違うということが分かりました。
- 最初は形を変えたら重さが違うと思っていたけど、同じだったのが驚いた。
- 学習を生かして問題を解くことができたと思います。
- 自分は「これ」とはっきりと決めることができた。



資料1はアンケートの感想から、出現頻度の高い言葉を大きく表示したものである。今回の単元の中核になる「量る」という言葉の出現率が一番高い。それと同時に、動詞に着目すると「比べる」や「変わる」という学習内容に関わる言葉と、「学ぶ」「気付く」「分かる」「驚く」「生かす」など単元の学習を通して感じたことを表す言葉が表出された。子どもたちの感想からも、今単元を通して、深く理解しようとする姿につながったと捉えることができる。

(4) ワークシートなどから

これは、ある子どもの3時間目の実験後の予想シートとパフォーマンス課題の回答である。3時間目終了後の予想シートでは、写真を見て書いていただけ、もしくは何も書いていないのに対し、パフォーマンス課題に取り組んだ際には、学習したことを生かしたことが伺える記述内容になっている。

【3時間目の予想シート】

Bの重さは、Aの重さにくらべてどうですか？ ①

A と B

重い ・ 同じ

軽い ・ ?

書ける人は、理由やキーワードも書いてみましょう！

しゃがんだだけだから

Dの重さは、Aの重さにくらべてどうですか？ ①

A と D

重い ・ 同じ

軽い ・ ?

書ける人は、理由やキーワードも書いてみましょう！

【パフォーマンス課題のワークシート】

① Bの重さは、Aの重さにくらべてどうなるでしょうか。

Aより重い ① 同じ Aより軽い

【理由】

形をかえてもものの重さはかわらないから

② 同じ体積のボール(バスケットボールとメディシンボール)を持っています。Dの重さは、Aの重さにくらべてどうなるでしょうか。

Aより重い ① 同じ Aより軽い

【理由】

ボールを持っているのは、いっしょだけとボールのゆるいがちがうから重さはちがう

4 共同研究員による単元計画例

(1) 単元計画について

単元計画例（小学校）は十勝教育研究所のホームページからダウンロードすることができます。（<https://www.tokyoken.net>）



研究所名	共同研究員	学年	教科	単元名	ページ
音更町教育研究所	日水 直樹	2年	体育科	器械・器具を使っでの運動遊び（マットを使った運動遊び）	P22
新得町教育研究所	市原 秀樹	5年	外国語科	Lesson 5 I can run fast.	P23
清水町教育研究所	吉田 哲朗	5年	音楽科	オーケストラのみりよく	P23
更別村教育研究所	岩田 浩平	4年	図画工作科	コロコロガーレ（コロコロワールド）	P24
大樹町教育研究所	齊藤 織斗	5年	体育科	ゴール型ゲーム（バスケットボール）	P24
広尾町教育研究所	森岡 達昭	5年	理科	ふりこ	P25
池田町教育研究所	中田 和行	6年	社会科	戦国の世から天下統一へ	P25

教科名	小学校 体育科	学年	2学年
単元名	器械・器具を使っでの運動遊び （マットを使った運動遊び）	児童数	65名
		授業者	日水 直樹
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿			
④ 思いや考えを基に想像しようとする姿			
2 単元の目標と観点別評価規準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、マットに背中や腹などを着けていろいろな方向に転がったり、手や背中で支えて逆立ちをしたりするなどして遊ぶことができるようにする。</li> <li>・マットを使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。</li> <li>・マットを使った運動遊びに進んで取り組み、順番や決まりを守り、誰とも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。</li> </ul>			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マットを使った運動遊びの行い方を知っている。</li> <li>・マットに背中や腹などを着けていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。</li> <li>・手や背中で支えて体の保持や壁登りの逆立ちをして遊ぶことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マットを使った簡単な遊び方を工夫している。</li> <li>・腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きの中から、動物の動きを選んでいる。</li> <li>・友達の良い動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マットを使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。</li> <li>・順番や決まりを守り誰とも仲よく運動しようとしている。</li> <li>・場の安全に気を付けている。</li> </ul>	
3 単元で働かせる見方・考え方			
回転、支持、逆さの姿勢といったマットを使った運動遊びの特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付ける。			
4 パフォーマンス課題（発表・プリント）			
グループで発表会をしよう！			
これまでの学習の中で楽しかったマット遊びを発表し、友達の発表のよいところを見付け伝えよう。			
※ ゆりかご・背支持倒立・壁登りの逆立ち・動物歩き（イヌ、クマ、アザラシ、ウサギ）・前転がり・後ろ転がりなど			
5 ルーブリック			
A	簡単な遊び方を工夫するとともに、自分の動きをよりよくする方法を考えながら遊び、手の付き方や真っすぐに転がっているなど、友達の良い動きを擬態語や身振りなど多様な表現を用いて具体的に伝えたり、プリントに書いたりすることができる。		
B	簡単な遊び方を工夫するとともに、自分が見たい動きを選んで遊び、友達のよい動きを見付け伝えたり、プリントに書いたりすることができる。		
C	B基準に達していない。		
6 ICTの活用場面と工夫			
マットを使った遊び時に、タブレット端末でタイムシフトカメラを使用し、自分の運動遊びの様子を見られるようにすることで、客観的にどのように運動遊びをしているのかが分かるようにする。			

7 単元の指導と評価の計画（全了時間）		
時間	学習課題（◆） 主な学習活動（○）	評価の観点【】評価規準
1	<p>◆これから勉強することを確かめよう。</p> <p>★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示</p> <p>○ パフォーマンス課題を確認し、単元を見直す。</p> <p>「これから学習する中で楽しかったマット遊びを発表しよう。また、友達の発表のよいところを見付けよう。」</p> <p>「マット遊びの順番や決まりを知って、マット遊びを楽しもう。」</p>	<p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・順番や決まりを守り、誰とも仲よく運動しようとしている。（観察）</li> </ul>
2	<p>◆動物の動きや丸太転がりを楽しもう。</p> <p>○ 安全に気を付けて、マットの準備や片付けを行い、動物の動きや丸太転がり、背支持倒立を楽しむ。</p>	<p>【態・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きの中から、動物の動きを選んでいる。（観察・プリント）</li> <li>【態度】</li> <li>・場の安全に気を付けている。（観察）</li> </ul>
3	<p>◆前転がりを楽しもう。</p> <p>○ ゆりかご・動物歩き（イヌ、クマ、アザラシ、ウサギ）・丸太転がり・背支持倒立などのいろいろなマット遊びを楽しむ。</p> <p>○ 前転がりに挑戦する。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マットに背中や腹などを着けているいろいろな方向に転がって遊ぶことができる。（観察・プリント）</li> </ul>
4	<p>◆後ろ転がりを楽しもう。</p> <p>○ ゆりかご・動物歩き（イヌ、クマ、アザラシ、ウサギ）・丸太転がり・背支持倒立・前転がりなどのいろいろなマット遊びを楽しむ。</p> <p>○ 後ろ転がりに挑戦する。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マットに背中や腹などを着けているいろいろな方向に転がって遊ぶことができる。（観察・プリント）</li> </ul>
5	<p>◆壁登りの逆立ちを楽しもう。</p> <p>○ ゆりかご・動物歩き（イヌ、クマ、アザラシ、ウサギ）・丸太転がり・背支持倒立・前転がり・後ろ転がりなどのいろいろなマット遊びを楽しむ。</p> <p>○ 壁登りの逆立ちに挑戦する。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手や背中で支えて体の保持や壁登りの逆立ちをして遊ぶことができる。（観察・プリント）</li> </ul>
6	<p>◆いろいろな遊び方に挑戦して楽しもう。</p> <p>★ICTの活用</p> <p>○ いろいろな遊び方を楽しみながら、自分ができるようになったことを確かめたり、友達と遊び方を工夫して楽しんだりする。</p>	<p>【態・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マットを使った簡単な遊び方を工夫している。（観察・プリント）</li> <li>【態度】</li> <li>・マットを使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。（観察）</li> </ul>
7	<p>◆グループで発表会をしよう。</p> <p>○ これまでの学習の中で楽しかったマット遊びを発表し、友達の発表のよいところを見付け伝えよう。</p> <p>★パフォーマンス課題（発表・プリント）</p> <p>○ グループごとにマット遊びの発表会を行う。</p> <p>○ 友達の発表のよいところを見付け、伝え合う。</p>	<p>【知・理】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マットを使った運動遊びの行い方を知っている。（観察）</li> <li>【態・判・表】</li> <li>・友達の良い動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。（観察・プリント）</li> </ul>



教科名	小学校 外国語科	学年	5学年
単元名	Lesson 5 I can run fast.	児童数	42名
		授業者	市原 秀樹
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿			
④ 思いや考えを基に創造しようとする姿			
2 単元目標と観点別評価規準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・できることの伝え方や尋ね方を知って、言うことができる。</li> <li>・自分と相手以外の人を表す三人称 he と she が分かり、言うことができる。</li> <li>・音声で慣れ親しんだ語句を書き写すことができる。</li> <li>・より伝わるような内容や表現の仕方を考え、できることを伝えたり、尋ねたりすることができる。</li> <li>・他者に配慮しながら積極的に話そうとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりする。</li> </ul>			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・できること、できないことの言い方について理解している。</li> <li>・できることやできないことについて尋ねたり、伝えたりすることができる。</li> <li>・できることについて聞き取ったり、話したりすることができる。</li> <li>・自分と目の前の相手以外の人を表す三人称 he と she が分かり、言うことができる。</li> <li>・自分の特技やできることについて、文字をなぞり書きしたり、書き写りしたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分ができることやできないことを考え、友達と伝え合っている。</li> <li>・自分ができることやできないことについて、どのように相手に伝えたらよいか、学習したことを基に考え表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に配慮しながら積極的に自分ができることについて話そうとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりしている。</li> </ul>	
3 単元で働かせる「見方・考え方」			
自分ができること（できないこと）を伝えるために、どのように相手に伝えたらよいか、考え表現する。			

4 パフォーマンス課題 (I can.../I can't...を用いた口答テスト)			
自分が「できること」と「できないこと」について紹介しよう。			
また、それをもとに Can you...? の質問に答えよう。			
5 ループリック			
	① Volume/Speed に関すること	② Performance に関すること	③ Attitude に関すること
A	① 相手に伝わる声の大きさを、はっきりと話しているよ。相手に伝わるように話す速さも調節しているね。	② 学習した単語や表現を使って、「できること」や「できないこと」を伝えたり、答えたりしているね。	③ 効果的なジェスチャーやリアクションを加え、聞き手に視線を振りながら、進んで話すことができたね。
B	① 相手に伝わる声の大きさを速く話しているよ。	② 学習した単語や表現を使って、「できること」や「できないこと」を伝えているね。	③ ジェスチャーやアイコンタクトを交えながら、進んで話すことができたね。
C	① 相手に伝わる声の大きさを速く話してみよう。	② 「できること」や「できないこと」をどのように伝えたらよいか、今までの学習をたしかめてみよう。	③ ジェスチャーなどを交えながら、自信をもって話せるようにがんばろう。
6 ICTの活用場面と工夫			
※ 「深い学び」に向かう子どもを育むためのICTの活用場面はありません。			

教科名	小学校 音楽科	学年	5学年
題材名	B 鑑賞 オークストラのみりよく	児童数	23名
		授業者	吉田 哲朗
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿			
④ 思いや考えを基に創造しようとする姿			
2 題材の目標と観点別評価規準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と楽器群の響きなど音楽の構造との関わりについて理解する。</li> <li>・音色、音の重なり、旋律、反復、変化などを聞き取り、それらのよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、聞き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見だし、曲全体を味わって聴く。</li> <li>・楽器群の響きや作品の背景に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組む、オーケストラの音楽に親しむ。</li> </ul>			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と楽器群の響きなど音楽の構造との関わりについて理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音色、音の重なり、旋律、反復、変化などを聞き取り、それらのよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、聞き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見だし、曲全体を味わって聴いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器群の響きや作品の背景に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組むようとしている。</li> </ul>	
3 題材で働かせる見方・考え方			
オーケストラの音楽を、音色、音の重なり、旋律の反復や変化といった要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情などを関連付ける。			
4 パフォーマンス課題 (ワークシート)			
組曲「カレリア」から「行進曲風」を聴いて、曲の魅力について感想を書こう。			
5 ループリック			
A	曲の音色、音の重なり、旋律、反復、変化など曲の構造や旋律を演奏する主な楽器の変化について多数気付き、それらのよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、自己のイメージや感情と結び付けて、曲や演奏の魅力についてとても具体的な感想を書いている。		
B	曲の音色、音の重なり、旋律、反復、変化など曲の構造や旋律を演奏する主な楽器の変化について気付き、それらのよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、自己のイメージや感情と結び付けて、曲や演奏の魅力について感想を書いている。		
C	B基準に満たないもの。		
6 ICTの活用場面と工夫			
タブレット端末を活用して、それぞれの子どもが曲の気になるところを自由に繰り返し聴くなど、個人の学習のペースに合わせて鑑賞する。			

7 単元の指導と評価の計画 (全7時間)		
時間	学習課題(◆) 主な学習活動(O)	評価の観点【】評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自分のできることやできないことを英語で伝えよう。</li> <li>○ 導入(あいさつ、Warm-up、デモンストレーションなど)</li> <li>○ 単元の見通しをもつ(ゴールの提示)</li> <li>○ Let's Watch</li> <li>○ Let's Listen 1</li> <li>○ Let's Say It Together 1</li> </ul> <b>★パフォーマンス課題・ループリックの提示</b>	【知・技】 ・できること、できないことの言い方について理解している。(観察)
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆できることやできないことについて尋ねたり答えたりしよう。</li> <li>○ 導入(あいさつ、warm-up、めあての確認など)</li> <li>○ Let's Say It Together 2</li> <li>○ Let's Listen 2</li> <li>○ Let's Sing</li> </ul>	【知・技】 ・できることやできないことについて尋ねたり、伝えたりすることができる。(観察・テキスト)
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆できることを詳しく言うためにどんな言葉を使うか学習しよう。</li> <li>○ 導入(あいさつ、warm-up、めあての確認など)</li> <li>○ Let's Listen 3</li> <li>○ Let's Think</li> <li>○ Activity 1</li> </ul>	【知・技】 ・できることについて聞き取ったり、話したりすることができる。(観察・テキスト)
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆三人称 he と she の使い方を覚えて、言ってみよう。</li> <li>○ 導入(あいさつ、warm-up、めあての確認など)</li> <li>○ Let's Listen 4</li> <li>○ Let's Say It Together 3</li> <li>○ シングル・コーナー[M/m, N/n, O/o]</li> </ul>	【知・技】 ・自分と目の前の相手以外の人を表す三人称 he と she が分かり、言うことができる。(観察・テキスト)
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆できること・できないことを尋ねたり答えたりしよう。</li> <li>○ 導入(あいさつ、warm-up、めあての確認など)</li> <li>○ デモンストレーションの確認</li> <li>○ Activity 2</li> <li>○ Sounds and Letters</li> </ul>	【思・判・表】 ・自分ができていることを考え、友達と伝え合っている。(観察・ワークシート)
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自分が伝えたいできること・できないことを選んで、ワークシートに書いてみよう。</li> <li>○ 導入(あいさつ、warm-up、めあての確認など)</li> <li>○ Final Activity</li> </ul>	【知・技】 ・自分の特技やできることについて、文字をなぞり書きしたり、書き写りしたりすることができる。(観察・ワークシート)
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ワークシートをもとに、パフォーマンステストに挑戦しよう。</li> <li>★パフォーマンス課題(ワークシート・口頭試験)</li> <li>★ループリックの活用(評価の仕方を示す)</li> <li>○ 導入(あいさつ、warm-up、めあての確認など)</li> <li>○ デモンストレーションの確認</li> <li>○ HRT・ALT と1対1による会話(パフォーマンステスト)</li> <li>○ Review</li> </ul>	【思・判・表】 ・自分ができることやできないことについて、学習したことを基に考え表現している。(観察・ワークシート)

7 題材の指導と評価の計画 (全3時間)		
時間	学習課題(◆) 主な学習活動(O)	評価の観点【】評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆オーケストラの編成について知ろう。</li> <li>★パフォーマンス課題・ループリックの提示</li> <li>○ オーケストラの楽器の名前や楽器群、編成について知る。</li> <li>○ 組曲「カレリア」から「行進曲風」を、オーケストラの響きを楽しんで聴く。</li> </ul>	【態度】 ・楽器群の響きや作品の背景に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。(観察)
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆旋律の反復と変化に気を付けて聴こう。</li> <li>★ICTの活用</li> <li>○ 「行進曲風」を旋律の反復と変化に気付き、楽器群の音色を捉えて聴く。</li> </ul>	【知・技】 ・「行進曲風」の曲想と、楽器群の響きなど音楽の構造との関わりについて理解している。(ワークシート)
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「行進曲風」を聴いて、曲の魅力について感想を書こう。</li> <li>★パフォーマンス課題(ワークシート)</li> <li>○ 曲の構造や旋律を演奏する主な楽器の変化を捉え、曲全体を聴く。</li> </ul>	【思・判・表】 ・「行進曲風」の音色、音の重なり、旋律、反復、変化などを聞き取り、それらのよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、聞き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見だし、曲全体を味わって聴いている。(ワークシート)

### III 授業実践 (小学校)

教科名	小学校 図画工作科	学 年	4 学年
題材名	コロコロガーレ (コロコロワールド)	児童数	21 名
		授業者	岩田 浩平
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿			
④ 思いや考えを基に創造しようとする姿			
2 題材の目標と観点別評価規準			
・ビー玉を転がしながら、表したいことを見付け、形や色などの感じを捉えながら、材料や用具の使い方を工夫して、楽しいコースをつくる。			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
・ビー玉を転がして楽しく遊ぶものを作るとき感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じなどが分かっている。 ・材料を適切に扱うとともに、これまで用具を活用した経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	・形や色などの組合せによる感じを基に、ビー玉を転がして感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 ・形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	・作り出す喜びを味わい進んでビー玉を転がして楽しく遊ぶものを作る学習活動に取り組もうとしている。	
3 題材で働かせる見方・考え方			
感性や想像力を働かせ、紙材を用いてビー玉を転がして遊ぶものを、形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら遊んで楽しいコースを発想や構想する。			
4 パフォーマンス課題 (作品・ワークシート)			
「コースの形といろいろな仕掛けで、みんなが転がしたくなるコースを作ろう！」			
5 ループリック			
A	ビー玉の転がり方で感じたことや想像したことから、自分のテーマに基づいてみんなが転がしたくなるコースの形と仕掛けになるよう、想像力豊かに紙の曲げ方や組み合わせ方、色などを生かしながら考えている。		
B	ビー玉の転がり方で感じたことや想像したことから、自分のテーマに基づいてみんなが転がしたくなるコースの形と仕掛けになるよう、紙の曲げ方や組み合わせ方、色などを生かしながら考えている。		
C	B 基準を満たしていない。		
6 ICT の活用場面と工夫			
※「深い学び」に向かう子どもを育むための ICT の活用場面はありません。			

教科名	小学校 体育科	学 年	5 学年
単元名	ゴール型ゲーム (バスケットボール)	児童数	21 名
		授業者	齊藤 藤斗
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
③ 問題を見いだして解決策を考えようとする姿			
2 単元の目標と観点別評価規準			
・ゴール型 (バスケットボール) の行い方を知るとともに、ボールの操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。			
・ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を考えたりするとともに、自己や仲間の考えを他者に伝えることができるようにする。			
・運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
・相手のいない位置にボールを運ぶことができる。 ・得点しやすい位置に移動し、パスを受けたり、シュートを打ったりすることができる。	・自己やチームの特徴に応じた作戦を考えている。 ・相手のいない位置にボールを運ぶ動き方の工夫を他者に伝えている。 ・得点しやすい位置に移動し、パスを受けたり、シュートを打ったりする動き方の工夫を他者に伝えている。	・運動に積極的に取り組もうとしている。 ・ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。 ・仲間の考えや取組を認めようとしている。 ・用具の準備や片付けで、役割を果たしている。 ・場や用具の安全に気を配っている。	
3 単元で働かせる見方・考え方			
ボール操作とボールを持たないときの動きによって攻防を組み立てるバスケットボールの特性に注目して、楽しさや喜びとともに自分の動きやチームの特徴に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付ける。			
4 パフォーマンス課題 (ワークシート・発言)			
チームの特徴に応じた作戦を考え、考えたことを他者に伝えよう。 作戦→ (ボールを持っている人、持っていない人の動き方・パスの出し方・守り方など)			
5 ループリック			
A	自己やチームの特徴やゲームの反省を生かした作戦を考え、作戦に応じた動き方の工夫 (相手のいない位置にボールを運ぶ動き方、得点しやすい位置に移動したパスの受け方、シュートを打つための動き方など) を、他者に伝えている。		
B	自己やチームの特徴やゲームの反省を生かした作戦を考え、動き方の工夫 (相手のいない位置にボールを運ぶ動き方、得点しやすい位置に移動したパスの受け方、シュートを打つための動き方など) を、他者に説明することができる。		
C	B の基準を満たしていない。		
6 ICT の活用場面と工夫			
パフォーマンス課題に取り組む際、タブレット端末の録画機能を使い、自分たちの試合の動きを確かめたり、Jamboard を作戦ボードの代わりに使用したりすることで、チームの作戦を考えやすくする。			

時間	学習課題 (◆) 主な学習活動 (○)	評価の観点【】 評価規準
1	◆ビー玉を転がして試しながら、コースを作ってみよう。 ★パフォーマンス課題・ループリックの提示 ○ ビー玉を転がす仕組みに興味をもち、活動の見通しをもつ。 ○ 紙の基本的な操作や仕組みについて理解する。 ○ 紙の曲げ方や組合せ方を試してコースを考えて作る。 ○ 後で作り方を振り返るために、制作したものをシートに貼っていく。	【思・判・表】 ・ビー玉の転がる仕組みから発想し、楽しい転がり方や表したいイメージに合うコースや飾りを考えている。(観察) 【態度】 ・ビー玉を転がす仕組みに興味をもち、活動の見通しをもって取り組もうとしている。(観察・ワークシート)
2	◆作品の仕組みをもとにしてテーマを決めよう。 ○ ビー玉を転がす仕組みを振り返る。 ○ 作りたてのイメージを明確化し、作品のテーマを決める。 ○ テーマに合ったイメージ図を考える。	【思・判・表】 ・ビー玉の転がる仕組みから発想し、楽しい転がり方や表したいイメージに合うコースや飾りを考えている。(ワークシート) 【態度】 ・作り出す喜びを味わい、テーマに合った作品を作る学習活動に取り組もうとしている。(観察・ワークシート)
4 5 6	◆自分のテーマに合った作品を作ろう。 ○ テーマに合った作品になるように、形や色、紙の曲げ方や組合せ方などの表し方を工夫して作る。 ・土台作り ・コース作り ・仕掛け作り 等	【知・技】 ・コースのイメージに合わせて形や色を選びながら、形や色の感じの組合せによる感じが分かっている。(観察、作品) ・表したいことに合わせて、コースや飾りなどの表し方を工夫している。(観察、作品)
7	◆コースの形といろいろな仕掛けで、みんなが転がしたくなるコースを作ろう！ ★パフォーマンス課題 (作品、ワークシート) ○ 今回の題材で学習した技能を用いながら、形や色、材料などを生かして、表したいイメージをどのように表すかについて考えながら作品を完成させ、工夫したところをワークシートに記入する。	【思・判・表】 ・ビー玉の転がり方で感じたことや想像したこと、みんなが転がしたくなるコースの形と仕掛けになるよう、紙の曲げ方や組み合わせ方、色などを生かしながら考えている。(ワークシート) 【態度】 ・作り出す喜びを味わい、テーマに合った作品を作る学習活動に取り組もうとしている。(観察、ワークシート)
8	◆友達の作品のおもしろいところや工夫しているところを伝えよう。 ○ 友達の作品を遊びながら鑑賞する。 ○ お互いの作品のよさや面白いところ、工夫しているところを見付け、伝える。	【思・判・表】 ・友達の作品を見たり動かしたりしながら、作品の造形的なよさや面白さ、いろいろな表し方などを感じ取ったり、考えたりしている。(ワークシート)

時間	学習課題 (◆) 主な学習活動 (○)	評価の観点【】 評価規準
1	◆バスケットボールのルールを知ろう。 ○ 単元のねらいと流れをつかみ、はじめのルールや要素を理解する。 ★パフォーマンス課題・ループリックの提示	【知・技】 ・バスケットボールの行い方を理解している。(観察) 【態度】 ・場や用具の安全に気を配っている。(観察)
2 3	◆基本的な技能を身に付けて、ゲームを楽しもう。 ○ ドリルゲームを行う。 ・ドリブル鬼ごっこ ・パスゲーム ・シュート練習 ○ 振り回り、片付け	【知・技】 ・相手のいない位置にボールを運ぶことができる。(観察) ・得点しやすい位置に移動し、パスを受けたり、シュートを打ったりすることができる。(観察) 【態度】 ・運動に積極的に取り組もうとしている。(観察)
4	◆ハーフコートゲーム (3対2) をして、自分のチームの課題を見付けて作戦を考えよう。 ★ICT の活用 ○ ドリルゲームを行う。 ○ パスゲーム ・シュート練習 ○ ハーフコートゲームを行い、チームの課題を見付ける。 ○ チームで課題に応じた練習方法を考え、練習をする。 ○ 振り回り、片付け	【思・判・表】 ・誰もが楽しくゲームに参加できるようにルールを工夫している。(発言・ワークシート) 【態度】 ・場の設定や用具の片付けなどで、役割を果たそうとしている。(観察)
5	◆チームの特徴に応じた作戦を考え、考えたことを他者に伝えよう。 作戦→ (ボールを持っている人、持っていない人の動き方・パスの出し方・守り方など) ★パフォーマンス課題 (ワークシート・発言) ★ICT の活用 ○ シュート練習 ○ チーム練習 ○ ハーフコートゲーム① ○ チームで作戦会議を行い、課題を明確にする。 ○ ハーフコートゲーム② ○ 振り回り、片付け	【思・判・表】 ・相手のいない位置にボールを運ぶ動き方の工夫を他者に伝えている。(ワークシート・発言) ・得点しやすい位置に移動し、パスを受けたり、シュートを打ったりする動き方の工夫を他者に伝えている。(ワークシート・発言) 【態度】 ・仲間の考えや取組を認めようとしている。(観察・発言)
6 7	◆今までの学習を生かし、ゲームをしよう。 ○ チームで作戦を確認する。 ○ ハーフコートゲーム ○ 振り回り、片付け	【知・技】 ・相手のいない位置にボールを運ぶことができる。(観察) ・得点しやすい位置に移動し、パスを受けたり、シュートを打ったりすることができる。(観察) 【思・判・表】 ・自己やチームの特徴に応じた作戦を考えている。(発言・ワークシート) 【態度】 ・ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。(観察)

教科名	小学校 理科	学年	5学年
単元名	ふりこ	児童数	27名
		授業者	森岡 達昭
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿			
③ 問題を見いだして解決策を考えようとする姿			
2 単元の目標と観点別評価規準			
・振り子の1往復する時間に着目して、それらの条件を制御して調べる活動を通して、振り子の1往復する時間が変わる要因についての理解や実験に関する技能を身に付け、予想や仮説を基に解決の方法を発想して表現することができる。			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
・振り子の1往復する時間が変わる要因を理解している。 ・器具などを正しく扱って実験を行い、その結果を適切に記録している。	・振り子の1往復する時間が変わる要因について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。	・振り子の1往復する時間について、進んで関わりながら問題解決しようとしている。 ・振り子の1往復する時間について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。	
3 単元で働かせる見方・考え方			
振り子の1往復する時間について、量的・関係的な視点（おもりの重さ、振り子の長さ、振れ幅などの条件）で捉え、比較したり、関連付けたりして科学的に探究する方法を用いて考察する。			
4 パフォーマンス課題（実験レポート）			
1往復が1秒のふりこを作り、作り方を実験レポートにまとめよう。			
5 ループリック			
A	振り子の1往復する時間が変わる要因（振り子の長さを変えると1往復する時間が変わること）を基に、「1秒振り子」を作成する方法について予想や仮説を発想し、条件を制御した計画に沿って実験を行い、得られた実験結果から考察するなどして問題解決している。		
B	「1秒振り子」を作成する方法について予想や仮説を発想し、得られた実験結果から考察したりするなどして問題解決している。		
C	Bの基準を満たしていない（実験レポートを完成できない）。「1秒振り子」を完成することができない。		
6 ICTの活用の場面と工夫			
「1秒振り子」を動画で撮影し、Teamsで動画と実験レポートの画像を交流し合う。			

7 単元の指導と評価の計画（全8時間）	学習課題（◆）	主な学習活動（○）	評価の観点【】評価規準
1	◆自分でふりこを作って、音楽に合わせて動かそう。	○ 振り子の概念を知る。 ○ 糸と消しゴムなどを使って振り子を作る。 ○ 色々な音楽を流し、曲に合わせて振り子を動かす。 ★パフォーマンス課題・ループリックの提示	【態度】 ・振り子の規則性について興味をもち、進んで活動に取り組みちうとしている。（観察）
2	◆いろいろなふりこを作ろう。	○ 長さを変えた振り子を作る。 ○ 色々な重さのおもりを使って振り子を作る。 ○ それぞれの振り子を音楽に合わせて揺らす。 ○ 気付いたことを話し合う。	【知・技】 ・振り子の1往復する時間のきまりを確かめ、その結果を適切に記録している。（ノート）
3	◆ふりこの1往復する時間は、何によって変わるのか。	○ 振り子の1往復する時間には何が関係しているのか予想する。 ○ 予想したことを交流し、実験で変える条件を整理する。 ○ どのような実験をするよいかを考え交流し、実験方法を整理する。	【思・判・表】 ・振り子の1往復する時間のきまりについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。（ノート）
4	◆ふりこの長さが30cmと60cmのとき、ふりこの1往復する時間を調べよう。	○ 実験の結果を予想する。 ○ 振り子実験装置を使って、条件を変えながら振り子の1往復する時間を調べる。 ○ 実験結果を記録し、予想と比べながら結果について話し合う。 ○ 結果から分かることを話し合い、整理する。	【知・技】 ・振り子の1往復する時間のきまりを確かめ、その結果を適切に記録している。（ノート） 【思・判・表】 ・振り子の1往復する時間のきまりについて、実験の結果を基に考察し、表現している。（ノート）
5	◆ふりこの重さがおもり1個と2個のとき、ふりこの1往復する時間を調べよう。	○ 実験の結果を予想する。 ○ 振り子実験装置を使って、条件を変えながら振り子の1往復する時間を調べる。 ○ 実験結果を記録し、予想と比べながら結果について話し合う。 ○ 結果から分かることを話し合い、整理する。	【知・技】 ・振り子の1往復する時間のきまりを確かめ、その結果を適切に記録している。（ノート） 【思・判・表】 ・振り子の1往復する時間のきまりについて、実験の結果を基に考察し、表現している。（ノート）
6	◆ふりこのふれはばが10°と20°のとき、ふりこの1往復する時間を調べよう。	○ 実験の結果を予想する。 ○ 振り子実験装置を使って、条件を変えながら振り子の1往復する時間を調べる。 ○ 実験結果を記録し、予想と比べながら結果について話し合う。 ○ 結果から分かることを話し合い、整理する。	【知・技】 ・振り子の1往復する時間のきまりを確かめ、その結果を適切に記録している。（ノート） 【思・判・表】 ・振り子の1往復する時間のきまりについて、実験の結果を基に考察し、表現している。（ノート）
7・8	◆1往復が1秒のふりこを作り、作り方を実験レポートにまとめよう。 ★パフォーマンス課題（実験レポート）・ICTの活用	○ 1秒振り子を完成させる。 ○ 完成の段階で、振り子の長さ10往復した時間を記録する。 ○ どのような考え方で1秒振り子を完成させたか、実験レポートを書く。 ○ 1秒振り子の動画と、レポートの画像を撮影し、Teams上で交流する。	【知・技】 ・振り子の1往復する時間は、おもりの重さや振り子の振れ幅によって変わらず、振り子の長さによって変わることを理解している。（レポート） 【思・判・表】 ・振り子の1往復する時間のきまりについて、今までの実験を基に課題の解決方法を発想し、実験レポートにまとめ表現している。（実験レポート） 【態度】 ・学んだことを基に、進んで関わりながら課題解決しようとしている。（実験レポート）

教科名	小学校 社会科	学年	6学年
単元名	戦国の世から天下統一へ	児童数	32名
		授業者	中田 和行
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿			
② 情報を精査して考えを形成しようとする姿			
2 単元の目標と観点別評価規準			
・我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、地図や年表、その他の資料で調べ、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、表現することを通して、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、地図や年表、その他の資料で調べ、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について考え表現している。 ・キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を関連付けたり総合したりして、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、適切に表現している。	・世の中の様子、人物の働きや文化遺産などに着目して、問いを見いだし、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について考え表現している。 ・キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を関連付けたり総合したりして、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、適切に表現している。	・キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。	
3 単元で働かせる見方・考え方			
戦国の世の統一を果たした二人の武将の役割を、外国との関わりや、戦いの様子、政治の様子に着目して地図や年表、その他の資料で調べ、関連付けたり総合したりして考える。			
4 パフォーマンス課題（ポスター）			
「天下統一に向けての働きがより大きかったのは、信長か秀吉のどちらか」をテーマに、自分の考えをポスター（Google Jamboard）にまとめよう。			
5 ループリック			
A	二人の武将の天下統一に向けた働きを、外国との関わりや戦いの様子、政治の様子に基づいて深く考え、比較したり総合したりしながら、適切に表現している。		
B	織田信長と豊臣秀吉、二人の武将の天下統一に向けた働きを、学習したことに基づいて考え、表現している。		
C	Bの基準を満たしていない。		
6 ICTの活用の場面と工夫			
タブレット端末（Google Jamboard）を活用して、自分の考えをポスターに表し、お互いのポスターを見せ合い、交流する。			

7 単元の指導と評価の計画（全7時間）	学習課題（◆）	主な学習活動（○）	評価の観点【】評価規準
1	◆戦国の世の戦いの様子について調べよう。	○ 戦国の世の戦いの様子について、教科書の本文や資料を基に読み取り、発表する。	【知・技】 ・必要な情報を読み取り、戦国大名が各地で戦いを続ける戦国の世となり、織田信長が力を発揮するようになったことを理解している。（発言・ノート）
2	◆戦国の世、日本と外国にはどのようなつながりがあったのか調べよう。	○ 戦国時代の日本が外国とどのような関わりがあったのかを、資料を基に調べる。 ○ ヨーロッパの進んだ文化や品物が入ってきて、日本にはどのような影響があったのかを資料やグラフを見て調べる。	【知・技】 ・必要な情報を集め、読み取り、キリスト教の伝来など外国との関わりが、日本にさまざまな影響を与えたことについて理解している。（発言・ノート）
3	◆二人の武将の天下統一に向けた働きを読み取りながら学習問題をつくり、学習計画を立てよう。	○ 年表や資料を参考にしながら、織田信長や豊臣秀吉の天下統一に向けた活躍を知り、学習問題をつくる。 ○ 二人の年表を比較しながら読み取り、政治や戦い方、外国との関わりなどの視点から、共通点や相違点を見付ける。 ★パフォーマンス課題・ループリックの提示	【思・判・表】 ・織田信長、豊臣秀吉の働きや外国との関わりに着目して、二人の武将の政策について共通点や相違点を見いだしている。（発言・ノート） 【態度】 ・学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもとうとしている。（発言・ノート）
4	◆織田信長の天下統一に向けた政策を調べよう。	○ 織田信長の天下統一に向けた戦い方や政治の様子を調べる。 ○ 学習したことを文章や図にまとめる。	【知・技】 ・必要な情報を読み取り、織田信長が有力な大名を倒して天下統一を進めていたことを理解している。（発言・ノート）
5	◆豊臣秀吉の天下統一に向けた政策を調べよう。	○ 豊臣秀吉の天下統一に向けた戦い方や政治の様子を調べる。 ○ 学習したことを文章や図にまとめる。	【知・技】 ・必要な情報を読み取り、豊臣秀吉が世の中を支配する仕組みをつくらせて天下統一したことについて理解している。（発言・ノート）
6	◆「天下統一に向けての働きがより大きかったのは、信長か秀吉のどちらか」をテーマに、自分の考えをポスターにまとめよう。	★パフォーマンス課題（ポスター）・ICTの活用 ○ 「天下統一に向けて働きがより大きかったのは織田信長、豊臣秀吉のどちらか」をテーマにポスター（Google Jamboard）を作る。	【思・判・表】 ・戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、表現している。（ポスター）
7	◆天下統一を進めた二人の武将の働きについて、考えをまとめ発表しよう。	○ 「天下統一に向けて働きがより大きかったのは織田信長、豊臣秀吉のどちらか」をテーマに作成したポスター（Google Jamboard）をグループごとに見せ合い、感想を交流し合う。	【態度】 ・キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について、学習を振り返って学習問題を追究し、解決しようとしている。（ノート）






## IV 授業実践（中学校）

## 1 単元計画

教科名	中学校 国語科		学 年	3学年
単元名	『async-同期しないこと』 / 『問いかける言葉』		生徒数	40名
			授業者	佐藤 悠樹
1 「深い学び」に向かう子どもの姿				
④ 思いや考えを基に創造しようとする姿				
2 単元の目標と観点別評価規準				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例と主張とを関係付けて読むことができる。</li> <li>・文章を読み、社会や他者との関わりについて自分の考えを広げたり深めたりすることができる。</li> <li>・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>				
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの筆者がどのようなことを主張のよりどころとしているかを捉え、文章の理解を深めている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、それぞれの筆者が社会についてどのように考えているのかを読み、情報を比較する中で、考えを広げたり深めたりして、社会の捉え方、社会との関わり方について、自分の意見をもっている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強く文章を読んで社会に対する自分の考えを深め、学習課題に沿って考えたことをまとめようとしている。</li> </ul>
3 単元で働かせる見方・考え方				
筆者が述べる主張とその根拠となる情報に着目し、社会の捉え方や社会との関わりを2つの論説の情報を比較しながら考える。				
4 パフォーマンス課題（ワークシート）				
これから高校進学や就職など社会に飛び立つ皆さんは、社会や人とのどのように関わっていきますか。2つの教材から得た知識や「不寛容」などの言葉から得たそれぞれの筆者のものの見方や考え方を踏まえて、社会や人との関わり方について、自分の考えをまとめましょう。				
5 ルーブリック				
A	Bに加え、ものの見方や考え方に対して共感できる点や疑問に思う点、賛同できない点など、自己の経験（見たり聞いたりした内容も含む）を踏まえ論理的な文章にまとめている。			
B	2つの論説で捉えた筆者の考えを比較し、共通点・相違点をまとめた上で、社会や人との関わり方について自分の考えをまとめている。			
C	Bの基準を満たしていない（主張と自分の意見に矛盾があるなど）。			
6 ICTの活用場面と工夫				
Mentimeter：各個人の考えの可視化することで、考えの交流をしながら、本作品の課題の焦点化を図る。 PowerPoint：共同編集機能を活用し、グループでの考えを深化させるとともに、主体的な課題解決活動を目指す。				

7 単元の指導と評価の計画 (全7時間)		
時間	学習課題 (◆) 主な学習活動 (○)	評価の観点【 】評価規準
1	<p>○ 「学びナビ」を読み、今回の単元で付けたい力について確認する。 単元を通した課題 《筆者の主張のよりどころを捉え、比較読みしながら自分の考えをもち、深める。》</p> <p>◆筆者の主張とその根拠、本文中のキーワードに着目しながら本文を読もう。</p> <p>★ICTの活用 (Mentimeter)</p> <p>○ Mentimeter を利用し、短文やキーワードを見合いながら、考えを交流する。</p> <p>★パフォーマンス課題・ループリックの提示</p> <p>○ シラバスとパフォーマンス課題、ループリックを確認し、単元を見通す。</p> <p>○ 本文を通読し、主張とその根拠を捉える。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本文を通読し、主張の根拠になることを、それぞれの筆者がどのようなことをよりどころとしているか捉え、ワークシートを活用しながら文章を理解している。(ワークシート)</li> </ul> <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>粘り強く文章を読んで社会に対する自分の考えを深め、学習課題に沿って考えたことにまとめようとしている。(観察)</li> </ul>
2 ・ 3	<p>◆文章の内容を、表現の仕方に注意しながら整理しよう。</p> <p>○ ワークシートを使用しながら、『async-同期しないこと』『問いかける言葉』の内容をそれぞれまとめる。</p> <p>○ 必要に応じて、1時間目に出てきたキーワードなどを取り上げ、確認する。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの筆者がどのようなことを根拠にして、それぞれの主張を述べているか捉え、文章の理解を深めている。(ワークシート)</li> </ul>
4 ・ 5	<p>◆それぞれの筆者のものの見方や考え方と1時間目に挙げた課題となる言葉に着目し、どのような意味で使われているか考える。</p> <p>★ICTの活用 (PowerPoint)</p> <p>○ PowerPoint を利用し、グループで言葉に着目した内容をまとめ、交流する。</p> <p>★ループリックの活用</p> <p>○ 交流した内容を生かし、パフォーマンス課題に取り組む。</p>	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」において、それぞれの筆者が社会についてどのように考えているのか、言葉に着目することによって考えを広げたり深めたりして、筆者の考える社会の捉え方、社会との関わり方について、考えをまとめている。(ワークシート)</li> </ul>
6 ・ 7	<p>◆それぞれの筆者のものの見方や考え方を比較し、自分の社会や人に関する考えをまとめよう。</p> <p>★パフォーマンス課題 (ワークシート)・ループリックの活用</p> <p>6時間目</p> <p>○ 前時から取り組んできたワークシートを見直したり、修正したりする。</p> <p>7時間目</p> <p>○ 全体で交流し、他者の意見と自分の意見を比較する。 ※ 交流の際には、観点を記載した短冊を用意し、相互評価を行う。</p> <p>○ 周りから得られた意見から、自分の考えを更に深める。 ※ 得られた評価や他者の意見を読んだ上で、自分の成果物を見直し、推敲していく。</p> <p>※適宜、次時以降において課題のフィードバックを行う。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主張の根拠になることを、それぞれの筆者がどのようなことをよりどころとしているか捉え、文章中で自分の言葉で説明できている。(ワークシート)</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」において、前時までにとまとめた情報を基に、情報を比較・整理し、自分の社会に対する考えを広げたり深めたりして、社会の捉え方、社会との関わり方について、自分の意見をもっている。(ワークシート)</li> </ul> <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>粘り強く文章を読んで社会に対する自分の考えを深め、学習課題に沿って考えたことをまとめようとしている。(観察)</li> </ul>

2 授業記録

8 細案 授業実践 (1 / 7時)		
本時の目標	評価規準	
筆者の主張とその根拠、本文中のキーワードに着目しながら本文を読む。	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本文を通読し、主張の根拠になることを、それぞれの筆者がどのようなことをよりどころとしているか捉え、ワークシートを活用しながら文章を理解している。(ワークシート)</li> </ul> <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>粘り強く文章を読んで社会に対する自分の考えを深め、学習課題に沿って考えたことをまとめようとしている。(観察)</li> </ul>	
具体的な子どもの姿 学習課題 (◆) 主な学習活動 (○)	教師の手立て	
見通す (単元)	<p>○ <u>教科書の「学びナビ」を読み、今単元で付ける力を確認しながら、単元を通した課題を確認する。</u></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 筆者の主張のよりどころを捉え、比較読みしながら自分の考えをもち、深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的な文章に関する既習事項を確認する。</li> <li>・シラバスを提示し、本単元に必要な見方・考え方を説明し、これから身に付ける力について見通しをもたせる。</li> </ul>
	<p>○ <u>本時の学習課題を確認する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 筆者の主張とその根拠、本文中のキーワードに着目しながら本文を読もう。</li> </ul>	
	<p>○ <u>『async—同期しないこと』『問いかける言葉』を通読する。</u></p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-right: 10px;"> <p>不寛容という言葉はどちらにも書かれているな。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-left: 10px;"> <p>この音楽の話は、人間社会と同じということか。</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文中のキーワード（筆者の考えの中心となる語句や社会との関わりに関する語句）だと思うところに線を引きながら通読するよう指示する。</li> </ul>
	<p>○ <u>筆者の考えの中心となる語句や社会との関わりに関する語句を抜き出し、Mentimeter を使って可視化する。</u></p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">  ICTの活用         </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>中心にあるのが、「同期」ですね。また、あちこちに書かれています。どのように使われていましたか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「同期しない音を聞くことが大切」って書いている人も多いな。</p> </div> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員の考えを可視化することで、子どもが友達の考えと比較したり、教師が全体で考えを共有したりしながら、次の学習活動へつなげる。</li> </ul>
探究する		

探究する

○ 「同期」や「不寛容」が、どういう意味で使われているのか、ペアや全体で考える。

- ・辞書を使って調べたり、教材文から考えたりする。

「寛容」は心が広く、人の考えを受け入れることだから…。



「同期」って音を合わせること？他の人に合わせること？「不寛容」は？



みなさんが考えてくれた言葉や「不寛容」「新しい」という言葉を課題にして、今後2つの教材を比較して考えをまとめていく学習になります。

○ パフォーマンス課題とループリックについて知る。

- ・本時の学習課題とのつながりを意識しながらパフォーマンス課題を説明する。
- ・パフォーマンス課題とループリックを活用し、これから学習することや、単元の終わりにはどのような力を身に付けていくか、学習に対する見通しがもてるようにする。

【パフォーマンス課題】

これから高校進学や就職など社会に飛び立つ皆さんは、社会や人とのように関わっていきますか。2つの教材から得た知識や「不寛容」などの言葉から得たそれぞれの筆者のものの見方や考え方を踏まえて、社会や人との関わり方について、自分の考えをまとめましょう。

ループリック	
A	Bに加え、ものの見方や考え方に対して共感できる点や疑問に思う点、賛同できない点など、自己の経験(見たり聞いたりした内容も含む)を踏まえ論理的な文章にまとめている。
B	2つの論説で捉えた筆者の考えを比較し、共通点・相違点をまとめた上で、社会や人との関わり方について自分の考えをまとめている。
C	Bの基準を満たしていない(主張と自分の意見に矛盾があるなど)。

今回のパフォーマンス課題では、「筆者の考えを比較して」というのがB評価になりますが、A評価になるためには「共感できる点や疑問に思う点」など、自分の経験を踏まえて論理的な文章に…。



社会や人との関わりって  
どういうことかな。






筆者の考えに対して、自分の考えを整理しながら読み進めるといいんだな。

○ 本時の振り返り

- ・次回からの学びにつなげる。

見通す(単元)

8 細案 授業実践 (5 / 7 時)	
本時の目標	評価規準
それぞれの筆者のものの見方や考え方と1時間目に挙げた課題となる言葉に着目し、どのような意味で使われているか考える。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、それぞれの筆者が社会についてどのように考えているのか、言葉に着目することによって考えを広げたり深めたりして、筆者の考える社会の捉え方、社会との関わり方について、考えをまとめている。(ワークシート)
具体的な子どもの姿 学習課題 (◆) 主な学習活動 (○)	教師の手立て
<p>※ 前時では、『async』と『問いかける言葉』における「不寛容」と「新しい」という言葉が、本文中でどのような働きや効果をもつのか、また筆者の考えや思いなどをまとめる活動をグループで行っています。</p> <p>○ <u>課題を確認する。</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆ それぞれの筆者のものの見方や考え方と1時間目に挙げた課題となる言葉に着目し、どのような意味で使われているか考えよう。</p> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; font-size: 2em; margin-right: 10px;">見通す</div> <div style="flex: 1;">  <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本日は交流になります。他のグループの考えを聞いて、自分たちの内容についても再度振り返りをしましょう。まずは、説明の準備をしてください。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>4グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 『async』の「不寛容」</li> <li>② 『async』の「新しい」</li> <li>③ 『問いかける言葉』の「不寛容」</li> <li>④ 『問いかける言葉』の「新しい」</li> </ul> </div> </div> </div> <p>○ <u>前時から取り組んできたまとめた内容をグループで確認し、説明する準備をする。</u>          プレゼンテーションソフトの共同編集機能を活用しながら、ワークシートを見直したり、修正したりする。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; display: inline-block; text-align: center;">  ICTの活用       </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>ワークシートの構成</b></p> <p>①本文中の働きや効果    ②筆者の思いや考え    ③+@ (考えて見たい課題となる言葉)</p> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; font-size: 2em; margin-right: 10px;">探究する</div> <div style="flex: 1;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「問いを出し続けることで他人の意見への興味や尊重を生み、同時に自分の考えの確立や立場の再確認することができるのでは」というところは、みんなに伝えよう。</p> </div> <div style="display: flex;">  <div style="margin-left: 10px;"> <div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px;"> <p><b>筆者の思い</b></p> <p>「問いを出し続けることがとても重要なこと」</p> <p>→言葉による問いかけには、閉じた世界に異質なものを投げ込み、新しい風を吹き込むことで、その閉じている世界を開いていく力があるのです。</p> <p><b>考察</b></p> <p>上記のことから、筆者は現代社会の固執した考え方に疑問を感じており、それを筆者の考えである「問いかける言葉」によって変える(新しい風を吹き込む)ことを目指している。これは明確である。</p> <p>筆者はこの作品を通して読者へ、固執した概念に捉われることの恐ろしさと、新たな世界を見出すことの楽しさを伝えようとしているようにも感じた。</p> <p>問いを出し続けることで他人の意見への興味や尊重を生み、それと同時に自分の考えの確立や立場の再確認をすることができるのではないかと考えた。</p> </div> </div> </div> </div> </div>	



○ グループのメンバーを変えて交流する。

4人1グループになり、各グループで作成した資料を共有しながら、考えを伝え合う。説明を聞きながら、他のグループの考えをワークシートに書き留める。発表後は、全員が1つは質問する。



- ・作成したプレゼンテーションやワークシートを活用しながら取り組むようにする。

探究する



『async』の筆者の思いとして、「新しい音楽」とは、他人の個性を表していて、「新しい音楽を聞くこと」を、様々な個性を認め合うことが必要であることを表していると考えました。

それは、「同期」との違いをどう捉えていますか。



○ ループリックを再確認し、次時に行うパフォーマンス課題への見通しをもつ。

まとめていく中で、すごく本文を読み深めることができたのではないのでしょうか。

共通点や相違点、共感できる点や納得できないところもあったと思います。

いよいよ、次はパフォーマンス課題に取り組みます。…



振り返る

筆者の共通点や相違点は、交流を通して明確になったよね。私は、あの経験について書こうかな。今回は、Aを目指して頑張れそうだ。



これから社会に出た時には、他者の意見に耳を傾けながらも自分の意見をもつことが大事だよな…。

○ パフォーマンス課題に取り組み始める。



- ・作成したプレゼンテーションやワークシートを活用しながら取り組むようにする。

疑問に思う点として、時には共感することも必要だと思うな。



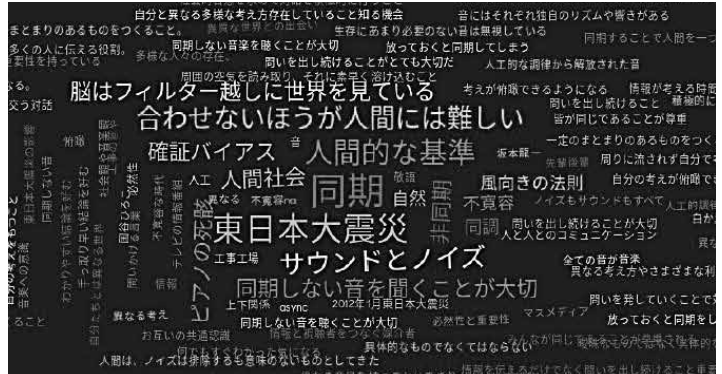
本当の気持ちに嘘をついて、周りの意見に合わせたことあったな。

探究する

### 3 ICTの活用場面と工夫

#### (1) Mentimeter（メンチメーター）

授業実践1では、2つの教材を通読したあと、筆者の考えの中心となる語句や社会との関わりのある語句を抜き出す学習場面がある。MentimeterのWord Cloudの機能を使い、タブレット端末から語句を打ち込むと、リアルタイムに大型TVに子どもたちの考えが表示され、かつ出現頻度の高いものは大きく表示される。個々の考えを可視化し、全体で表示画面を見ながら課題の焦点化をすることをねらいとした。



#### (2) PowerPoint

2時間目以降では、グループに分かれ、教材文で着目した言葉について考えをまとめ、交流する際にパワーポイントを活用した。共同編集機能を活用することで、作業の効率化を図るとともに、グループで考えを深めていくことをねらいとした主体的な課題解決活動である。また、ファイルを共有することができるため、他のグループのスライドを見ながら、考えを交流することとした。

パワーポイントの共同編集機能を生かしたグループ学習は対話を促進し、より深い理解へ向かう姿を見ることができた。

**「問いかける言葉」の「新しい」**

はたらき  
「新しい風を吹き込む」や「異質なものととの出会い」という言葉から自分と異なるものによって特別なものが生まれると表現している

・効果  
『何か嫌に落ちないという思い』『何かがおかしい』などといった疑問を持って語り掛けるで、人と人との繋がりが『新しくなり、そこで対話が発生する。また互いの価値観を共有し合うこと新しい風を吹き込むこと』で、自分自身の思考の視野を広げ、今までに考えつかなかったことまでも生み出すことができる。  
(閉じている世界を開いていくことができる)  
⇒問いかける ⇒新たな出会い⇒視野が広がる

**筆者の思い**

- ・自分と考えが違うからと言って拒絶するのではなく、違うものを受け入れるべきという思い。  
(異質な世界との出会い)
- ・反対意見を無視せず、ちゃんと聞くべきという思い。
- ・もっと違う意見、違う世界を自分から求めるべきという思い。

(『チグハグ』の歌詞みたいな世界になってほしいと思っている。)

**+α(確認バイアス)**

意味：確認バイアスとは、認知心理学や社会心理学における用語、仮説や信念を検証する際にそれを支持する情報ばかりを集め、反証する情報を無視または集めようとする傾向のこと。

- ・確認バイアスの影響で自分の意思とは関係なく、無意識のうちに違う意見・世界を遠ざけている
- ・インターネットなどによって一人一人が膨大な情報に直接に接するようになって以降、人々の間に広がっている

↓ 結果として

- ・多様な人々の存在、自分とは異なる多様な考え方が存在していることを知る機会、異質なものととの出会いが次第に少なくなっていく。  
(筆者の思いとは反対の方向へと進んで行く)



## 4 研究内容の検証

## (1) 子どもの見取り・聞き取り

## ① 授業実践 1



## ○ 授業中の様子より

単元の1時間目に、教材文の中心となるキーワードについて考え、全体で共有したことで、今単元の課題とパフォーマンス課題が明確になっていた。また、必要感あるパフォーマンス課題を提示したことで、自分事として捉え、明確な見通しをもつとともに、意欲の向上につながっていた。

## ○ インタビューより

この単元ではどのようなことを学習するか、分かりましたか。

二人の筆者の考えを深く読むことです。



学習の途中でどのようなことを考えながら学習を進めていきますか。

筆者の意見を明確にしたり、筆者の意見に対して自分の考えをもったりしながら学習していけばいいと思います。

## ② 授業実践 2



## ○ 授業中の様子より

前時より取り組んでいたワークシートの質が高く、異なるテーマのグループと共有したことで、それぞれの筆者の共通点と差異点が明確になっていた。パフォーマンス課題に対してどのように取り組めばよいのかを、ワークシートとループリックを参考に考えることができていた。

## ○ インタビューより

今までのパフォーマンス課題との違いはありますか。

パワーポイントを活用して、考えをまとめたり、友達の考えを交流したりする時間を作ってくれた。また別のグループに説明するため、個人でしっかり考えなければならなかったため、パフォーマンス課題に取り組みやすくなりました。



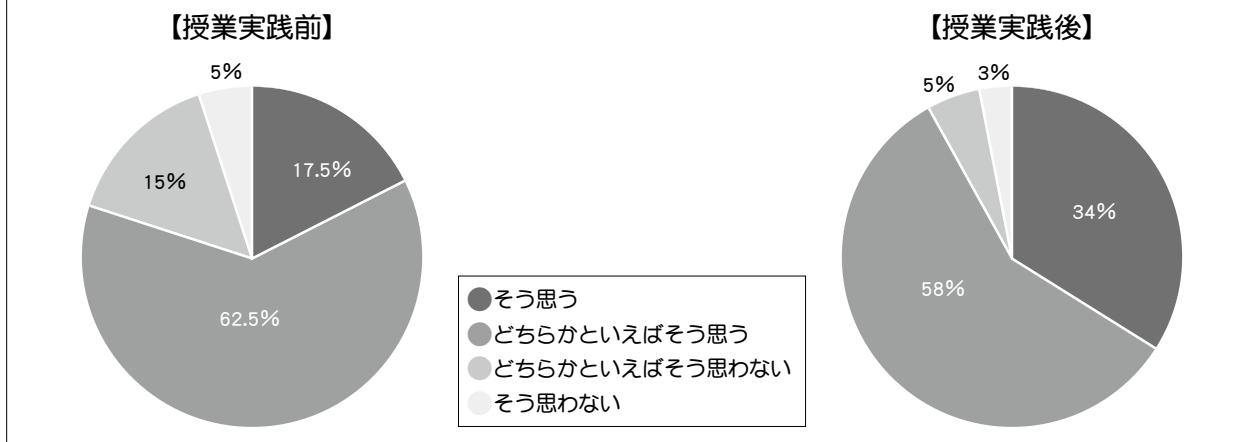
ループリックを自分で活用することはありましたか。

友達とパワーポイントのワークシートを作成するときに、どのようにまとめたらいいか考えるのに使いました。

パフォーマンス課題とループリックを単元の1時間目に提示したり、単元の途中において活用したりしたことで、課題と目標を理解し単元の途中においても意識していたことがうかがえる。また、単元全体を通して、筆者や自分の思いや考えを基に創造しようとする「深い学び」に向かう子どもの姿につなげていくことができたと考えられる。

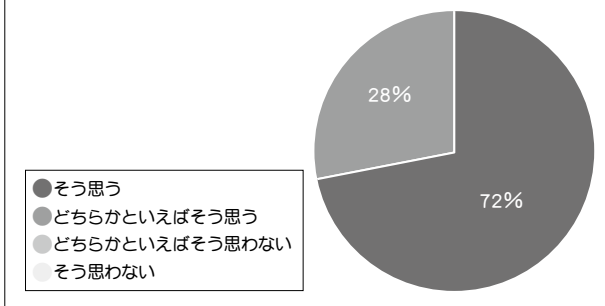
(2) 授業実践前後のアンケート結果から

理科の学習では、学習の途中や終わりに、それまでに自分ができるようになったことを、確かめることができていた。

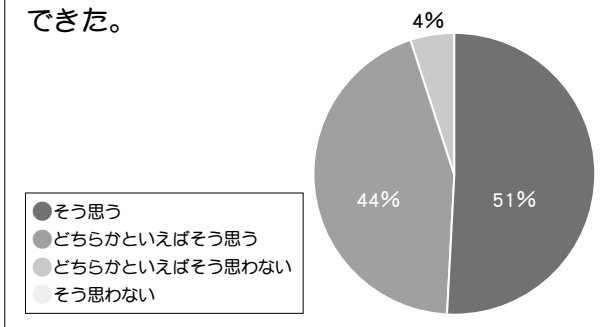


アンケートの結果から、実践前に比べ「そう思う」と回答した子どもが大幅に増え、全体として9割以上の生徒が肯定的な回答をしている。このことから、教師がループリックを早い段階に提示し、単元の途中においても活用することで、子どもが自己の学びの現状を把握しようとしたことが伺える。また、現状を把握しながら、考えを形成しようとするなど深い学びに向かう子どもの姿につながっていたのではないかと考察できる。

パフォーマンス課題では、課題を解決するために、自分で考えることができた。



パフォーマンス課題では、学習してきたことを生かし、考えをまとめて表現することができた。

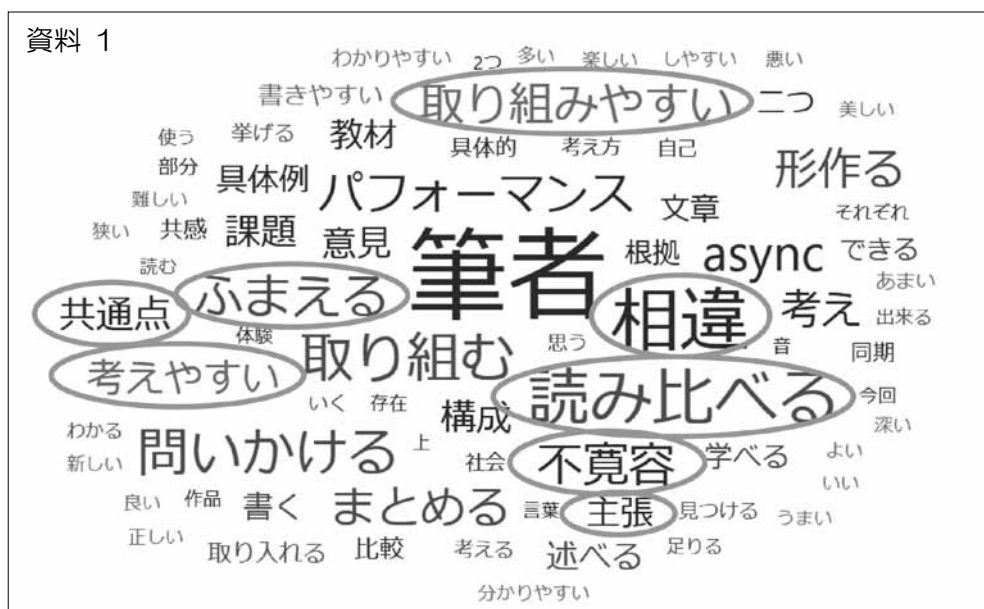


上記どちらの授業実践後アンケートでも、ほぼ全員の子どもの「そう思う」か「どちらかといえばそう思う」と回答している。必要感のあるパフォーマンス課題を単元のはじめに提示したことで、学習の見通しをもつことができ、単元の途中においても学習内容を深く理解しようとしたり、自分の考えを形成したりしながら、課題解決へ向けて考えながら学習していたのではないかと考察できる。また、学びの実感につながっているのではないだろうか。

## (3) 感想

## ① パフォーマンス課題実施後のアンケートから

- いつもより、ループリックが分かりやすかったが、文章にする力が自分にはまだ足りないところもあった。もう少し、よい文章が書けるようにしていきたい。また、記述表現力も少しずつ磨きをかけていきたい。
- 高校進学が目前となった今、これからの社会的・人間関係をどのように工夫して築いていくべきかを2つの本文を通して学ぶことができ、しっかり自分の意見をもって評価・批判ができたと思う。
- 今まで考えたことのないことを筆者の主張に合わせて考えることが出来た。パフォーマンス課題でも自己の体験や経験などを結び付けて取り組むことができた。パフォーマンス課題でゴールを明確にすることで取り組みやすくなった。
- 2人の筆者の考えの相違点をまとめ、自分の考えに広げていくことができた。課題に取り組む上で、2人の筆者の考えの相違点を見つけたりするのが結構楽しかった。



資料1はアンケートの感想から、テキストマイニングを使って出現頻度の高い言葉を大きく表示したものである。今回の単元では、「事例と主張と関係付けて読むこと」や「文章を読み、社会や他者との関わりについて自分の考えを広げたり深めたりすること」が目標である。感想や資料から、2人の筆者の教材を、それぞれの「主張」に対する根拠を「不寛容」などという言葉に着目して「読み比べる」ことで、「相違」や「共通点」を見付けようとしていたことが伺える。また、2人の筆者の見方・考え方を「踏まえ」、自分の考えを形成していくパフォーマンス課題に取り組むことができていたことが分かる。

パフォーマンス課題に対しては、「分かりやすい」「取り組みやすい」「考えやすい」と感じている子どもが多いようである。

## テキストマイニングとは

文字列を対象としたデータマイニングのことである。通常の文章からなるデータを単語や文節で区切り、それらの出現の頻度や相関、出現傾向、時系列などを解析することで有用な情報を取り出す、テキストデータの分析方法である。



② 単元全体の振り返りシートから

これらは、単元全体を振り返り、観点別に記述したものの一部である。記述内容から、ルーブリックに示された内容を基に、「筆者の伝えたいこと」を深く読み取りながら、「自己の体験」を重ねたり、「今後、社会でどうしていきたいか」を考えたりしている様子が伺える。

**思考・判断・表現 (工夫したこと・発見したこと・活用したこと など)**  
 見つけた共通点、相違点を配の体験と重ねながらパフォーマンス課題をおこなった。  
 不寛容な社会の中で過す際に、どのようなことが大切なのかを、自分なりに考えてまとめることができた。  
 「不寛容」や「寛容」などの言葉の意味を、国語辞典で調べて、筆者がどのようなことを伝えたいのかを考えたから、工夫してまとめることができた。

**思考・判断・表現 (工夫したこと・発見したこと・活用したこと など)**  
 根拠のある文に写すため、本文を引用したり、筆者の考えをもとにして説得文を記述したりするようにした。  
 キーワードに着目し、考えを比較したりして、筆者の主張をより深く読み取れるようにした。  
 自分の考えを書き終った際、筆者の考えを比べて、今後人間社会でどうしていきたいかを目標として、人の関わり方を考え、文章構成として読み手がわかりやすく、内容が広がり、よりよいものになるよう工夫した。

(4) 成果物から

これは、ある子どものパフォーマンス課題のワークシートである。2人の筆者の共通点や賛同できない点を整理した上で、自分のものの見方や考え方を述べている。最後には、社会や今後の自分の在り方について考えを論理的にまとめている。

<p>(3) 自分の考え</p> <p>どちらの文でも多数の意見に簡単に同期していることが主張の中心に当たっている。同期することが重要視される社会では少数意見に対して不寛容になり新たな意見や対話も生まれていく。そこであえて同期せずに異なる世界との出会いを生み出すことの重要性が述べられている。これらのことは実生活でも体験することがあるだろう。簡単に同期しない風潮は今後の世界でより一層重要視されていくだろう。</p> <p>しかし、同期することが絶対に悪いことだと考えてはいけないう。対話している全員が全く異なる意見を主張し続けていけばまとまるはずの対話もいつまでたってもまとまらなくなってしまう。既存の意見に対しては完全に反対するのではなく、少し異なった視点からの疑問を問うていくべきではないだろうか。</p> <p>これからの高校生活では小中学校よりも高度な対話が行われるだろう。しかし、いざ本にしてもある程度同期した納得解を求める必要がある。そこで、多数意見に偏りすぎた場合には少し異なる風向きを問いかけ意見を投げかけ、新たな対話の場をより多くの人が納得する同期へと導く役割を担っていくことが必要ではないだろうか。</p> <p>(段落間の最後につけた「この」は「この」は多数への同期の解放といったことが述べられている。一方で、「問いかける言葉」は同期しないことではなく問いかける言葉によって思考を明確にする。新たな会話を発生させることが述べられている。二人の筆者の主張にはこのような根本的ながかりがあると考えた。</p>	<p>(1) 共感できる点</p> <p>自分の意見をもちこが大切          ・けんこうは願をよめる          ・新たな対話を生み出す</p> <p>(2) 疑問に思う点や賛同できない点</p> <p>同期しないことが重要と最終的にはある程度同期させることが必要</p>	<p>文章を評価し、自分の考えを深めよう③</p> <p>(第6時) それぞれの筆者のものの見方や考え方を比較し、自分の社会や人に関する考えをまとめよう。</p> <p>◎ これからの高校進学や就職など社会に飛び立つ皆さんは、社会や人どのように関わっていきますか。二つの教材から得た知識や「不寛容」などの言葉から得たそれぞれの筆者のものの見方や考え方を踏まえて、社会や人との関わり方について、自分の考えをまとめよう。</p>
--	---	--

## 4 共同研究員による単元計画例

### (1) 単元計画について

単元計画例(中学校)は十勝教育研究所のホームページからダウンロードすることができます。(https://www.tokyoken.net)



研究所名	共同研究員	学年	教科	単元名	ページ
士幌町教育研究所	鈴木日向子	3年	社会科	第2章 個人の尊重と日本国憲法	P37
鹿追町立教育研究所	梅原 翔太	2年	社会科	第3章 日本の諸地域 7節 北海道地方	P38
豊頃町教育研究所	関谷昂二郎	3年	英語科	Lesson 6 Why do We Have to Work?	P38
浦幌町教育研究所	松林 一彦	1年	社会科	第2章 世界の諸地域 2節 ヨーロッパ州	P39
本別町総合教育研究所	乾 克彦	1年	理科	1章 光による現象	P39
足寄町生涯学習研究所	山田 優里	2年	国語科	敦盛の最期—平家物語—	P40

教科名	中学校 社会科(公民分野)	学年	3学年
単元名	第2章 個人の尊重と日本国憲法	生徒数	34名
		授業者	鈴木日向子
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿			
② 情報を精査して考えを形成しようとする姿			
2 単元の目標と観点別評価規準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解する。</li> <li>民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解する。</li> <li>日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解する。</li> <li>日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解する。</li> <li>対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意味について多面的・多角的に考察し、表現する。</li> <li>人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。</li> </ul>			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。</li> <li>民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。</li> <li>日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解している。</li> <li>日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意味について多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</li> </ul>	
3 単元で働かせる見方・考え方			
第2章の学習内容を、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、対話的な活動を通じ、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意味について多面的・多角的に考察し、表現する。			
4 パフォーマンス課題(スライド・発表)			
「基本的人権スライド」を作ろう チーム:「平等権」「自由権」「社会権」「環境権・自己決定権」「知る権利・プライバシーの権利」 1チーム4～5名に分かれる。スライドは相談して表紙以外に1人1枚以上は作成する。			
5 ルーブリック			
A+	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、日本国憲法において、人権保障が大切にされていたり、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきたりしてきた理由について、多面的・多角的に考察している。また、私たちが社会とどのように関わっているか、関わるべきか具体的に考えている。		
A	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、日本国憲法において、人権保障が大切にされていたり、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきたりしてきた理由について、多面的・多角的に考察している。また、私たちが社会とどのように関わっているか、考えている。		
B	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、日本国憲法において、人権保障が大切にされていたり、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきたりしてきた理由について、多面的・多角的に考察している。		
C	Bの基準を満たしていない。		
6 ICTの活用場面と工夫			
パワーポイントのスライド作成を通して疑問に思ったことや更に調べたことについて、ICTを活用して調べた場面を設定する。また、チームでスライドを作成し、他のチームと交流することで、新たな知識を習得することができるようにする。			

7 単元の指導と評価の計画(全13時間)		
時間	学習課題(●) 主な学習活動(○)	評価の観点【】評価規準
1 5 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人権と憲法にはどのような関係があるのか。</li> <li>○ 人権の考え方の歴史を学習しながら、様々な人権について考察する。</li> <li>●日本国憲法はどのような考え方を基に作られているのか。</li> <li>○ 大日本帝国憲法との比較をもとに、立憲主義とはどのような考え方を学習する。</li> <li>●なぜ国民主権は大切なのか。</li> <li>○ 国民主権とはどのような考え方で、その考え方はどのような制度に反映されているかを考察する。</li> <li>●平和主義を掲げる日本は国際社会でどのような役割を果たしていくべきか。</li> <li>○ 平和主義とはどのような考え方で、日本が抱える安全保障の考え方について理解し考察する。</li> <li>●なぜ基本的人権を保障することが重要なのか。</li> <li>○ 法の下での平等と個人の尊重という考え方について理解し、人権を保障する大切な考え方であることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知・技】</li> <li>・人権思想と憲法の歴史の学習を踏まえ、人権と憲法の関係から法の支配について理解している。(ワークシート)</li> <li>・日本国憲法の三つの基本原理や国民主権、日本が平和主義を掲げる理由、個人の尊重について、本文の読み取りを通して理解している。(ワークシート)</li> <li>【態・判・表】</li> <li>・日本国憲法が大切にされてきた理由について、多面的・多角的に考察している。(ワークシート)</li> <li>【態度】</li> <li>・国民主権が重要な理由を、法の支配を考察することを通して、主体的に社会に関わろうとしている。(観察)</li> </ul>
6 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示</li> <li>●基本的人権にはどのようなものがあるか(1)</li> <li>○ 班に分かれてスライド作りをする。(観察・レイアウト・役割分担決め→スライド作り)</li> <li>①平等権 ②自由権 ③社会権 ④環境権・自己決定権 ⑤知る権利・プライバシーの権利</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知・技】</li> <li>・基本的人権の種類とその権利が主張された経緯や背景、その権利を保障する法律などを理解している。(ワークシート)</li> <li>【態・判・表】</li> <li>・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意味について多面的・多角的に考察し、表現している。(ワークシート・口頭説明)</li> <li>【態度】</li> <li>・人権保障が大切にされている理由や社会の変化に伴って新しい人権が認められてきたりしてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。(ワークシート・観察)</li> </ul>
10 13	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本的人権にはどのようなものがあるか(2)</li> <li>○ 班に分かれてスライド発表をする。</li> <li>○ 人権についてのプリントに取り組み、理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知・技】</li> <li>・他の人が作成したスライドやその発表を見て、基本的人権について理解している。(ワークシート、プリント)</li> <li>【態度】</li> <li>・人権保障が大切にされている理由や社会の変化に伴って新しい人権が認められてきたりしてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。(スライド、観察)</li> </ul>

IV 授業実践 (中学校)

教科名	中学校 社会科 地理的分野		学 年	2 学年
単元名	第 3 章 日本の諸地域 7 節 北海道地方		生徒数	41 名
			授業者	梅原 翔太
1 「深い学び」に向かう子どもの姿				
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿				
③ 問題を見いだして解決策を考えようとする姿				
2 単元の目標と観点別評価規準				
<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。</li> <li>自然環境を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。</li> <li>北海道地方において自然環境の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。</li> <li>北海道地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。</li> </ul>				
知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。</li> <li>自然環境を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道地方において、自然環境の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>	
3 単元で働かせる見方・考え方				
北海道地方の学習において、自然環境の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察する。				
4 パフォーマンス課題 (パンフレット)				
都道府県観光度ランキングで北海道が 13 年連続 1 位を取ることができた理由とは? (※ブランド総合研究所) 北海道地方の魅力をパンフレットで表現しよう。				
5 ルーブリック				
A	北海道地方の自然環境の成立条件、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、人を引き付けている理由を多面的、多角的に考察し具体的に表現している。			
B	北海道地方が人を引き付けている理由を考察し表現している。			
C	B 基準に達していない。			
6 ICT の活用 の場面と工夫				
<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書、タブレットドリル、ワークシートなどでタブレットを使用している。</li> <li>パフォーマンス課題に取り組む際には、既習事項を見直すだけでなくインターネットなども活用し、更に多面的、多角的な視点からパフォーマンス課題解決に向け取り組めるように工夫する。</li> </ul>				

7 単元の指導と評価の計画 (全 5 時)		
時間	学習課題 (◆) 主な学習活動 (○)	評価の観点【】評価規準
1	1 北海道地方をながめて ◆北海道の特色とは? ★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示	【知・技】 ・日本の約 20% を占める広大な面積、冷帯に属する気候、盛んな農業、少ない人口などの特色を理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)
2	2 自然の制約に適応する人々の工夫 ◆北海道地方に住む人々の工夫とは? ★ルーブリックの活用 ※ パフォーマンス課題のカギになるキーワードを確認する。	【知・技】 ・冬の寒さや火山活動による厳しい自然環境に対して、人々がどのような工夫を行っているかを資料などから適切に読み取っている。(確認テスト) 【思・判・表】 ・北海道地方では、冬の寒さや火山、豊かな海を利用した産業が行われていることを多面的・多角的に考察し、表現している。(確認テスト)
3	3 自然の制約や社会の変化を乗り越える ◆北海道地方の農業の特色とは? ★ルーブリックの活用 ※ パフォーマンス課題のカギになるキーワードを確認する。	【知・技】 ・農業に適さない気候や土壌の問題に対して、人々がどのように対応し、乗り越えて農業を営んできたか理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト) 【思・判・表】 ・現在、北海道の人々が直面している課題に対して、どのように対応すべきかを多面的・多角的に考察している。(ワークシート)
4	4 自然の特色を生かした産業 ◆北海道地方の観光業の取り組みとは? ★ルーブリックの活用 ※ パフォーマンス課題のカギになるキーワードを確認する。	【知・技】 ・気候の特色によって、北海道地方への観光客が 8 月に多いことを理解している。(確認テスト) 【思・判・表】 ・北海道地方の観光業について、広がるエコツーリズムなどの持続可能な社会づくりと関連付けて考察し、表現している。(ワークシート)
5	北海道地方のまとめ ◆都道府県観光度ランキングで北海道が 13 年連続 1 位を取ることができた理由とは? 北海道地方の魅力をパンフレットで表現しよう。 ★パフォーマンス課題 (パンフレット)・ICT の活用	【知・技】 ・自然環境を中核とする考察の仕方を中心に、学んできた北海道地方の地域的特色やそこで生ずる課題をパンフレットにまとめて振り返り、理解している。(パンフレット) 【思・判・表】 ・北海道地方は、自然環境の影響を受けつつ、たくさんの農作物を出荷したり、観光客を引き付けたりしている理由を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を生かして、「パンフレット」という形で表現している。(パンフレット) 【態度】 ・主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。(パンフレット)

教科名	中学校 英語科		学 年	3 学年
単元名	Lesson6 Why do We Have to Work?		生徒数	26 名
			授業者	関谷昂二郎
1 「深い学び」に向かう子どもの姿				
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿				
③ 問題を見いだして解決策を考えようとする姿				
2 単元の目標と観点別評価規準				
・話し合い活動において、相手の意見の要点を聞き取り、自分の考えを整理しながら自分の意見を述べることが出来る。				
知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>意見を述べるとき基本的な表現を理解している。(SI)</li> <li>日常的または社会的な話題について、意見を述べるとき基本的な表現を利用して伝え合う技能を身に付けている。(SI)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>あるテーマについての他者の意見を聞き、自分の意見を伝えるために、話を聞いて、要点を捉えている。(I)</li> <li>相手の意見を聞いて自分の意見を深めたり、自分の意見を伝えたりするために、日常的または社会的な話題について自分の考えを整理し、簡単な単語や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。(SI)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あるテーマについての他者の意見を聞き、自分の意見を伝えるために、話を聞いて要点を捉えようとしている。(I)</li> <li>相手の意見を聞いて自分の意見を深めたり、自分の意見を伝えたりするために、日常的または社会的な話題について自分の考えを整理し、簡単な単語や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えようとしていたりしている。(SI)</li> </ul>	
3 単元で働かせる見方・考え方				
外国語やその背景にある文化を理解して、話し合い活動にて意見を述べるとき表現に着目し、相手の意見を見て自分の意見を深めたり、伝えたりするために、自分の意見を整理しながら考えを形成し、再構築する。				
4 パフォーマンス課題 (ペアでの話し合い)				
10 個のトピックから無作為に 3 つ選び、それぞれについてペアで意見を伝え合う。 ※ トピックは単元計画の 1 時間目に予め提示しておき、授業内で準備・練習を行う。				
5 ルーブリック				
Interaction	A: 準備したプリントを見なくても、相手と意見を伝え合っている。 B: 準備したプリントを見ながら、相手と意見を伝え合っている。 C: 準備したプリントを見ても、相手と意見を伝え合っていない。			
Accuracy	A: 適切な表現方法を使い、会話を続けている。 B: 表現方法に多少の誤りがあるが、相手と意思の疎通ができる会話をしている。 C: 表現方法に誤りが多く、情報が伝わっていない。			
Reaction	A: 相手の意見について、相づちを打ったり、それに対しての自分の考えや感想を伝えたりしながら反応を示している。 B: 相手の意見について、相づちを打つなどの反応を示している。 C: 相手が話しても、反応を示さず、自分の意見を伝えるだけになっている。			
6 ICT の活用 の場面と工夫				
パフォーマンステストに向けての練習の中で、話し合い活動の様子を動画で撮る。声の大きさ、発音、相づちなどの反応を客観的に見ることによって、改善へつなげる。また、ロイコノートの付箋機能を利用し、子どもたちが出した「相づち表現」を共有することで、自分の話し合い活動に生かすことができるようにする。				

7 単元の指導と評価の計画 (全 8 時間)		
時間	学習課題 (◆) 主な学習活動 (○)	評価の観点【】評価規準
1	Part 1 ◆話し合いの始め方、自分の意見の言い方について理解する。 ○ 導入での言語活動や、プリントを用いた練習問題、話し合い活動 ★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示 (3 つのテーマ決め)	【知・技】 ・話し合いの始め方と自分の意見の言い方について理解している。(プリント、観察)
2	Part 1 ◆話し合いの始め方、自分の意見の言い方を使って話し合いをする。 ○ Lesson6-1 教科書本文を用いた新出単語、重要表現や重要語句の確認	【思・判・表】 ・前時の内容を踏まえて、自分の考えを簡単な単語や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。(観察)
3	Part 2 ◆相手の話の振り方、話し始めのフックの言い方について理解する。 ○ 導入での言語活動、プリントを用いた練習問題、既習事項との関連付けを通しての定着、話し合い活動	【知・技】 ・重要表現を理解し、意見を述べるとき基本的な表現を利用して伝え合う技能を身に付けている。(プリント、観察)
4	Part 2 ◆相手に話を振りながら、話し合いをする。 ○ Lesson6-2 教科書本文を用いた新出単語、重要表現や重要語句の確認	【思・判・表】 ・前時の内容を踏まえて、他者の意見を知り、自分の意見を伝えるために話を聞いて、要点を捉えている。(観察) 【態度】 ・他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、話を聞いて要点を捉えようとしている。(観察)
5	Part 3 ◆相手の意見への賛成・反対の仕方、理由の述べ方を理解する。 ○ 導入での言語活動、プリントを用いた練習問題、話し合い活動	【態度】 ・今までの内容を踏まえつつ、重要表現を使って相手の意見に対しての自分の意見を伝えようとしている。(プリント・観察)
6	Part 3 ◆相手の意見に対しての自分の考えを述べる。 ○ Lesson6-3 教科書本文を用いた新出単語、重要表現や重要語句の確認	【思・判・表】 ・前時の内容を踏まえて、自分の考えを簡単な単語や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。(観察)
7	Tips 7 for Speaking ◆即興で自分の意見を伝えよう。 ○ 教科書 Tips を参考にしながら、即興で自分の意見を伝える活動 ★ルーブリックの活用・ICT の活用	【思・判・表】 ・会話をしているポイントに気を付けながら、事実や考えを即興で伝えていく。(観察)
8	◆Lesson6 まとめよう。 ★パフォーマンス課題 (ペアでの話し合い) ○ パフォーマンステスト ○ 振り返りと今後の取組の確認	【思・判・表】 ・相手の意見を聞いて自分の意見を深めたり、自分の意見を伝えたりするために、3 つの話題について自分の考えを整理し、簡単な単語や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。(観察)



教科名	中学校 社会科 (地理的分野)	学 年	1 学年
単元名	第2章 世界の諸地域	生徒数	31名
	2節 ヨーロッパ—国どうしの統合による変化—	授業者	松林 一彦
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿			
② 情報を精査して考えを形成しようとする姿			
2 単元の目標と観点別評価規準			
<p>・ヨーロッパで顕在化している地球の課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受け、現れ方が異なることを理解する。</p> <p>・ヨーロッパに暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解する。</p> <p>・ヨーロッパにおいて、地域で見られる地球の課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目し、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察、表現する。</p> <p>・ヨーロッパについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を、主体的に追究しようとする。</p>			
知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・ヨーロッパで顕在化している地球の課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。</p> <p>・ヨーロッパに暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解している。</p>		<p>・ヨーロッパにおいて、地域で見られる地球の課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>・ヨーロッパについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を、主体的に追究しようとしている。</p>
3 単元で働かせる見方・考え方			
地域で見られる地球の課題の要因や影響を、州の広がりや地域内の結び付きに着目し、地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察する。			

4 パフォーマンス課題 (ディスカッション・ワークシート)			
<p>ヨーロッパの学習をまとめ、話し合いをしよう</p> <p>「ヨーロッパではなぜ、統合をめぐるさまざまな動きがみられるのか」についてこれまでの学習で使った資料から考え、「統合のきっかけ」や「統合がもたらした影響や課題」をそれぞれまとめ、「今後も統合を進めるべきか」についてまとめ、ディスカッションを行う。</p>			
5 ループリック			
A	ヨーロッパの統合をめぐる様々な動きを、これまでの学習の地球の課題や州域内の結び付きから多面的・多角的に考察し、それらを基に自分の考えを述べている。		
B	ヨーロッパの統合をめぐる様々な動きを、資料や知識を活用して考察し、自分の意見を述べている。		
C	B 基準を満たしていない (ヨーロッパの統合をめぐる様々な動きを、資料や知識を活用して考察することが不十分であり、自分の意見を述べていない)。		
6 ICTの活用の場面と工夫			
タブレットを活用し、まとめシートに入力する場面を設定することで、ディスカッションをする際にも有効に活用することができるようにする。			

教科名	中学校 理科 (第1分野: エネルギー)	学 年	1 学年
単元名	光・音・力による現象	生徒数	8名
	1章 光による現象	授業者	乾 克彦
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿			
2 単元の目標と観点別評価規準			
<p>・光に関する事象・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光の反射や屈折、凸レンズの働きについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けること。</p> <p>・光に関する事象・現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働きの規則性や関係性を見いだして表現すること。</p> <p>・光に関する事象・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返りたりするなど、科学的に探究しようとする。</p>			
知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・光に関する事象・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光の反射や屈折、凸レンズの働きについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p>		<p>・光に関する事象・現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働きの規則性や関係性を見いだして表現している。</p>	<p>・光に関する事象・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返りたりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>
3 単元で働かせる見方・考え方			
光に関する事象・現象について、光の進み方などに着目して、光の反射や屈折、凸レンズの働きの規則性や関係性を比較したり、関連付けたりして考える。			

4 パフォーマンス課題 (実験レポート)			
凸レンズの像のでき方について実験レポートを作成しよう			
重さや手触り等の実感が無い光の法則の理解はとても難しいものです。空気⇒ガラス ガラス⇒空気 の光の進み方について学びます。光の屈折を原理とする凸レンズの像のでき方の実験を行い、実験手順と結果、考察について、実験レポートを作成しましょう。			
5 ループリック			
A	屈折の原理と凸レンズの関係性を考察し、原因や関係性していること示して問題を見いだして表現している。		
B	屈折の原理と凸レンズの関係性を考察し、得られた気付きや疑問を基に、問題を見いだして表現しているが、原因までは表現していない。		
C	Bの基準を満たしていない (得られた気付きや疑問を基に問題を見いだして表現していない)。		
6 ICTの活用の場面と工夫			
<p>・パワーポイント</p> <p>水によってコインの見え方が変わる現象。光が空気中→水中、水中→空気中へ進む道筋の説明。(光の進み方の方向性と屈折のイメージ形成のため)</p>			

7 単元の指導と評価の計画 (全5時間)		
時間	学習課題 (◆) 主な学習活動 (○)	評価の観点【】評価規準
1	<p>1 ヨーロッパをながめて</p> <p>◆ヨーロッパの自然環境や文化、人口には、どのような特徴が見られるだろうか?</p> <p>○ ヨーロッパの自然、人口、民族、産業の特色や雨温図などの資料を通して、統合の背景を含む基礎的・基本的な知識を身に付ける。</p> <p>単元を学んだ課題 「ヨーロッパでは、なぜ統合をめぐるさまざまな動きが見られるのだろうか?」</p> <p>★パフォーマンス課題・ループリックの提示 ○ パフォーマンス課題とループリックを確認し、単元を見直す。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・ヨーロッパには、民族を基にした小国が多いこと、地域により異なる農業が盛んなこと、共通の文化が見られることなどを概観し、ヨーロッパ統合の背景を理解している。(ワークシート)</p> <p>【態度】</p> <p>・ヨーロッパを概観して設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究しようとしている。(観察)</p>
	2	<p>2 ヨーロッパ統合の動き</p> <p>◆ヨーロッパでは、どのように統合が進んだのだろうか?</p> <p>○ ヨーロッパで統合されてきた内容を、写真、分布図などの資料や、統合を進めてきた理由や利点について、EU、アメリカ、日本を比較した資料を基に考察する。</p>
3	<p>3 持続可能な社会に向けて</p> <p>◆ヨーロッパでは、環境問題を改善するために、どのような取り組みが行われているだろうか?</p> <p>○ 環境に配慮した人々の活動や、環境問題での国境を越えた協力がなされてきた背景を、地域的特色を踏まえ資料などから考察する。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・ヨーロッパの環境に配慮した消費生活やエネルギー利用、観光に対する考え方やデータを資料から読み取り、理解している。(ワークシート)</p> <p>【態・判・表】</p> <p>・ヨーロッパで起こっている国境を越えた環境問題について、EU共通の取組の視点から考察している。(ワークシート)</p>
	4	<p>4 EUがかかえる課題</p> <p>◆ヨーロッパでは統合により、どのような変化や課題が見られるだろうか?</p> <p>○ EU加盟国間の格差や対立について資料から読み取り、ヨーロッパにおける産業の仕組みの変化や移民・難民などのEUの抱える課題について考察する。</p>
5	<p>5 ヨーロッパの学習をまとめ、ディスカッションをしよう</p> <p>◆ヨーロッパをまとめ、話し合いをしてみよう。</p> <p>★パフォーマンス課題 (ワークシート・口頭説明)</p> <p>★ICTの活用</p> <p>○ 「ヨーロッパではなぜ、統合をめぐるさまざまな動きがみられるのか」についてこれまでの学習で使った資料から考え、「統合のきっかけ」や「統合がもたらした影響や課題」をそれぞれまとめ、「今後も統合を進めるべきか」についてまとめ、ディスカッションを行う。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・これまで学んできたヨーロッパの地域的特色を踏まえて、地域統合が進んできた背景や良い影響、課題をまとめて振り返り、ヨーロッパの地域的特色を理解している。(ワークシート)</p> <p>【態・判・表】</p> <p>・ヨーロッパにおいて、地域統合が進んできた背景や良い影響、課題を踏まえて、今後どのようにしていくべきかについて多面的・多角的に考察し、表現している。(ワークシート・口頭説明)</p> <p>【態度】</p> <p>・自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうとしている。(口頭説明)</p>

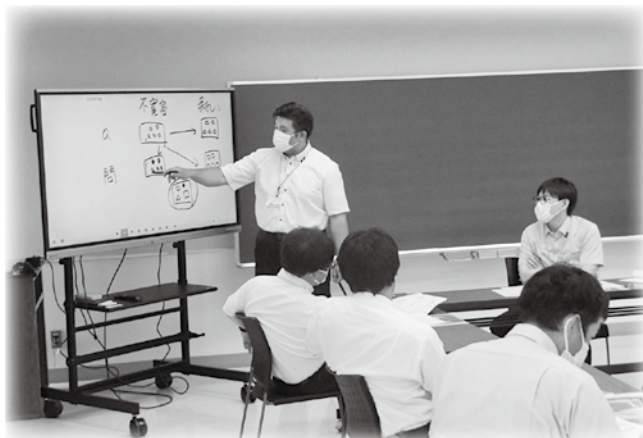
7 単元の指導と評価の計画 (全9時間)		
時間	学習課題 (◆) 主な学習活動 (○)	評価の観点【】評価規準
1	<p>◆空気中の光の進み方はどうなっているでしょうか。</p> <p>○ 光源装置や鏡、分度器を使って、入射角を変えたときの反射角を測定する。</p> <p>○ 入射角と反射角の関係を考える。</p> <p>○ 鏡で光が折返るときの規則性を理解する。</p> <p>○ 物体が見えるしくみを理解する。</p> <p>★パフォーマンス課題・ループリックの提示</p>	<p>【知・技】</p> <p>・光源装置や鏡、分度器を使って、入射角を変えたときの反射角を測定することができる。(ワークシート)</p> <p>【観察・ワークシート】</p> <p>・鏡で光が折返るとき規則性を理解できる。(観察・ワークシート)</p> <p>【態・判・表】</p> <p>・物体が見える仕組みを理解できる。(ワークシート)</p> <p>【態・判・表】</p> <p>・入射角と反射角の関係を考察している。(ワークシート)</p>
	2	<p>◆異なる物質での境界での光の進み方はどうなっているでしょうか。</p> <p>○ 水によってコインの見え方が変わる現象について考える。</p> <p>○ 異なる物質の境界面における光の進み方の理由を考える。</p> <p>○ 光が空気中から水中へ、また水中から空気中へ進むとき、境界面で屈折する角度を測定する。(観察・ワークシート)</p> <p>○ 光が空気中から水中へ進むときの規則性が理解できる。(観察・ワークシート)</p> <p>○ 光が水中から空気中へ進むときの規則性が理解できる。(観察・ワークシート)</p> <p>○ 白色光にはいろいろな色の光が混ざっていることが理解できる。(ワークシート)</p> <p>【態・判・表】</p> <p>・異なる物質の境界面における光の進み方に着目し、理由を考えて表現している。(実験レポート)</p> <p>・入射角と屈折角の関係を考察している。(実験レポート)</p> <p>【態度】</p> <p>・水によってコインの見え方が変わる現象について問題を見いだそうとしている。(振り返りシート)</p>
6	<p>◆凸レンズはどのようなはたらきをするのでしょうか。</p> <p>○ 凸レンズを使ったときの物見え方について調べ、問題を見出そうとする。</p> <p>○ 凸レンズによる様々な現象を観察する過程で、凸レンズを通る光の進み方に着目し、像ができる理由を考え表現する。</p> <p>○ 凸レンズを通る光の進み方を基に、どの位置にどのような像ができるのかを仮定して考える。</p> <p>○ 凸レンズによってできる像を調べる実験を行い、物体と凸レンズの距離によって像の位置や大きさ、向きが変わることを調べる。</p> <p>○ 実験結果を基に、実像と虚像のできる条件を見いだす。</p> <p>○ 凸レンズによる像のでき方の規則性を理解する。</p> <p>○ 凸レンズの働きについて振り返り、凸レンズを通る光の進み方と像のでき方について科学的に考える。</p> <p>★ループリックの活用</p>	<p>【知・技】</p> <p>・凸レンズによってできる像を調べる実験を行い、物体と凸レンズの距離によって像の位置や大きさ、向きが変わることを調べる。(観察・ワークシート)</p> <p>・凸レンズによる像のでき方の規則性を理解する。(ワークシート)</p> <p>・凸レンズを通る光の進み方を基に、どの位置にどのような像ができるのかを仮定して求める。(ワークシート)</p> <p>【態・判・表】</p> <p>・凸レンズによってできる像を調べる実験を行い、凸レンズを通る光の進み方に着目し、像ができる理由を考え表現している。(ワークシート)</p> <p>【態度】</p> <p>・凸レンズを使ったときの物見え方について調べ、問題を見いだそうとしている。(観察・ワークシート)</p>
	9	<p>★パフォーマンス課題 (実験レポート)</p> <p>◆凸レンズの像のでき方について実験レポートを作成しよう。</p>

#### IV 授業実践 (中学校)

教科名	中学校 国語科		学年	2学年
教材名	教盛の最期—平家物語—		生徒数	50名
			授業者	山田 優里
1 「深い学び」に向かう子どもの姿				
④ 思いや考えを基に創造しようとする姿				
2 単元の目標と観点別評価規準				
<ul style="list-style-type: none"> <li>作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。</li> <li>「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えることができる。</li> <li>言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>				
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで「平家物語」を読み、学習課題に沿って引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりしている。</li> </ul>
3 単元で働かせる見方・考え方				
古典独特の表現に着目し、作品の内容や登場人物の心情を読み取り、読み取った内容が効果的に伝わるような朗読の工夫を考える。				
4 パフォーマンス課題 (朗読・ワークシート)				
「教盛の最期」の世界を朗読で表現しよう。				
「教盛の最期」の物語の展開や登場人物の心情を読み取り、それが効果的に伝わるような朗読の工夫を考え、表現しよう。				
5 ループリック				
A	古典独特の表現に着目し、記述を根拠に、物語の展開や登場人物の心情の変化を深く読み取り、朗読の工夫を考えている。			
B	古典独特の表現に着目し、記述を根拠に、物語の展開や登場人物の心情の変化を読み取り、朗読の工夫を考えている。			
C	Bの基準を満たしていない。			
6 ICTの活用場面と工夫				
動画撮影：朗読の様子を撮影し、変容を確認できるようにする。				
Teams：共同編集で台本を作成し、作業の効率化、グループでの考えの深化を図る。				

7 単元の指導と評価の計画 (全6時間)		
時間	学習課題(◆) 主な学習活動(○)	評価の観点【】評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「平家物語」について知ろう。</li> <li>○「NHK10min」を見て「平家物語」の概要を知る。</li> <li>○冒頭部分の視写と音読を行い、歴史的仮名遣いの復習をする。</li> <li>★パフォーマンス課題・ループリックの提示</li> <li>○「教盛の最期」の宛読を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知・技】</li> <li>・作品の特徴を生かして朗読するなどして古典の世界に親しんでいる。(観察、ワークシート)</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「教盛の最期」を読み、教盛の人物像を捉えよう。</li> <li>○「教盛の最期」を音読する。</li> <li>○敬語表現をヒントにせりふの発言者を確認する。</li> <li>○教盛の「直美に対して名乗らなかった」「ただとくとく首をとれ。」と発言した点に着目して、教盛の人物像を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【思・判・表】</li> <li>・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。(観察、ワークシート)</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「教盛の最期」を読み、直美の人物像を捉えよう。</li> <li>○「教盛の最期」を音読する。</li> <li>○「直美が出家したいという気持ちを深めたのはなぜか」という問いを通して、直美の人物像や心情の変化を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【思・判・表】</li> <li>・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。(観察、ワークシート)</li> </ul>
4 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆班で協力して、朗読の台本をつくらう。</li> <li>○前時までの学習内容を確認する。</li> <li>○Teamsの共同編集機能を活用して、班で朗読の台本を作成する。</li> <li>○班での朗読をタブレットで録画し確認しながら、よりよい朗読になるよう工夫する。</li> <li>★ICTの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【思・判・表】</li> <li>・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。(観察、ワークシート)</li> <li>【態度】</li> <li>・進んで「平家物語」を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりしている。(観察、台本)</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆朗読発表会をしよう。</li> <li>★パフォーマンス課題 (朗読・ワークシート)</li> <li>○班ごとに朗読を発表し合う。</li> <li>○朗読を通して学んだことを振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知・技】</li> <li>・作品の特徴を生かして朗読するなどして古典の世界に親しんでいる。(観察、ワークシート)</li> <li>【思・判・表】</li> <li>・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。(朗読、ワークシート)</li> <li>【態度】</li> <li>・進んで「平家物語」を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりしている。(観察、台本)</li> </ul>

#### 共同研究員会議の様子



## V 研究のまとめ

### 1 今年度の研究の成果と課題

#### (1) パフォーマンス課題について

- ICTを効果的に活用して、パフォーマンス課題を単元の早い段階で提示することで、子どもが毎時間の授業でどのようなことができればいいのか、学んだことをどのように活用すればいいのかという点をよりの確に理解した上で取り組むことができ、「深い学び」につながった。
- パフォーマンス課題において、身近な事例に関連付けたりや自分事とつなげたりすることで、必要感をもち意欲的に学びに向かう姿につながった。
- パフォーマンス課題の内容精査に課題が残った。また、パフォーマンスの選択により、子どもがもつ本来の力が発揮されづらいことがあった。
- 表現する力は個人差が大きい。子どもの実態に応じて子どもの姿や成果物などをイメージし、「書くこと」への手立てが必要であるだろう。

#### (2) ルーブリックの活用について

- ルーブリックの提示により、ゴールが明確になり、毎時間の授業での知識を相互に関連付けて考えるなど、深く理解しようとする子どもの姿が見られた。
- 単元の途中で目標を再確認する際や、パフォーマンス課題に取り組む際に、ルーブリックを効果的に活用することで、より深い理解を目指す姿が見られた。
- 子どもの実態に応じて、ルーブリックの表現をより分かりやすい表現にする必要があった。
- ルーブリックを作成する際に、子どもの解答を予想するなど、具体的にイメージしながら表現する必要があった。



## 2 2か年の研究の成果と課題

- パフォーマンス課題とループリックを活用する学習活動に繰り返し取り組むことで、子どもが「何を学ぶのか」という目標をより明確に捉えることができるようになるとともに、成果物等から学びの深まりが見られるようになった。
- パフォーマンス課題を設定することで、「深い学び」に向かう子どもを育てだけでなく、ペーパーテストだけでは見取ることが難しい「思考・判断・表現」の観点を見取ることができ、成果をフィードバックすることで、学びの実感にもつなげることができた。
- ICT機器を活用することで、学習内容の共有が、時間、場所、人数に制約されず、自由に行える点で効果的であり、学習内容のより深い理解につながった。
- パフォーマンス課題の設定に難しさを感じられているが、繰り返し取り組み、工夫を凝らすことで、より活用しやすいものになるとよいだろう。
- 教科の特性や子どもの発達段階によって、ループリックの有効性に差が見られた。特に、子どもの実態に応じて、伝わりやすい文言にする必要がある。

## VI 共同研究員紹介／参考・引用文献

### 十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究員

市町村	共同研究員名	所属(所属校)	備考	市町村	共同研究員名	所属(所属校)	備考
芽室	大草 恵輔	芽室町教育研究所 (芽室南小)	推進 幹事	陸別	山田 征洋	陸別町教育研究所 (陸別中)	推進 幹事
帯広	長谷川知英	帯広市教育研究所 (広陽小)	推進 副幹事	幕別	兒玉 真一	幕別町教育研究所 (幕別中)	推進 副幹事
上士幌	政野 里歩	上士幌町教育研究所 (上士幌小)	授業者	中札内	佐藤 悠樹	中札内村教育研究所 (中札内中)	授業者
音更	日水 直樹	音更町教育研究所 (音更小)		士幌	鈴木日向子	士幌町教育研究所 (士幌町中央)	
新得	市原 秀樹	新得町教育研究所 (新得小)		鹿追	梅原 翔太	鹿追町立教育研究所 (鹿追中)	
清水	吉田 哲朗	清水町教育研究所 (清水小)		豊頃	関谷昂二郎	豊頃町教育研究所 (豊頃中)	
更別	岩田 浩平	更別村教育研究所 (更別小)		浦幌	松林 一彦	浦幌町教育研究所 (浦幌中)	
大樹	齊藤 織斗	大樹町教育研究所 (大樹小)		本別	乾 克彦	本別町総合教育研究所 (勇足中)	
広尾	森岡 達昭	広尾町教育研究所 (広尾小)		足寄	山田 優里	足寄町生涯学習研究所 (足寄中)	
池田	中田 和行	池田町教育研究所 (池田小)		十勝教育研究所 杉澤 諭／野村 知未／白澤 大輔			

### 参考・引用文献

- 小学校学習指導要領(平成29年3月) 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月) 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説 算数編、理科編(平成29年7月) 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説(平成29年7月) 文部科学省
- 中学校学習指導要領(平成29年3月) 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月) 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 社会編、国語編(平成29年7月) 文部科学省
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 理科 国立教育政策研究所
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 国語 国立教育政策研究所
- 「深い学び」で生かす思考ツール 小学館
- 「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価 明治図書
- Q&Aでよくわかる! 「見方・考え方」を育てるパフォーマンス評価 明治図書
- 教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価 日本標準

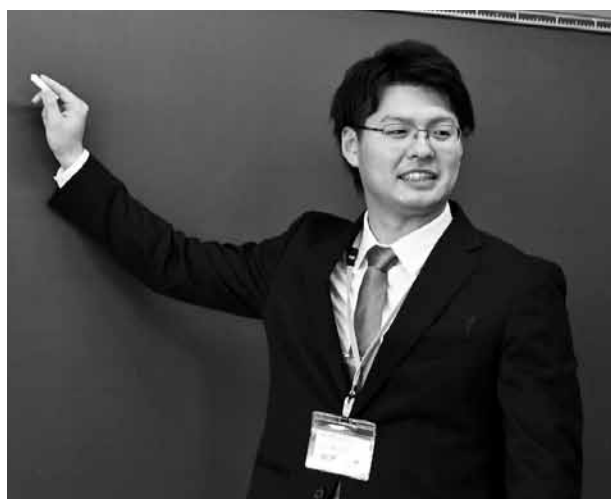
# 子どもたちに自他を認め合う心を育む研究

～ICTを活用した「考え、議論する」道徳科の授業を通して～

(2カ年継続研究 1年次)



授業者  
幕別町立札内南小学校  
教諭 金谷 智皓



授業者  
士幌町立士幌町中央中学校  
教諭 柁津 豊

## I 研究の概要

- 1 研究主題
- 2 主題設定の理由
- 3 研究の仮説と内容、構造図
- 4 研究計画
- 5 検証計画
- 6 研究の推進
- 7 研究の組織
- 8 研究推進計画

## II 研究の視点と内容

- 1 研究の視点
- 2 研究の内容

## III 授業実践

- 1 小学校授業実践 1
- 2 小学校授業実践 2
- 3 小学校授業実践記録
- 4 中学校授業実践 1
- 5 中学校授業実践 2
- 6 中学校授業実践記録
- 7 資料「道徳科におけるICT活用例」

## IV 研究のまとめ

- 1 研究の内容に関わる本時の検証
- 2 アンケート結果からの検証
- 3 研究内容の検証
- 4 研究1年次の成果と課題

## V 研究協力校紹介／参考・引用文献

## I 研究の概要

## 1 研究主題

子どもたちに自他を認め合う心を育む研究（1 / 2年次）

～ICTを活用した「考え、議論する」道徳科の授業を通して～

## 2 主題設定の理由

## 今日の課題 学習指導要領の趣旨から

「主体的・対話的で深い学び」を視点に据えた学習指導要領の全面実施が、今年度で小学校は3年目、中学校は2年目を迎える。道徳科においては、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが目標とされている。

※（ ）内は中学校のみ。

また、令和3年1月の中央教育審議会の答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～では、今後の社会は「Society5.0時代」「予測困難な時代」であることを踏まえ、新学習指導要領の着実な実施とこれからの学校教育に必要な不可欠な基盤的ツールであるICTを最大限活用し、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている」としている。

## 北海道の現状から

北海道の子どもたちの実態としては、令和3年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査において、「自己肯定感や自尊感情」「言葉で適切に表現すること」「他者の異なる意見を受容したり認めたりすること」が、全国平均より低い傾向にあることが明らかとなった。また、「ICT機器の活用」は小学校で全国平均を上回ったが、小・中学校ともに肯定的回答は50%以下の低い傾向にとどまっている。

質 問		校種	肯定的回答率 (北海道)	肯定的回答率 (全国)	全国比
(6)	自分には、よいところがあると思いますか	小	72.6	76.9	-4.3
		中	74.5	76.2	-1.7
(14)	自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか	小	67.7	70.3	-2.6
		中	72.2	75.2	-3.0
(15)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	小	69.2	70.1	-0.9
		中	72.2	74.7	-2.5
(27)	あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか	小	46.2	39.0	+7.2
		中	34.4	34.8	-0.4

※ 質問番号(6)(14)(15)の肯定的回答率については、「1. 当てはまる」「2. どちらかといえば、当てはまる」に回答した率を表す。また、(27)については、「1. ほぼ毎日」「2. 週1回以上」と回答した率を表す。

**研究1年次の取組の成果と課題**

平成30年3月に北海道教育委員会が策定した「北海道教育推進計画 平成30年度～令和4年度」の「施策項目8 道徳教育の充実」において、相互に個性や立場を尊重する態度、思いやりの心などの豊かな心を育成するため、道徳教育の授業改善を推進することを重要視している。さらに、令和3年8月に北海道教育委員会は、成果普及資料「自尊感情、規範意識を醸成する道徳教育の充実～豊かでたくましい心を育むために～」を公表している。この資料でも、自尊感情や規範意識を高めることで子どもたち一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、人が互いを尊重し協働して社会を形づくっていく上で求められるルールやマナーを身に付けることができると記されている。

また、平成30年に経済協力開発機構（OECD）が実施した生徒の学習度到達調査（PISA）において、日本はほとんどの教科で、授業でのデジタル機器利用時間がOECD加盟国の最下位であったという結果も公表されている。つまり、日本の教育はICTを活用することにおいて、世界の教育から大きな遅れをとっている実態が明らかとなった。これを受けて、令和元年12月に全国の小・中学校のICT環境充実のための補正予算が編成された。これがいわゆるGIGAスクール構想であり、その後発生したコロナ禍の影響を考慮し当初の予定を前倒しして進められ、令和2年度にはほぼ全ての小・中学校で1人1台端末と高速インターネット回線が整備された。現在、全国の小・中学校では先生方が研修を重ね試行錯誤を繰り返しながら、授業等での1人1台端末の効果的な活用を目指した授業実践が積み重ねられているところである。

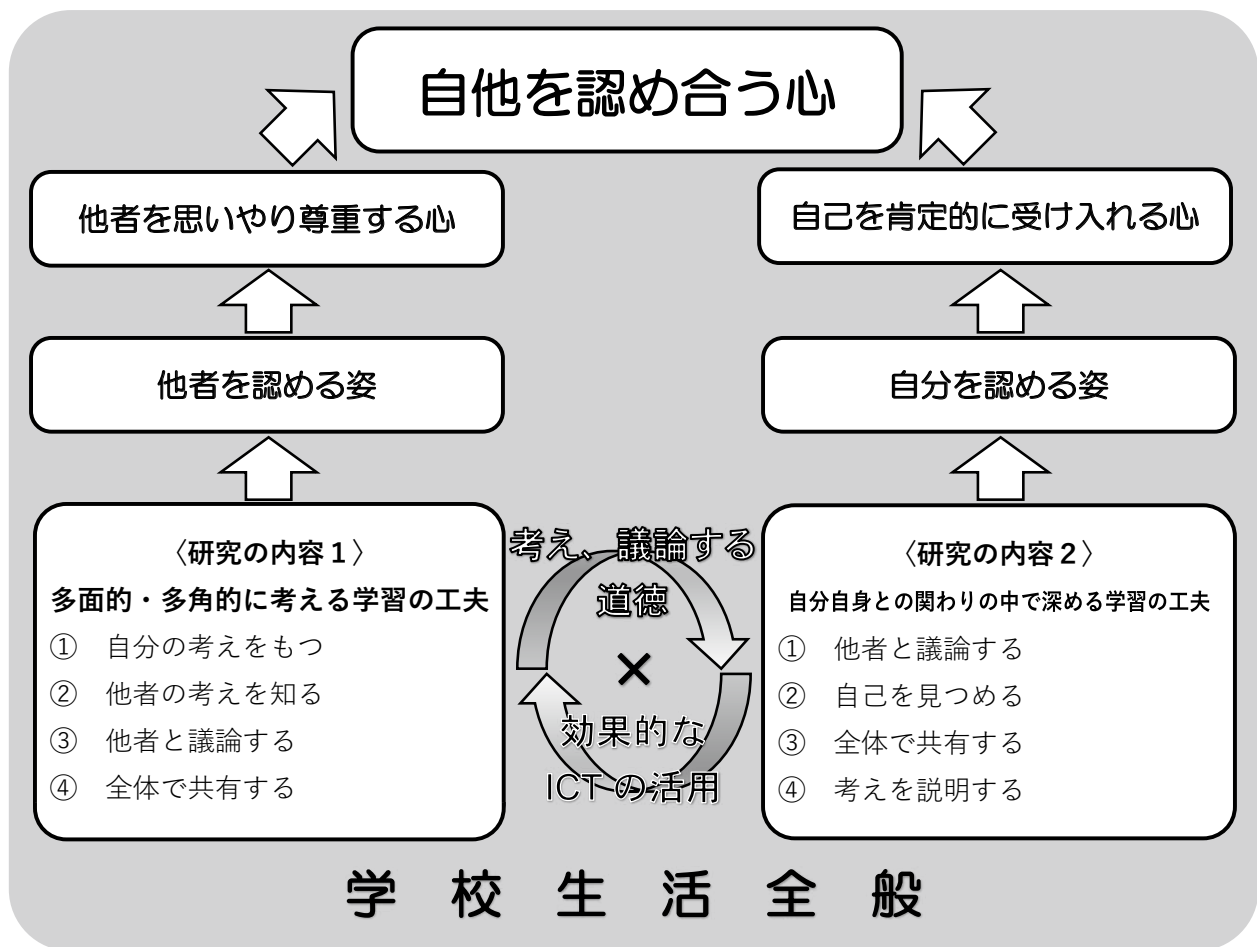
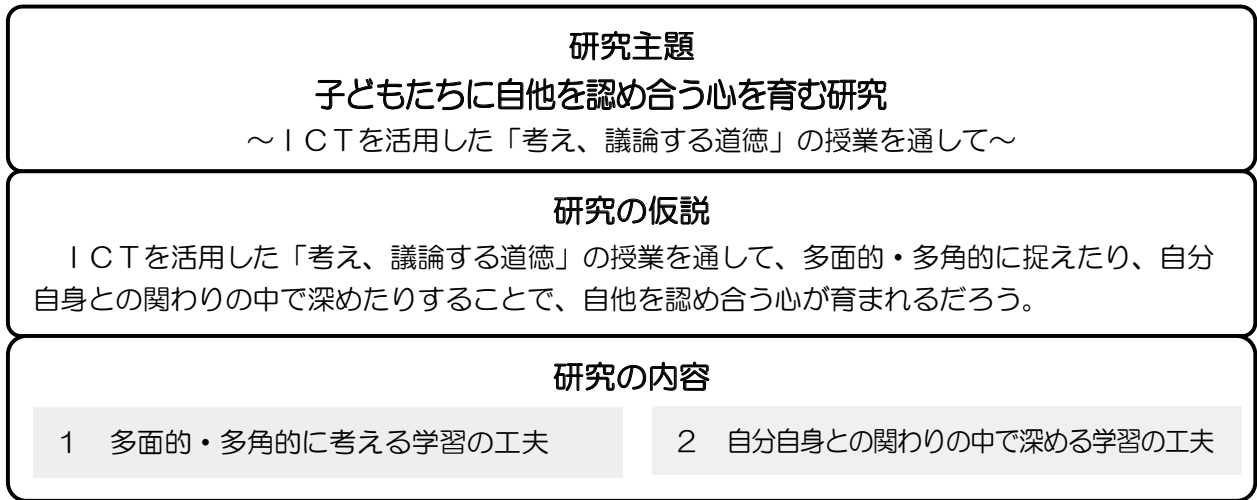
以上のように、北海道の子どもにとっては、「自分自身のよさや他者の異なる意見を認め、受容すること」や、「言葉による表現」に対して課題があることが考えられる。また、日本の教育にとって喫緊の課題である授業実践での「ICTの効果的な活用」についても、研究を進めていく必要があると考える。

また、道徳科の授業改善についても、教科化される以前から今に至るまで継続的にその必要性が叫ばれている。年間35時間の授業時数の量的確保はもちろんのこと、「考え、議論する道徳」への質的転換を図ることが、道徳科における「主体的・対話的で深い学び」を実現することにつながる。そのためには、授業の中で見方・考え方を働かせながら、道徳的価値やそれらに関わる諸事象について多面的・多角的に考え、自分自身との関わりの中で深めていくことが重要となる。そのような学習過程の中において、ICTを効果的に活用していくことにより、道徳科の学びをより充実したものへと改善できるのではないかと考えている。ただし、その際に重要なことは、ICTの活用は道徳科の目標にある道徳性を養うための1つの手段であり、目的ではないという認識である。手段であるはずの「ICTを活用すること」が目的となれば、教師主体の「活動あって学びなし」の授業となることが危惧される。その点には十分留意しながら、研究を進めていくことが大切であると考えている。

そして、道徳の一単位時間の授業だけではなく、学期や年間など一定の期間を経て道徳的価値の理解を深めた上での行動などから子どもの変容を見取る必要がある。そのため、道徳科の授業の積み重ねを踏まえた、学校生活全般を通じての道徳性の育成にも目を向けていきたい。

以上のことから、本研究では、道徳科におけるICTを活用した「考え、議論する」授業を通して、子どもたちに「自他を認め合う心」を育むことを目指し、実践的な研究を進めたいと考え、本主題を設定する。

3 研究の仮説と内容、構造図



4 研究計画

(1) 第1年次（令和4年度）	(2) 第2年次（令和5年度）
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 理論研究</li> <li>② 子どもの実態把握</li> <li>③ 多面的・多角的に考える学習の工夫</li> <li>④ 自分自身との関わりの中で深める学習の工夫</li> <li>⑤ 協力員による授業実践</li> <li>⑥ 1年次の検証のまとめ</li> <li>⑦ 2年次に向けた仮説、研究内容、研究計画、検証計画の修正</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 理論研究</li> <li>② 子どもの実態把握</li> <li>③ 自他を認め合う心を育むための研究内容の検討について</li> <li>④ 協力員による授業実践</li> <li>⑤ 2年次の検証のまとめ</li> <li>⑥ 2年間の研究の成果</li> </ol>



## 5 検証計画

### (1) 検証内容

- ① 多面的・多角的に考える学習の工夫により、他者を思いやり尊重することのできる心を育むことができていたか。
- ② 自分自身との関わりの中で深める学習の工夫により、自己を肯定的に受け入れる心を育むことができていたか。
- ③ 自己を肯定的に受け入れ、他者の考えや立場を思いやり、尊重できる心が育まれていたか。

### (2) 検証方法

- ① ノートや端末などへの記述の見取り
- ② 授業前後の子ども・授業者へのアンケート調査の分析（全体・抽出）
- ③ 授業に参加する姿や、事後の学校生活全般からの見取り

## 6 研究の推進

### (1) 研究方法

担当所員と研究協力校との共同研究とし、研究協力員の実践を通して検証する。

## 7 研究の組織

### (1) 担当所員

松村 理史 ・ 柴田 悠二

### (2) 研究協力員

幕別町立札内南小学校 金谷 智皓 教諭

土幌町立土幌町中央中学校 祢津 豊 教諭

## 8 研究推進計画（令和4年度 1 / 2年次）

月	研究の推進内容	諸会議
4	・研究主題、研究計画等の作成	十勝教育研究所業務計画会議 十勝教育研究所運営委員会
5	・研究の視点、方向性の確認	
6	・研究協力員の委嘱及び研究の概要説明 ・理論研究 ・子どもたちの実態把握	第1回協力員会議（6/9） 十勝教育研究所調査委員会 第2回協力員会議（6/23）【Zoom】
7	・研究実践計画と検証実践計画の策定 ・授業実践における検証方法の検討 ・授業実践1の内容検討・実践（7/12）	十勝教育研究所セミナー会議 第3回協力員会議（7/7）【Zoom】 第4回協力員会議（7/12）
8	・授業実践2の内容検討 ・授業実践2の実施（8/30）	第5回協力員会議（8/23）【Zoom】 第6回協力員会議（8/30）
9	・子どもたちの変容の分析、授業実践の分析	第7回協力員会議（9/6）【Zoom】
10	・協力校での継続的な実践 ・授業実践3の内容検討・実践（10/6） ・授業実践4の内容検討・実践（10/20）	第8回協力員会議（9/15）【Zoom】 第9回協力員会議（10/6） 第10回協力員会議（10/13）【Zoom】 第11回協力員会議（10/20）
11	・協力員研究中間報告（広報誌）	
12	・1年次の検証 ・研究紀要原稿、ダイジェスト版の検討 ・研究発表大会用パワーポイント作成	
1	・研究発表大会打合せ、リハーサル ・ダイジェスト版の刊行、研究のまとめ	
2	・研究発表大会（2/7）	十勝教育研究所研究発表大会
3	・研究紀要の刊行	

## II 研究の視点と内容

### 1 研究の視点

#### (1) 本研究における「自他を認め合う心」

「自他を認め合う心」を、自分を認める心と他者を認める心に分けて考えていきたい。

国立教育政策研究所の生徒指導リーフによると、自分を認める心とは一般的には「自己肯定感」や「自尊感情」と呼ばれている。しかしながら、日本では子どもたちの「規範意識」の重要性も強調されている。それらを併せて考えるならば、まずは「自己有用感」の育成に焦点を当てた学びを進めることが適切ではないかと考えた。「自尊感情」は、自分に対する肯定的な評価という意味合いが強く、他者や社会とはかけ離れた自己評価となるおそれもある。一方、「自己有用感」は、人の役に立った・人から感謝された・人から認められたという、自分と他者との関係を自他ともに肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価である。このことから、「自己有用感」の獲得が「自尊感情」の獲得につながるであろうことは、容易に想像できるであろう。しかし、「自尊感情」が高いことは、必ずしも「自己有用感」の高さを意味しないとも言われていることに注意が必要である。

一方、他者を認める心とは、他者の考えや立場を思いやり尊重することのできる心と考えたい。小学校学習指導要領総則第6の2において、「各学年を通じて、自立心や自律性、生命を尊重する心や他者を思いやる心を育てることに留意すること」とある。一方、中学校学習指導要領総則第6の2においては思いやりという言葉こそないが、「小学校における道徳教育の指導内容を更に発展させ、自立心や自律性を高め、規律ある生活をする、生命を尊重する心や自らの弱さを克服して気高く生きようとする心を育てること（略）に留意すること」との記載があり、小学校で育てた他者を思いやる心を他者や集団・社会との関わりの中で自制し生きていくことができるように育てていくことが書かれている。さらに、小学校学習指導要領総則解説編では「思いやる心は、児童が自立した一人の人間として人生を他者と共に、よりよく生きる人格形成を図る道徳教育の充実を目指す上で不可欠なものである。相手の気持ちや立場を推し量り自分の思いを相手に向けることは、よりよい人間関係を築くために重要である」との記載があり、道徳教育での思いやる心を育むことの重要性が感じられる。

また、これらの自己を認める心と他者を認める心は、偏りがないように育てていくことが重要だと考える。自分ばかり優先となれば他者には単なる自分勝手やわがままと受け止められ、他者ばかり優先となれば自分自身に自己犠牲や自己抑制を強いることとなり、自他を認め合うことにはならないだろう。よって、これら2つの心をバランスよく育てていくことが大切であると考えます。

そこで、本研究では、「自他を認め合う心」を次のように定義した。

#### 本研究における「自他を認め合う心」

自己を肯定的に受け入れ、他者の考えや立場を思いやり尊重できる心

さらに、本研究では、「自他を認め合う心」は道徳科の時間だけでなく、学校生活全般を通して育てていくため、授業ではその心に向かう姿として、「自分を認める姿」「他者を認める姿」としている。

#### (2) 「考え、議論する道徳」

「考え、議論する道徳」という言葉は、平成27年3月に一部改正された学習指導要領が公示され、「道徳」が「特別の教科 道徳」となる際に、キャッチフレーズのように用いられていた用語である。

「考える道徳」とは、道徳的価値及びそれに関わる事象を子どもが主体的に考えることである。これにより、道徳的価値と自己との関わりを主体的に捉えることとなり、自分の感じ方や考え方が明

確になる。また、「議論する道徳」とは、子どもと教師が、また子ども同士が話し合いなどの対話的な学びを通して、自己の生き方、あるいは人間としての生き方についての考えを深めることができるような授業であるとしている。議論するとは、互いの意見を戦わせるとする捉え方もあるが、それは討論であり、ここでいう「議論」とはある問題について互いの考えを述べ合うことにより、多様な考え方や感じ方を深めることと言えるであろう。異なる意見をもつ他者と議論することによって、多様な感じ方や考え方を知り、多面的・多角的な見方へと発展させることができるのではないだろうか。また、他者と協働して考えることによって、多様な価値観の存在を認識するだけでなく、自分の感じ方や考え方がより明確になっていくとも考える。

「考え、議論する道徳」とは、道徳科での「主体的・対話的で深い学び」であると言えるだろう。

### (3) 道徳科における見方・考え方

道徳科における見方・考え方は、下記の通りとなっている。

#### 道徳科の見方・考え方

様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること ※（ ）内は中学校のみ

この見方・考え方は、道徳科の目標に示された学習活動とほぼ同じ内容である。この学習活動全体が「深い学び」の鍵となる。道徳科における見方・考え方を働かせるとは、答えが1つではない道徳的な課題を自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」となる学習活動を行い道徳性を養うということだと考える。

### (4) ICTの効果的な活用

「I 研究の概要」でも記載した、令和3年1月の中央教育審議会による答申では、ICTはこれからの学校教育に必要不可欠な基盤的ツールであり、それを最大限活用していくことが説かれている。さらに、子どもたちがICTを「文房具」として自由な発想で活用できるようにし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かしていくべきであるとも述べられている。

では、1人1台端末を活用するメリットとは何か。端末を活用することでのメリットは多数あるが、大きく分けると下記の3つであると考える。

学習の個別化	・一人一人が端末を使って、自分に合った学びができる。
瞬時の共有化	・個別に学んだり作業したりしたものを素早く共有することができる。
思考の可視化	・音声言語では消えていたものを端末に記録し、文字言語で残すことができる。

これらのメリットを生かして、ICTを効果的な手段の1つとして研究を進めていく必要がある。

また、一般的な道徳科の学習指導過程におけるICT活用例について、文部科学省の資料では右の表で紹介されている。指導に当たっては、道徳科の目標に示されている学習活動に着目し、より効果的に行われるようにするための手段としてICTを活用することが重要だと考える。

段階	学習の目的	主な学習活動	ICTの活用例
導入	・実態や問題を知る。	・道徳的価値について、問題意識をもつ。	・実態や問題の提示（画像や映像、グラフ等）
展開	・教材を活用して、道徳的価値を理解し、よりよい生き方を考える。	・自分自身との関わりで考える。 ・多面的・多角的に考える。 ・自己の（人間としての）生き方についての考えを深める。	・教材の提示（画像や映像等） ・自分の考えをもつ（ICT端末に示す） ・他者の考えを知る（ICT端末に共有する）（表やグラフ等） ・話し合う（直接的な対話） ・自己を見つめる（ICT端末に蓄積する）
終末	・よりよい生き方の実現への思いや願いを深める。	・道徳的価値についての自己実現への意欲を高める。	・生活の様子の提示（画像や映像等） ・外部の方の言葉の提示（画像や映像等）

【一般的な道徳科の学習指導過程におけるICT活用例】  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/mext\\_00014.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00014.html)

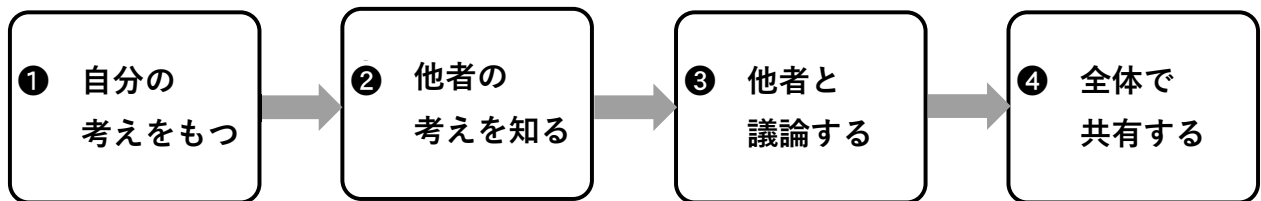
## 2 研究の内容

本研究では、子どもに自他を認め合う心を育むための具体的な内容として、道徳科の目標に示されている2つの学習活動に着目し、多面的・多角的に考える学習の工夫（研究の内容1）と、自分自身との関わりの中で深める学習の工夫（研究の内容2）の2つを行うこととした。

### (1) 多面的・多角的に考える学習の工夫

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える学習活動である。多面的・多角的に考える学習過程の例としては、次のようなものが挙げられる。

多面的・多角的に考える学習過程の例



#### ① 自分の考えをもつ

ここでは、子どもたちが主題に対する興味・関心を高めたり、問題意識を明確にしたりすることで動機付けを図ることが大切である。複数の道徳的価値の違いから生じる問題のどちらの立場を重視するかや、ある道徳的価値に対する受け止め方に対しての自分の考えをもつような学習活動が想定できる。その際、例えば、端末に配信された思考ツール等に自分の考えを入力することなどが考えられ、それにより議論後の考えの変容も捉えやすくなると考えられる。

#### ② 他者の考えを知る

道徳的価値を多面的・多角的に考えるために議論するには、「自分も友達も〇〇という考えで一緒だ」「自分は〇〇だけれど、友達は●●だ」というように、自分と他者の考えの共通点や相違点を明確にする必要がある。また、それと同時により多くの他者の考えを知ることで、なぜそのような考えに至ったのかへの疑問が生じ、その後の議論での深まりも期待できる。

#### ③ 他者と議論する

ここでの議論は、①での自分の考えを基にして、様々な感じ方や考え方に触れながら話し合うことが大切である。その際、例えば、②で知った他者の考えや立場の共通点や相違点を端末で見比べるなどして、互いの考えを適切に把握した上で、子ども同士が議論することができる。

#### ④ 全体で共有する

議論した後、互いの考えのよさや共感した考えを基にし、道徳的価値に広がりをもたせて考察し、当初の自分の考えを多面的・多角的に深めていくことが大切であると考えられる。その際、例えば、端末で議論後の考えを全体で再度共有することで、自分の考えを広げたり自分の考えを深めたりすることができると思われる。

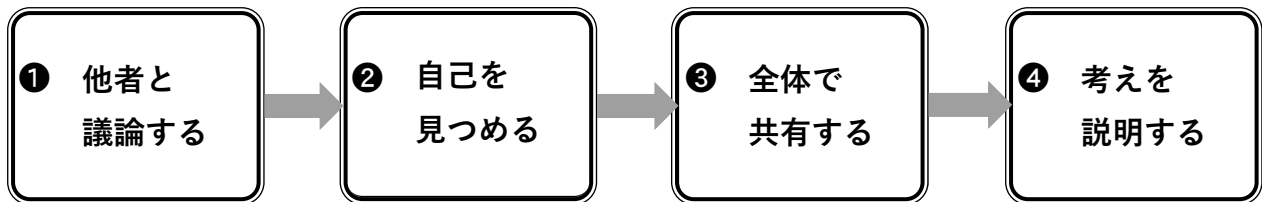
このように多面的・多角的に考える学習の工夫をすることで、他者の考え方に触れ、一面的な見方からより多面的・多角的な見方へと考えを発展することが期待できる。そして、自分とは異なる

意見をもつ友達と議論することなどで他者の考えを受け入れて認め、それが「他者を思いやり尊重する心」を育むことにつながっていくと考える。

## (2) 自分自身との関わりの中で深める学習の工夫

他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく、多面的・多角的な思考を通じて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める学習活動である。自分自身との関わりの中で深める学習過程の例としては、次のようなものが挙げられる。

自分自身との関わりの中で深める学習過程の例



### ① 他者と議論する

他者と議論することを通して、1つの道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方や考え方は1つではなく多様であることを理解する。その上で自己を見つめ、じっくりと自分の生き方・人間としての生き方についての考えを深めていけるようにしたい。

### ② 自己を見つめる

道徳的価値の議論後に、道徳的価値に対する考えについて改めて自己を見つめノート等に記入する。自己を見つめるとは、道徳的価値の理解において、自分との関わり、これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら理解を深めることである。その際、例えば、次の学習過程を見越して、端末に入力したりする活動が考えられる。

### ③ 全体で共有する

書いたり端末に入力したりした考えを全体で共有し、自分にはない感じ方や考え方を知ったり、ぼんやりとしていた思いを的確に言い表している考えに触れたりすることで、更に自分の考えを深めることができるであろう。その際に、例えば、端末を使うことで短時間で多くの考えに触れることができる活動が考えられる。

### ④ 考えを説明する

共有したそれぞれの考えについて説明する活動を行い、その中で生まれた問いなどについて更に考えることで、自分の考えを端末に入力して説明し合う活動が考えられる。それぞれの発表に加え、端末で共有している全体の考えを補助資料として活用することで、友達の考えをより正確に知ることができるであろう。

このように自分自身との関わりで深める学習の工夫をすることで、道徳的価値の理解を自分事として捉え、より深めることが期待できる。そして、自分の考えのよさを友達に知ってもらふことなどにより、自己有用感を高め、それが「自己を肯定的に受け入れる心」を育むことにつながっていくと考える。

### Ⅲ 授業実践

#### 1 小学校授業実践 1

幕別町立札内南小学校 第6学年  
授業者 金谷 智皓

## 「権利と義務」

- (1) 主題名 権利と義務
- (2) 教材名 ピアノの音が……（「新しい道徳 6」東京書籍）
- (3) ねらい 権利と義務の関連を考え、相手の権利を尊重するとともに自分の権利を正しく主張し、また、自分に課せられた義務を果たそうとする態度を育てる。

#### (4) 学習指導要領との関連と主題設定の理由

- ① 学習指導要領との関連 内容項目C-(12) 規則の尊重

法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。

【平成29年 小学校学習指導要領 特別の教科 道徳より一部抜粋】

- ② 主題設定の理由

高学年段階の子どもは、社会生活上のきまり、基本的なマナーや礼儀作法、モラルなど の倫理観を育成することが必要となる。だが、日常生活において、権利や義務という観点から、自他の行動などについて考えを深めたり、それらを尊重したりすることは少ないと考えられる。

そこで、自他の権利を主張し合うことから起きた「マンションの騒音トラブル」の実話から「規則の尊重」について理解できるようにしたい。法やきまりを進んで守り、自他の権利を尊重し合い、自らの義務を進んで果たすことについて考え、積極的な行動ができるような態度を育てていきたい。

#### (5) 本時の展開

指導 過程	○ 主な発問や教師の指示 ・予想される子どもの反応	指導上の留意点(□) 評価(☆) 研究との関わり <span style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 50px; height: 15px;"></span>
導入	○ 休み時間に、どのように過ごす権利があるか考える。 ・静かに過ごす権利 ・自由に遊ぶ権利 など ○ 誰もが楽しく過ごす権利があることを知る。 ○ 本時の課題を確認する。	□ 内容項目との関連を図るため、自分事として捉えられる休み時間についての問いを提示する。また、権利という言葉の説明する。
	<b>課題 お互いの権利を大切にするために、大事なことは何だろう。</b>	
	○ 資料を読む際に、何が原因で互いの権利がぶつかったのかを考え、範読を聞くことを確認する。	□ 学習課題や教材を読む際の観点を提示し、内容項目を焦点化する。
展開	○ 教材文を読み、あらすじを知る。	□ 範読や挿絵によって、短時間で教材の内容を確認する工夫。
	<b>男の人と女の人のどちらに共感できますか。</b>	
	○ 個人思考(どちらに共感できるかについて、理由も交えてワークシートに記入する)。 ○ 全体で交流する。 ・静かに生活したいのに、うるさくて迷惑してい	□ 男の人と女の人のどちらに共感できるか、自分の考えをもつ。 <b>【① 自分の考えをもつ】</b>

展開	<p>るから男の人に共感できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守った上で、ピアノを弾いているから女の人に共感できる。</li> <li>・自分の権利ばかり主張しているから、どちらにも共感できない。</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> お互いの考えを発表し合い、それぞれの考えを知る。 【② 他者の考えを知る】</p>
	<p>あなたが岡さんの立場なら、どのように問題を解決しますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ プリントに自分の考えを書き、友達と議論する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・裁判を起こす。</li> <li>・ルールを変更する。</li> <li>・ゆずれることはないか考える。</li> <li>・我慢する。</li> </ul> </li> <li>○ 議論した内容を全体で交流する。</li> <li>○ 教科書の続きを紹介し、大切なことは何か議論する。</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 考えの共通点や相違点を意識しながら議論する。 【③ 他者と議論する】</p> <p><input type="checkbox"/> 必要に応じて問い返し発問をする。</p>
終末	<p>お互いの権利を大切にするために、これからどんなことを意識して生活していきたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の振り返りを記入し、交流し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の権利だけでなく、友達や周りの人のことも思いやり譲り合ったりすることが大切。</li> <li>・お互いの権利を大切にするために、相手の考えや権利を受け入れることも必要。</li> <li>・自分が我慢すれば済むと思っていたが、勇気を出して自分の権利を伝えることも大事。</li> </ul> </li> <li>○ 感想を書き、観点別に自己評価をする。</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 議論後に互いの考えのよさや共感した考えを基に、自分の考えを多面的・多角的に深める。 【④ 全体で共有する】</p> <p><input type="checkbox"/> 振り返ることで、学習内容の深まりや自己の思考の変容について気付くように促す。</p> <p>☆ 自他の権利の尊重について、多面的・多角的に考えようとしていたか。【ワークシート】</p>

(6) 板書計画

7/21 (木) ピアノの音が……

お互いの権利を大切にするために、大事なことは何だろう。

どちらに共感できる？

<p>女の人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノをひく権利があるから。</li> <li>・ルールを守っているから。</li> </ul>	<p>男の人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うるさいのはいやだから。</li> <li>・迷惑しているからやめるべき。</li> </ul>
---	---

どちらともいえない

- ・どちらも自分の権利ばかり主張しているから。

どのように解決したらよいだろうか。

- ・裁判をする。
- ・ルールを変更する。
- ・納得するまで話し合う。
- ・どちらかががまんする。
- ・ゆずれる部分がないか考える。

お互いの権利を大切にするためには…？

- ・思いやりやゆずり合い
- ・相手の考えや権利を受け入れる。
- ・自分の権利を伝える。

自分の権利

どちらも大切にしたい

相手の権利

# 「明るく生きる」

- (1) 主題名 明るく生きる
- (2) 教材名 手品師（「新しい道徳 6」東京書籍）
- (3) ねらい どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。
- (4) 学習指導要領との関連と主題設定の理由

- ① 学習指導要領との関連 内容項目A-(2) 正直、誠実

誠実に、明るい心で生活すること。

【平成29年 小学校学習指導要領 特別の教科 道徳より一部抜粋】

- ② 主題設定の理由

高学年段階の子どもは、誠実に明るく生活することの大切さについてよく理解している。しかし、実生活においては、利害関係から不誠実な言動を取ってしまったたり、不利な立場にならないようにごまかしたり、嘘をついてしまう子どもも見られる。

そこで、手品師が大劇場のステージに立てるチャンスを捨て、男の子と交わした約束を守るとい、「手品師」の話から誠実について理解できるようにしたい。そして、良心に従って精一杯努力したり、人に対して陰ひなたなく真心をもって接したりしようとする心情を育てたい。

- (5) 本時の展開

指導 過程	○ 主な発問や教師の指示 ・ 予想される子どもの反応	指導上の留意点 (□) 評価 (☆) 研究との関わり
導 入	○ 「誠実」とは、どのようなことが考える。 ・ 真面目な人 ・ 裏切らない人 ・ 真心があって偽りがなく真面目なこと など ○ 本時の課題を確認する。	□ テキストマイニングしたアンケート結果をモニターに表示し、「誠実」についての共通意識がもてるようにする。
	<b>課題 誠実な行動をするときには、どのようなことを大切にしたらよいだろうか。</b>	
展 開	○ 手品師はどんなことに迷っていたかを考えながら範読を聞くことを確認する。	□ 学習課題や教材を読む際の観点を提示し、内容項目を焦点化する。
	○ 教材文を読み、あらすじを知る。	□ 範読や挿絵によって、短時間で教材の内容を確認する工夫。
<b>あなたが手品師なら、「男の子との約束」と「大劇場に行く」のどちらを選びますか。</b>		
	○ 個人思考（Google Forms にどちらを選ぶかを入力する）。 ・ 夢だった大劇場より先に約束した男の子。 ・ 男の子を悲しませたくないから男の子。 ・ 貧乏な生活から抜け出せるなら大劇場。 ・ 夢を叶えたいから大劇場を選ぶ。 ○ 全体で交流する。	□ 自分が納得し、後悔しない生き方などにも触れられるように、必要に応じて問い返し発問をする。  □ 多様な考えに触れ、自己の考えを深めるために、友達と議論する。 <b>【① 他者と議論する】</b>



<p>展開</p>	<p>約束を守ることを決断した手品師は、何を大切にできなかったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個人で考える（スプレッドシートに自分の考えを入力する）。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子の笑顔</li> <li>・男の子との約束</li> <li>・後悔をしたくないという思い</li> <li>・自分の思い</li> </ul> </li> <li>○ 友達と交流する。</li> <li>○ 互いの考えを全体で交流し、共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 中心発問をし、ねらいを焦点化する。</li> <li>□ どちらを選ぶかについてではなく、「真心をもつこと」とはどのようなことなのかを深められるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 誠実に行動しようとするときの気持ちを自分との関わりで考える。【② 自己を見つめる】</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 自分と友達の考えを交流し、多様な考えを聞く。【③ 全体で共有する】</li> </ul> </div>
<p>終末</p>	<p>「誠実」について、考え方はどう変わりましたか。また、これからどんなことを意識して生活していきたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の振り返りをスプレッドシートに記入する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・誠実であるためには他者を思いやることが大切。</li> <li>・自分自身が納得できるかどうかを考えることが大切。</li> <li>・自分も後悔しないような選択をしたい。</li> </ul> </li> <li>○ 感想を書き、観点別に自己評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 共有後に互いの考えのよさや共感した考えを基に、自分の考えを深め、説明する。【④ 考えを説明する】</li> <li>□ 振り返ることで、学習内容の深まりや自己の思考の変容について気付くように促す。</li> <li>☆ 誠実な行動について、自分の生活を振り返り、考えようとしていたか。【スプレッドシート】</li> </ul>

(6) 板書計画

10/6（木） 手品師

誠実な行動をするときには、どのようなことを大切にしたらよいだろうか。

あなたなら「男の子との約束」と「大劇場に行く」のどちらを選びますか。

男の子との約束

- ・がっかりさせたくないから。
- ・約束を守ろうと思ったから。

子どもへの思い

大劇場

- ・生活が変わるかもしれないから。
- ・二度とないチャンスだから。

自分への思い

迷いに迷う 葛藤

約束を守ることを決断した手品師は、何を大切にできなかったのだろうか。

- ・子どもへの思い
- ・約束を守ること
- ・男の子の信頼

自分への思い

- ・自分が納得できる
- ・自らの誇り

自分自身に誠実

どちらも誠実

- ・誠実であるためには、他者を思いやることが大切である。
- ・自分自身が納得できるかどうかを考えることも大切である。

### 3 小学校授業実践記録

研究の内容1 多面的・多角的に考える学習の工夫

主題名 「権利と義務」

教材名 「ピアノの音が……」

内容項目 C-(12) 規則の尊重

《あらすじ》 「夜10時から朝7時までは静かにする時間帯」というルールをつくり、トラブルを防ごうとしたマンション管理人の岡さん。しかし、「隣の住人のピアノの音がうるさい。静かに生活する権利があるから裁判を起こす」といった住人の苦情が岡さんのもとへ。岡さんは双方の住人に対し、率直に話し合うことを提案する。岡さんは「お互いが気持ちよく生活するにはどうしたらよいか」を考えることや、普段からの人間関係づくりが大切であると実感する。

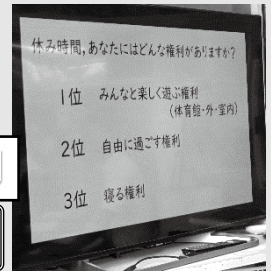
導入

1 身近な事例から権利について考える



皆さんは休み時間に、どのように過ごす権利があるでしょうか？この前にとった、皆さんのアンケート結果を見てみましょう。

ICTの活用



課題：お互いの権利を大切にするために、大事なことは何だろう。

展開

2 教材文を読んで、あらすじを知る

岡さんはトラブル防止のために、静かにする時間帯を決めていたんだね。



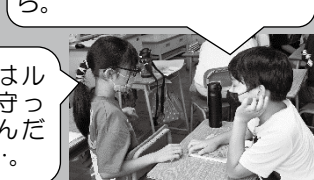
静かにする時間帯じゃないときのピアノの音がうるさいのか…。

3 男の人と女の人のどちらに共感できるか考えた後、全体で交流し合う

男の人と女の人のどちらに共感できますか？



男の人だな。静かに生活したいのに、迷惑しているから。



女の方はルールを守っているんだけどね…。

- 【研究との関わり】
- ① 自分の考えをもつ
- 【研究との関わり】
- ② 他者の考えを知る

4 自分が岡さんであるならば、どのように問題を解決するか、議論を通して、多面的・多角的に考える

2人とも気持ちよく過ごすことができるように、ルールを変えれば、いいんじゃないかな？



「考え、議論する」



あなたが岡さんの立場なら、どのように問題を解決しますか？

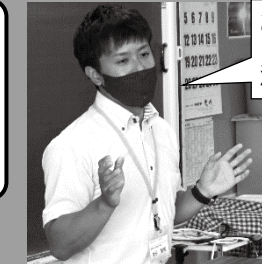
ルールの変更もいいけど、お互いが納得できるまで話し合うのも、大事なんじゃないのかな？



- 【研究との関わり】
- ③ 他者と議論する

終末

5 学習を振り返り、よりよい生き方への思いや願いを深め、自己実現への意欲を高める



お互いの権利を大切にするためにこれからどんなことを意識して生活していきたいですか？

相手のことを考えたり、譲り合ったりしながら生活することが大切だと思いました。

- 【研究との関わり】
- ④ 全体で共有する



研究の内容2 自分自身との関わりの中で深める学習の工夫

主題名 「明るく生きる」

教材名 「手品師」

内容項目 A-(2) 正直、誠実

《あらすじ》 腕はいいが売れない手品師の夢は、大劇場で華やかに手品をすること。ある日、町で出会った小さな男の子に声を掛けると、父親が亡くなった後、母は働きに出て帰ってこないと言う。手品師は手品を見せて元気付け、明日も来ると約束する。しかし、その夜、「明日、大劇場に出演してほしい」と友人から電話が来る。男の子との約束と、大劇場の夢とで迷いに迷う手品師だったが友人に断りを入れる。翌日、手品師は男の子の前ですばらしい手品を見せるのだった。

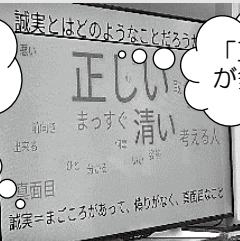
導入

1 「誠実」とはどのようなことか？  
事前アンケートの結果を知る



みんなは「誠実」とはどんなことだと思っているのかな？

「真心」「偽りが無い」「真面目」ということか。



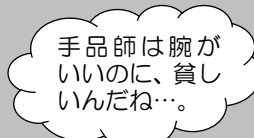
「正しい」が多いね。

ICTの活用

課題：誠実な行動をするときには、どのようなことを大切にしたらよいだろうか。

展開

2 教材文を読んで、あらすじを知る



手品師は腕がいいのに、貧しいんだね…。



大劇場に行くことよりも、男の子との約束を選んだんだね。

3 「男の子との約束」「大劇場に行く」のどちらを選ぶか考え、議論する

「考え、議論する」



やっぱり、手品師のように、男の子との約束を守る方が誠実だよ！

でも、自分の夢だった大劇場を諦めることが誠実なの？

【研究との関わり】

① 他者と議論する

4 男の子との約束を守った手品師は何を大切にしていたのかを考える



ICTの活用

0	自分のことを縛ってしまっている人をも大切にしたいという心
11	空を飛べない母は仕事で疲れてくたくたで男の子は泣き止まらなかったから2回も行って次は断り返すとしたら

【研究との関わり】

② 自己を見つめる

【研究との関わり】

③ 全体で共有する

5 互いの考えを全体で交流し、共有する



誠実であるためには、自分自身が納得できるかどうかや、後悔しないように考えることが大切だと思います。



自分の夢も大切だけど、手品師は男の子の笑顔大切にしていたんだと思います。

【研究との関わり】

④ 考えを説明する

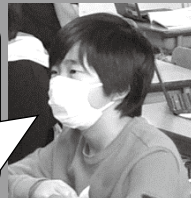
終末

6 学習を振り返り、よりよい生き方への思いや願いを深め、自己実現の意欲を高める



誠実とは真面目で真つすぐなこと。約束は守るべきだと思ったので、正しいと思うことをしていきたい。

誠実かどうか考えるとき、他者を思いやることも大切だと思った。後悔しないような選択をしていきたい。



4 中学校授業実践 1

# 「だれもが気持ちよく過ごせる社会を目指して」

士幌町立士幌町中央中学校 第1学年

授業者 柘津 豊

- (1) 主題名 だれもが気持ちよく過ごせる社会を目指して
- (2) 教材名 ごみ箱をもっと増やして（「新しい道徳 1」東京書籍）
- (3) ねらい 街の中にごみ箱を増やすかどうかの話合いを通して、公德心について理解を深め、誰もが気持ちよく生活できるよりよい社会の実現のために努めようとする態度を育てる。

(4) 学習指導要領との関連と主題設定の理由

- ① 学習指導要領との関連 内容項目C—(10) 遵法精神、公德心

法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

【平成29年 中学校学習指導要領 特別の教科 道徳より一部抜粋】

- ② 主題設定の理由

社会があれば何らかのきまりがある。「法やきまり」は、この集団に秩序を与え、摩擦を最小限にするために、人間の知恵が生み出したものであることや、社会の秩序と規律を守ることによって、個人の自由が保障されるということを理解することは大切である。遵法精神は、公德心によって支えられている。公德心とは、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にする心である。それが一人一人の日常生活の中で具体的に生かされることで、住みよい社会が実現できる。また、他人の権利を尊重し、自分の権利を正しく主張することは、互いの権利の主張が調和し両立できるようにすることである。自らに課せられた義務を果たすことが、結果として規律ある安定した社会の実現に貢献することになる。これらのことを踏まえて、自分たちが社会の構成員の一人であることの意識をもちながら、「私」を大切にする心と「公」を大切にする心の関係について考え深め、よりよい社会の実現のために努めようとする態度を育てていきたい。

(5) 本時の展開

指導 過程	○ 主な発問や教師の指示 ・予想される子どもの反応	指導上の留意点 (□) 評価 (☆) 研究との関わり <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 50px; height: 15px;"></span>
導入	○ コンビニのごみ箱が店内に移動したことを示し、「誰が困っているのか」「どうしたら全員が気持ちよく過ごせるのか」考える。 ・家庭ごみを捨てる人がいて店員が困っている。 ・ごみの分別をして常識の範囲で捨てる。 ○ 本時の課題や内容項目を確認する。	□ 本時の内容項目に対し、身近な事例を使って子どもたちが自分事として捉えることができるようにする。  □ ワークシートを配布する。
	課題 誰もが気持ちよく生活するために、心掛けることは何だろう。	
展開	○ 教材文の投稿者の意見を読み、意見をまとめたカードを示す。 ・賛成 ・やや賛成 ・やや反対 ・反対 Forms を用いて集計し、結果を示す。	□ 投稿者の意見について、自分の考えをもち、端末に入力する。 <b>【① 自分の考えをもつ】</b>

展開	<p>○ ワークシートを用いて、A・B・Cの意見を要約する。その後、それぞれの意見を要約したカードを貼り、登場人物や出来事確かめる。</p>	<p>□ 短時間で教材の内容を確認する工夫をし、視覚的に捉えることができるようにする。</p>			
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 25%;">                 投稿者・大学生 →ごみ箱をもっと増やしてほしい。             </td> <td style="width: 25%;">                 Aさん・主婦 →賛成。景観維持のため、設置すべき。             </td> <td style="width: 25%;">                 Bさん・主婦 →反対。景観悪化のため、持ち帰るべき。             </td> <td style="width: 25%;">                 Cさん・介護士 →反対。環境保全のため、持ち帰るべき。             </td> </tr> </table> <p>「日本のごみ箱をもっと増やして」という投書に賛成か反対か、理由も含めて考えよう。</p>	投稿者・大学生 →ごみ箱をもっと増やしてほしい。	Aさん・主婦 →賛成。景観維持のため、設置すべき。	Bさん・主婦 →反対。景観悪化のため、持ち帰るべき。	Cさん・介護士 →反対。環境保全のため、持ち帰るべき。
投稿者・大学生 →ごみ箱をもっと増やしてほしい。	Aさん・主婦 →賛成。景観維持のため、設置すべき。	Bさん・主婦 →反対。景観悪化のため、持ち帰るべき。	Cさん・介護士 →反対。環境保全のため、持ち帰るべき。		
終末	<p>○ 個人思考→ワークシートに考えを記入する。 ○ グループ活動→立場を明確にして話し合う。     &lt;賛成寄りの意見&gt;     ・近くのごみ箱にごみを捨てられるから。     ・いつもごみ袋を持っていると限らないから。     &lt;反対寄りの意見&gt;     ・何個もごみ箱がある街はきれいとは言えないから。     ・持ち帰りが増えればマナーもよくなるから。 ○ 全体交流。それぞれの班でどのような意見が出たか、どのような話し合いになったか発表する。</p>	<p>誰かが気持ちよく生活ができる、よりよい社会にするために、どのような考え方が大切だろう。</p> <p>○ 本時で学んだことをどのように日常生活で生かせるか、「自分の考え」「再度、投書の意見に賛成か反対か」「自己評価」について Forms を用いて入力し、集計する。</p>	<p>□ 議論後に互いの考えのよさや共感した部分を基に、自分の考えを多面的・多角的に深める。 【④ 全体で共有する】</p> <p>☆ 遵法精神、公德心について、多面的・多角的に考えようとしていたか。【ワークシート】</p>		

(6) 板書計画

**反対**  
 環境を守るため  
持ち帰るべき  
 Cさん 介護士

**反対**  
 景観が壊れるため  
持ち帰るべき  
 Bさん 主婦

**賛成**  
 景観を維持するため  
設置すべき  
 Aさん 主婦

**意見**  
 ごみ箱をもっと  
増やしてほしい  
 投稿者 大学生

● 「日本のごみ箱を増やして」という投書に賛成か反対か  
課題 誰かが気持ちよく生活するために、心掛けることは何だろうか。

30min「ごみ箱はどれくらい増やせばいいか？」

- 持ち帰る人が増え、マナーもよくなる。
- 便利だが、ごみがあふれる。
- ごみは自分で責任をもつべき。
- ごみ箱を増やしても、ポイ捨てがなくなるかは限らない。

↕

ごみ箱の形を工夫すればいい。

- 看板よりもごみ箱。
- 旅行の際は便利。
- 公共の場がきれいになる。
- いつもごみ袋を持ってこようとは限らない。
- ポイ捨てが減る。

誰かが気持ちよく、よりよい社会するには…?

5 中学校授業実践 2

# 「心の弱さを乗り越えるために」

士幌町立士幌町中央中学校 第1学年

授業者 柘津 豊

- (1) 主題名 心の弱さを乗り越えるために
- (2) 教材名 銀色のシャープペンシル（「新しい道徳 1」東京書籍）
- (3) ねらい 「ぼく」の心の弱さについて考える話し合いを通して、よりよく生きる喜びについて理解を深め、自らの弱さを克服しようとする態度を育てる。

(4) 学習指導要領との関連と主題設定の理由

- ① 学習指導要領との関連 内容項目D-(22) よりよく生きる喜び

人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと。

【平成29年 中学校学習指導要領 特別の教科 道徳より一部抜粋】

- ② 主題設定の理由

人間には誰にも長所と短所がある。強さと弱さという言葉に言い換えられることもあるだろう。「よりよく生きる」ためには、自分の弱さを客観視して見付け出し、素直に受け止めることが肝要である。本授業では、教材文をきっかけとして子どもが日常生活を振り返り、自分自身の弱さに気付くことができるような場面を設定していきたい。

また、せっかく気付いた自分の弱さをそのままにするのではなく、今後どうすることによって「よりよく生きる喜び」につながるのか、他者との関わりの中で考えを深めることにも留意した授業を行い、自らの弱さを克服しようとする態度を育みたい。

(5) 本時の展開

指導過程	○ 主な発問や教師の指示 ・予想される子どもの反応	指導上の留意点 (□) 評価 (☆) 研究との関わり <span style="background-color: #cccccc; display: inline-block; width: 50px; height: 1em;"></span>
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 過去に自分がした「ずるいこと」を振り返る。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親に嘘をついてゲームをした。</li> <li>・ 宿題をしていないのに忘れただけと言った。</li> <li>・ 失敗を友達のせいにした。</li> </ul> </li> <li>○ 本時の課題や内容項目を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 教材ほど重大でなくてよい。</li> <li>□ 子どもが発表しにくい場合は、教師から例を挙げる。</li> <li>□ ワークシートを配布する。</li> </ul>
<p><b>課題 どうしたら自分自身の心の弱さを克服することができるだろう。</b></p>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材文を読み、ぼくの弱さやずるさを書き出す。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 捨てたシャープペンシルを「自分で買った」と言って、周りに嘘をついた。</li> <li>・ 合唱の失敗を周りのせいにした。 など</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 内容の読解を兼ねて、音読を聞きながら書くことで、教材文の理解を深める。</li> </ul>
<p><b>あなたは、ぼくの気持ちにどれくらい共感できますか。</b></p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ぼくの心の弱さが表れている次の3つの行動について、そのときの気持ちにどれくらい共感できるか考え、Formsで回答する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 中心発問をし、ねらいを焦点化する。</li> <li>□ Formsには共感の度合いを4段階で回答し、理由については記入しない。</li> </ul>

<p>展開</p>	<p>① 拾ったシャープペンシルを、「自分で買った」と嘘をついたこと。</p>	<p>② 泥棒扱いしてきた健二や、シャープペンの1本ぐらいいこだわる卓也に腹を立てたこと。</p>	<p>③ 合唱の失敗をテノールパートのみんなのせいにしたこと。</p>
<p>終末</p>	<p>心の弱さを乗り越えるために、これからどのようなことを意識して生活していきたいですか。</p>		
<p>○ 各自でワークシートに考えを記入する。 ○ 班で話し合い、その内容を Excel に入力する。 ・嘘をつかないようにする。 ・自分で考え、周りに流されないようにする。 ・他者への意識を大切に、自己中心的な行動を取らないようにする。 ○ 班の中で「どのような意見が出たか」「どのような話し合いになったか」について、電子黒板を使い全体交流する。 ○ 自分の心の弱さを振り返り、全体交流の内容から今後の自分の生活に生かしたいことを選択する。その理由をペアや近くの友達と確認し合う。 ○ 「自己評価」「感想」について Forms に入力し、集計する。 ○ Forms の集計画面を提示し、感想を紹介する。</p>	<p>□ ぼく的心情を踏まえ、自分だったらこうするという思いを基に議論する。 【① 他者と議論する】 □ 自身の経験に結び付けている意見を取り上げ終末へつなげる。 □ 必要に応じて問い返し発問をする。</p> <p>□ 自分の生活経験を振り返り、これからどうするかという視点を持ち個人思考する。 【② 自己を見つめる】 □ ICTを用いて、自分たちの生活に生かせる意見を広く共有する。【③ 全体で共有する】 □ 全体交流の内容から自分自身で生かしたいものを考え、理由を友達に伝え合う。 【④ 考えを説明する】</p> <p>☆ 学習内容の深まりや、自己の思考の変容について気付いている。 【ワークシート・端末】</p>		

(6) 板書計画

● 心の弱さを乗り越えるために…

・友達に嘘をつかずに生活する。(うそをつかずに生活する)

・周囲に流されて行動するのではなく、自分で正しいと思った行動が自己中心的な意識だ。

・自分の行動が自己中心的な意識だらけなら、正直に謝るべき。

共感できる		共感できない
<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの前だったので焦りがあった。</li> <li>・見られてとっさに嘘をついた。</li> </ul> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">○○%</p>	<p>①</p> <p>拾ったシャープペンシルを、「自分で買った」と嘘をついたこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝手に自分のものにしてしまった。</li> <li>・嘘をついてしまった。</li> </ul> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">○○%</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だけのせいではないと思いたい。</li> </ul> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">○○%</p>	<p>②</p> <p>泥棒扱いしてきた健二や、シャープペンの1本ぐらいいこだわる卓也に腹を立てたこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のせいなのに怒るのはひどい。</li> <li>・これからどうしよう (不安)。</li> </ul> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">○○%</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・わざわざ大きな声で言わなくてもいいのに。</li> </ul> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">○○%</p>	<p>③</p> <p>合唱の失敗をテノールパートのみんなのせいにしたこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーという立場なのに…</li> <li>・まとめ役のせいにしてしまった。</li> </ul> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">○○%</p>

課題  
どうしたら自分の心の弱さを克服できるかな。

10 / 20 (木)  
よりよくなるまで

6 中学校授業実践記録

研究の内容1 多面的・多角的に考える学習の工夫

主題名 「だれもが気持ちよく過ごせる社会を目指して」

教材名 「ごみ箱をもっと増やして」

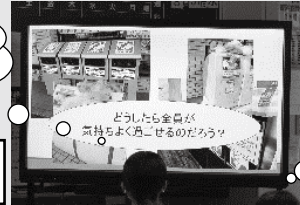
内容項目 C-(10) 遵法精神、公德心

《あらすじ》 「日本の街の中に、もっとごみ箱が増えた方がよいか」について、ある大学生は「外国に比べてごみ箱が少ないし、観光立国を推進するのであれば増やすべき」と投稿した。この投稿に対し、「きれいな景観維持のためごみ箱を増やすべき」「ごみ箱を増やせば景観が壊れるため、自分のごみは持ち帰るよう促すべき」「日本人の美意識を尊重し、環境を守るためにも持ち帰るよう促すべき」という別の3つの投稿も提示され、ごみ箱を増やすか否かを考える。

導入

1 コンビニのゴミ箱が店内に移動することで困ることを考える

家庭ごみを捨てる人がいると、店の人は困るよなあ。



お客さんにとっては、外にごみ箱がある方が便利だよ。

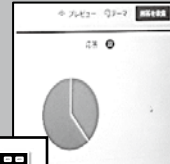
ICTの活用

課題：誰もが気持ちよく生活するために、心掛けることは何だろう。

展開

2 教材文の最初の投稿文を読み、賛成・反対か考える

なるほど。ごみ箱は増やすべき。賛成！



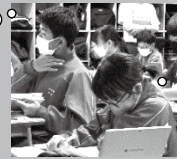
ICTの活用

【研究との関わり】

① 自分の考えをもつ

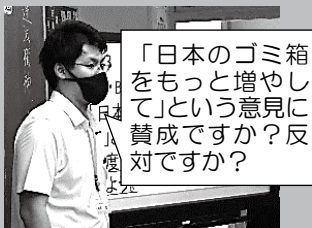
3 他の3つの投稿文を読み、それぞれの意見の主張をまとめる

Aの投稿はごみ箱設置に賛成だけど、BとCはどうか？



立場は同じであっても、理由は違うんだな。

4 ごみ箱を増やすことについて賛成か反対か、自分の考えをもつ



「日本のゴミ箱をもっと増やして」という意見に賛成ですか？反対ですか？



ごみ箱が増えれば、ポイ捨ても減るから賛成。でもなあ…。

5 ごみ箱を増やすことについて、グループの友達と議論し合う

「考え、議論する」



でもさあ、30mごとにごみ箱のある街が、きれいな街だと言えるの？

いつもごみ袋があるわけではないから、ごみ箱を増やしてほしい！

【研究との関わり】

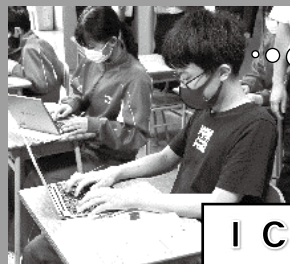
② 他者の考えを知る

【研究との関わり】

③ 他者と議論する

終末

6 学習を振り返り、よりよい生き方への思いや願いを深め、自己実現への意欲を高める



よりよい社会にするために大切な考え方は…。

ICTの活用

ゴミを多く出さない事や何回も使い回しが出来るものを使うこと。ゴミに対して真面目に考える意識をみんなが持って、ポイ捨てが少なくなれば対処法もより良い物が出てくると思う。



研究の内容2 自分自身との関わりの中で深める学習の工夫

主題名 「心の弱さを乗り越えるために」

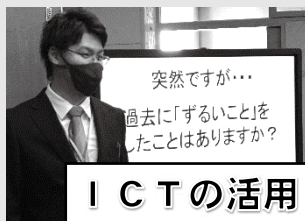
教材名 「銀色のシャープペンシル」

内容項目 D-(22) よりよく生きる喜び

《あらすじ》 掃除中に拾ったシャープペンシル。それが卓也のものだと、ぼくは理科の授業中に知る。健二に「おまえ、とったのか」とはやし立てられ、周りの目も気になったぼくは本当のことを言えずにごまかす。放課後、シャープペンシルを卓也のロッカーに突っ込み帰宅すると、卓也からぼくを疑ったことをわびる電話が来る。いたたまれなくなったぼくはさまよい歩き、自分自身のことを見つめ直す。満天の星を見て深呼吸したぼくは、卓也の家へ向かって歩き出す。

導入

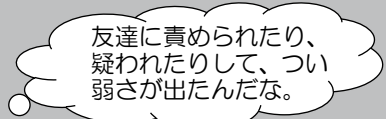
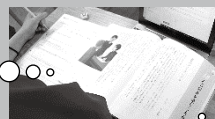
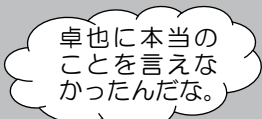
1 自分自身の経験から、「ずるさ」について考える



課題： どうしたら自分自身の心の弱さを克服することができるだろう。

展開

2 教材文を読み、登場人物の「弱さ」や「ずるさ」を捉える



3 「ぼく」のした3つの行動について、自分自身との関わりで考え、端末に入力する



①～③の行動をしてしまった「ぼく」の気持ちに、どれくらい共感できるかな？

- ① 拾ったシャープペンシルを「自分で買った」と嘘をついたこと
- ② 自分を疑ってくる健二や卓也に腹を立てたこと
- ③ 合唱の失敗を他のパートのせいにしたこと

4 集約された意見を把握し、それぞれの理由について議論する

「考え、議論する」

【研究との関わり】  
① 他者と議論する

①と②は共感できるけど、③は共感できないな。



全ての行動で、他人のせいになっているから、全部共感できなかったよ！

終末

5 学習を振り返り、よりよい生き方への思いや願いを深め、自己実現の意欲を高める



私の心の弱さを乗り越えるためには…  
ワークシートへの記入

【研究との関わり】  
② 自己を見つめる

心の弱さを乗り越えるために、これからどのようなことを意識したらいいかな？

3班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時には、大人や頼れる人に弱音をはいてみる。</li> <li>・間違えることは誰にでもあるから、これからどうするかを大事にする。</li> <li>・戸惑うこともあるけど</li> </ul>
----	--

各自の考えを班でまとめ、端末に入力して全体で考えを共有

【研究との関わり】  
③ 全体で共有する

ICTの活用



僕は、3班の意見にもあるように、間違ったときに今後どう生かすかが大事だと思うな。



私もそう思う。あと、誰かに相談するのもいいかもね。

【研究との関わり】  
④ 考えを説明する

7 資料「道徳科におけるICT活用例」

ICT活用例	活用するにあたって
<p>(1) 事前アンケートの結果をモニターで提示★                      小学校授業実践 1より 小学校授業実践 2より</p> 	<p>○ テキストマイニングとは、文字列を対象としたデータマイニングのことである。文章のデータを単語や文節で区切り、それらの出現頻度や相関、出現傾向、時系列などを解析し、有用な情報を取り出すことができる。</p>
<p>(2) 内容項目や教材に関する写真や事柄をモニターで提示★                      中学校授業実践 1より 中学校授業実践 2より</p> 	<p>○ 導入で活用することにより、子どもたちの意欲やその時間で扱う内容項目、道徳的価値に関心を高めたり、ペアなどで簡単に交流したりできる。</p>
<p>(3) 自分の考えや立場を視覚化                      → 熊本市教育センターHP 「心の温度計」など</p>  <p>矢印を左右に動かすことで、自分の考えを可視化する。                      出典：e-net(熊本市地域教育情報ネットワーク)  <a href="http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/">http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/</a></p>	<p>○ 二項対立や二者択一する内容で迷いが生じるようなとき、自分の気持ちを数字で明確に示すことができる。                      ○ 言葉で説明することが得意ではない子どもでも、簡単に自分の考えを表すことが可能となる。                      ○ 右側の数直線を使えば、考えの変容が一目で分かる。</p>
<p>(4) 考えを集約し、自動作成されたグラフを提示★                      → Forms など                      小学校授業実践 2より</p> 	<p>○ Forms で設問を作成し、Classroomなどで配布。回答は自動的に集計され、円グラフとして活用したり、閲覧したりすることが可能。                      ○ 二項対立する内容の際などに、全体の割合が一目で分かる。教師にとっても、その後の学習展開における指導の見通しをもつことができる。</p>

(5) 問いに対する全員の考えを共有★

→ スプレッドシート、Excel、ロイロノートなど

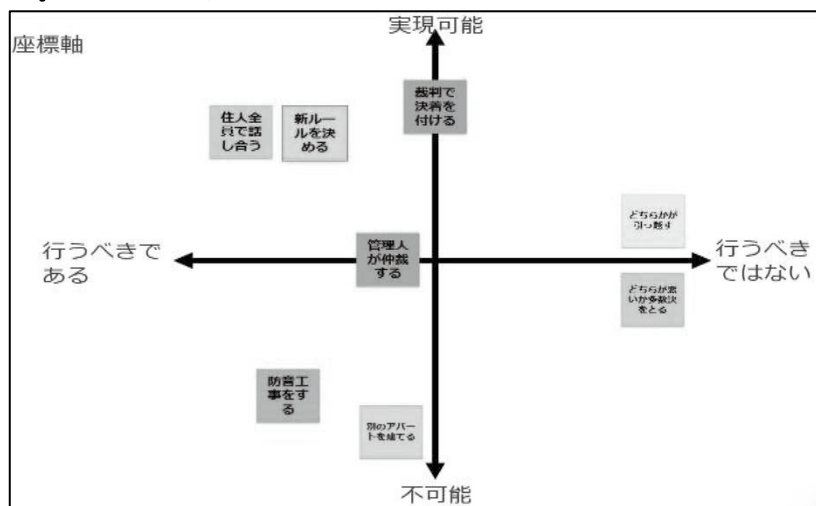
小学校授業実践2より

約束を守ることが決断した手品師は、何を大切にしていたのだろうか。							
1	男の子の気持ち お父さんお母さんがいなくて寂しそうにしていたが自分の手品を見て楽しそうにしていた！のが嬉しかった	2		3	・男の子の幸せや笑顔 ・男の子との約束 ・手品を楽しみにして来る男の子の気持ち	4	男の子の笑顔大切にしたいです。
6	自分のことを待っていてくれる人を大事にしたいという心	7	みんなの笑顔	8	男の子との約束したい。	9	男の子が、笑顔や元気になるようにしたかったから、男の子を大切にしたい。
11	父を無くし母は仕事で居なくなつて男の子は寂しかったと思ったから2回も行って笑顔を取り戻そうとしたから	12	男の子のかなしさどくるしさがあつたから。うらぎつたら男の子の心がもたない。	13	男の子とした約束を大切にしたい。	14	男の子の笑顔や男の子の楽しそうな顔を大切にしたい。
16	男の子の笑顔を大切にしたいから？	17	約束を守ること期待を裏切らないようにすること	18	手品師が一番大切にしたいことは、見てくれる人や待っていてくれる人の期待を裏切らないことだと思います。	19	男の子の楽しみな気持ち。

- スプレッドシートを使用する場合は、学級の子どもの人数分のタブと集計用のタブを作成。子どものタブから、集計用のタブにデータが反映されるようにすることで、全体で共有できる。
- 全員の意見を集約することで、多様な考えを素早く知ることができる。
- 発表することに消極的な子どもにとっては、自分の考えを表現しやすくなると考えられる。

(6) デジタルホワイトボードを用いた議論

→ jamboard など



- Jamboardを使用する場合は、シートの背景を思考ツールに変更するなど、様々な形式で協働的に学ぶことが可能となる。端末上で付せんを活用して、思考を可視化しながら、話し合いを進めることができる。また、まとめることが可能。
- 他の班のページを見ることで、多様な考えに触れ、多面的・多角的に考えやすくなると思われる。

(7) 振り返りを蓄積した学習記録

→ スプレッドシート、Excel、Forms など

番	題名	評価				感想
		今日の課題の学習についてよくわかった	自分の考えを書いた際、発見したりすることができた	友だちや先生の話を聞いて、考えが広がった	今日の学習でわかったことを、これからの自分の生活に生かそうと思った	
1	やさしい人大きくせん	▼	▼	▼	▼	
2	あいさつをすると	▼	▼	▼	▼	
3	ヌチヌチスー	▼	▼	▼	▼	
4	ツバメの赤ちゃん	▼	▼	▼	▼	
5	ゆうすけの朝	▼	▼	▼	▼	
6	しょうたの手紙	▼	▼	▼	▼	
7	いいち、にいっ、いいち、にいっ	▼	▼	▼	▼	
8	きまりじゃないか	▼	▼	▼	▼	
9	みさきさんのえが	▼	▼	▼	▼	
10	二つの声	▼	▼	▼	▼	

- スプレッドシートで作成した場合は、URLを作成し、「コピーを配布」にし、Classroomで配布する。これにより、それぞれの学習記録シートとして活用することができる。
- 子どもが今までの学習を時間や場所を問わず、振り返ることができる。
- 教師が自己評価や感想の変容を見取ることができ、学習評価の際にも活用することができる。

※ ★は、「令和4年度 十勝教育研究所 協力員研究」において実践したもの

## IV 研究のまとめ

## 1 研究の内容に関わる本時の検証

## (1) 小学校

## ① 多面的・多角的に考える学習の工夫について

- 登場人物のどちらに共感できるかを問うことにより、子どもたちがまず自分事として考え、その後の友達との交流を通して多面的・多角的に考えることができた。
- 子どもたちから出た意見を関連付けて違う考えの子に指名したり、問い返しの発問をしたりすれば、より多面的・多角的な考えの深まりが期待できたと思われる。

Q: 今日学んだことを、どのように生活に生かしていきたいですか？

今まではルールがないとうまくいかないと思っていたけれど、自分の意見も相手の意見も尊重できれば納得できるようになると思うので、お互いの気持ちを大切に過ごしていきたいと思いました。



→ 「自分ならどうするか」という観点から自分の考えをもち、意見の異なる子と議論することで、多面的・多角的に考える様子が見られた。

## ② 自分自身との関わりの中で深める学習の工夫について

- 子どもたちの意見が一度出た後、「誠実とは自己犠牲か？」という問い返し発問をすることで、子どもたちは誠実かどうかを決めるのは何だろうかと考え、自分の考える誠実とはどのような判断基準なのかをより深く考えることができた。
- 教材から離れて自分自身との関わりの中で考える時間が不足していた。また、授業中の活動を全てICTで行ったが、全てをICTにする必要性は感じられなかった。

Q: 授業で学んだことは何ですか？

誠実とは「真面目で真っすぐな人」だと考えた。約束は守るべきだと思ったし、正しいことをして誠実に生きていきたい。



→ 「誠実とは何か」「誠実な行動とは何か」について友達と議論した後、道徳的価値について自分の経験や感じ方、考え方と照らし合わせるなど、自分自身との関わりの中で深めようとしている姿が見られた。

## (2) 中学校

## ① 多面的・多角的に考える学習の工夫について

- 導入で内容項目に関する写真を提示して興味・関心を高めたり、議論する前に各自が端末に入力した意見を提示することで、多様な考えに触れることができ、一面的なものの見方から多面的・多角的に考えを広げていくことができた。
- 教材の「ごみ箱を増やすかどうか」についての意見だけでなく、みんなが気持ちよく生活する上で大切なことは何かという内容項目の「遵法精神、公德心」に立ち返る手立てが必要であった。

Q: 友達の意見で、いい考えだなと思ったものはありましたか？

ごみ箱が増えた場合の見た目や環境のことだけでなく、自分の意識を大切に  
するという、自分では思い付かなかったことを友達から聞き、自分の考えが  
深まりました。



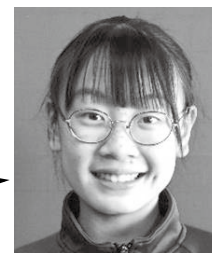
→ ICT活用のメリットである「瞬時の共有化」により、多様な考えをすぐに知ることができ、  
友達の意見との相違点や共通点を把握することで活発な議論となり、より多面的・多角的に  
考えることができた。

## ② 自分自身との関わりの中で深める学習の工夫について

- 登場人物の心の弱さが見られた行動を3つに絞って考えることで、登場人物の行動をとおし  
ながら、自分の心の弱さについても自覚しながら考えることができた。
- 登場人物の行動に共感できるかできないかについては活発に意見が出されたが、それを踏ま  
えて自分の弱さをどう乗り越えるかとの関連が十分ではない子も見られた。

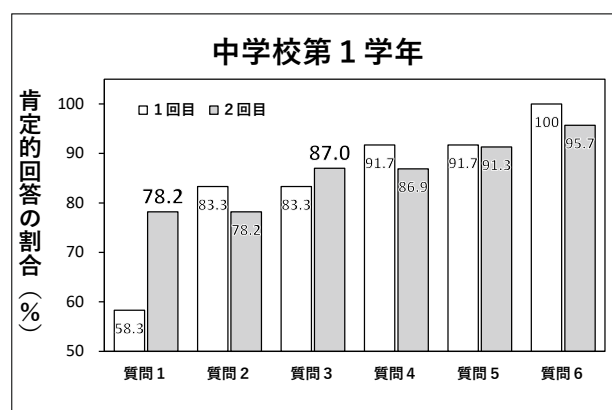
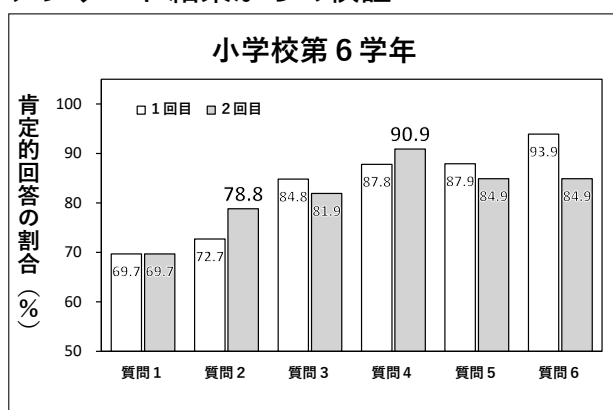
Q: 今日学んだことを、どのように生活に生かしていきたいですか？

私自身にも心の弱さがあると思うので、不安になったりすることもあると思  
いますが、ちゃんと勇気を出して自分の意見を主張できるようになりたいと  
思いました。



→ 自分自身と向き合う個人思考の時間を保障したことで、じっくりと自分の考え深めること  
ができた。また、全体の意見を集約して提示する際には、ICTを用いることで話し合いが焦  
点化されてより活発になり、子どもたちが考えを深めることができた。

## 2 アンケート結果からの検証



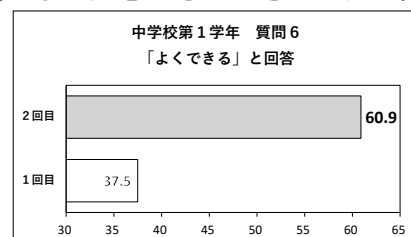
### ○ アンケート項目（小学校・中学校共通）

- |                                    |              |
|------------------------------------|--------------|
| 1 私は自分のよいところを知っています。               | 【自己肯定感・自尊感情】 |
| 2 私は友達や学級の役に立つことができます。             | 【自己有用感①】     |
| 3 私は学級で大切にされていると思います。              | 【自己有用感②】     |
| 4 私は困っていたり悩んでいたりをしている人を助けることができます。 | 【他者への思いやり】   |
| 5 私は相手の考えや立場を考えて尊重することができます。       | 【他者の尊重】      |
| 6 私は他の人のよいところを自分に取り入れることができます。     | 【他者の受容】      |

今年度も研究の成果を様々な視点から検証できるように、小学校、中学校ともに、授業実践実施前に1回目、授業実践終了後に2回目のアンケートを実施した。回答形式は的確に実態を把握するため四者択一とした。例えば、質問1の選択肢は、「よく知っている・まあまあ知っている・あまり知らない・知らない」となる。それらのうち前者2つを肯定的回答として集計したものが上掲のグラフである。

自己肯定感・自尊感情、自己有用感といった「自己を肯定的に受け入れる心」に関する質問1～3では、小学校と中学校のどちらも肯定的回答がやや低い数値となった。ただ、中学校では、質問1での肯定的回答の数値が約20%の大幅な増加となり、自己肯定感・自尊感情が高まっていると思われる。小学校では、質問2での肯定的回答の数値の増加があり、自己有用感の高まりが実感できたと考えられる。

一方、他者への思いやり、他者の尊重、他者の受容といった「他者を思いやり尊重する心」に関する質問4～6では、1回目から肯定的回答が80%以上の高い数値であったせいか、2回目は数値が減少した項目も見られた。数値の増加は小学校の質問4にとどまり、中学校でも肯定的回答の割合は微減傾向にあるが、最も肯定的な選択肢である「よくできる」の回答が、項目4では約5%、項目5では約20%、項目6では約25%の増加が見られ、他者への意識がより高まってきている子どもも増加していると思われる。



結果を総合的に考察すると、「他者を思いやり尊重する心」については、2回目に微減傾向にあるものの、小学校、中学校のどちらも高い数値を示しており、今後も他者を思いやったり、尊重し受容したりする姿が期待できると考えられる。一方、「自己を肯定的に受け入れる心」は、数値の増加が見られた質問もあったが、特に自己肯定感・自尊感情については小学校において数値の増加は見られず、大幅な増加があった中学校においても肯定的回答は80%を下回る数値となっており、やや課題が残っていることが明らかとなった。

### 3 研究内容の検証

#### (1) 多面的・多角的に考える学習の工夫について



○ 友達との意見交流を通して、道徳的価値やそれに関わる事象を様々な視点から捉えることができ、様々な見方・考え方を働かせて、自分の考えを広げたり深めたりする様子が見られた。

○ 子どもたちにとって身近なことや、自分自身の経験を想起させてから内容項目に迫ることで、道徳的価値やそれに関わる事象について自分事として考えることができた。

- 授業者が子どもたちの発言を認めたり受容したりするだけでなく、発言に対して問い返し発問をしたり、教材を通して内容項目について考えさせるという意識をもったりすることで、子どもたちはより多面的・多角的に考えることができるのではないかと考えられる。

#### (2) 自分自身との関わりの中で深める学習の工夫について

○ 子どもたちの捉えた道徳的価値に対し、揺さぶる発問をすることで、子どもたちが違った角度からも再度思考でき、考えを深めさせることができた。

○ 教材によっては、文章が長く内容把握に時間が掛かることがあるが、教材のポイントとなる部分に焦点化して考えさせることで、子どもたちは内容項目に関わる部分からそれずに考えることができた。

- 教材に対して考えを深めることはよくできたが、自分事として捉えることには課題が残った。



#### 4 研究1年次の成果と課題

- 研究の内容1では、身近な題材から自分の経験を想起し、他者との考えを比較した後に全体で共有することで、多面的・多角的に考えることができた。さらに、授業実践を積み重ねていく中で、子どもたちが友達の考えや意見に対して肯定的に捉えようとしたり、学校行事での取組の中で学級が集団として成長したりするなど、学校生活全般においても他者を認める姿が目にするようになった。
- 研究の内容2では、教材を構造的に捉えて話し合いを焦点化し、全体で共有することで自分自身との関わりの中で深めることができた。さらに、授業実践を積み重ねていく中で、授業中に意見を表明することに対して消極的だった子どもが大きく減るなど、学校生活全般においても自分を認める姿が増えつつある。
- ICTの活用は、導入でのモニターを使った提示や、「考え、議論する」際の集約・共有、振り返りなどにおいて、素早く全体で考えを共有できるなど、とても効果的であった。また、ICTはそのよさを効果的に生かすことのできる場面での使用が大切であると改めて感じた。
- 教材を通して、道徳的価値の理解を深めることが不十分であった。子どもたちの一面的な見方を揺さぶるような発問をすることで考えを広げるようにしたり、登場人物に自我関与して考え、議論した後に教材から離れて内容項目に関して大切なことは何かを考えたりすることで、子どもたちの道徳的価値の理解は更に深まったのではないかと考えられる。
- 研究の内容1では他者を思いやり尊重する心を、研究の内容2では自己を肯定的に受け入れる心を育むこととして研究を進めたが、どちらの内容も「他者」「自己」の両面に関わる部分があったため、育もうとする心を2つに分けるのではなく、それぞれの研究の内容の中で一体的に「自他を認め合う心」を育むこともできたのではないかとも思われる。

### V 研究協力校紹介／参考・引用文献

研究協力校		研究協力員
幕別町立札内南小学校	校長 高 充 慶	金 谷 智 皓
士幌町立士幌町中央中学校	校長 小 室 彰 人	柰 津 豊

十勝教育研究所 担当 松村 理史 / 柴田 悠二

### 参考・引用文献

- 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年6月） 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年7月） 文部科学省
- 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年6月） 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年7月） 文部科学省
- 道徳教育キーワード辞典 一用語理解と授業改善をつなげるために一 東洋館出版社
- 「特別の教科 道徳」で大切なこと 東洋館出版社
- 道徳的価値の見方・考え方 東洋館出版社
- 道徳科 授業構想グランドデザイン 明治図書
- 『365日の全授業』DX 小学校道徳 明治図書
- 初めてでも大丈夫！道徳授業の本質を大切にしたいICT活用 EDUCOM

# あとがき

## 十勝教育研究所

### ■共同研究担当所員

杉	澤		諭
野	村	知	未
白	澤	大	輔

### ■協力員研究担当所員

松	村	理	史
柴	田	悠	二

十勝教育研究所では、共同研究として、「十勝管内の教育推進の重点」にある学力の向上に資する研究を、管内19市町村の共同研究員と進めてまいりました。昨年度よりスタートした「『深い学び』に向かう子どもを育む研究～ICTを生かした、パフォーマンス課題を位置付けた単元計画を通して～」では、小・中学校2つのグループでのそれぞれ2本の授業実践と、自校での実践を進めていただきながら検証を進め、2年次の成果をまとめました。

また、協力員研究として、小・中学校の先生方にご協力をいただきながら、授業実践に基づいた研究を進めてまいりました。2か年継続研究の1年次となる「子どもたちに自他を認め合う心を育む研究～ICTを活用した『考え、議論する』道徳科の授業を通して～」では、多面的・多角的に考える学習や自分自身との関わりの中で深める学習を工夫することが大切であると考え、授業実践に取り組みました。

どちらの研究も学習指導要領を踏まえ、日常の実践に結びつくものと考えております。本研究が、各学校における教育活動推進の一助となれば幸いです。

末筆になりましたが、本研究紀要の作成に当たり、ご協力いただきました共同研究員、研究協力校、教育関係機関の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和5年3月

### 研究紀要 No.217

「深い学び」に向かう子どもを育む研究  
～ICTを生かした、パフォーマンス課題を位置付けた単元計画を通して～  
(2か年継続研究 2年次)

子どもたちに自他を認め合う心を育む研究  
～ICTを活用した「考え、議論する」道徳科の授業を通して～  
(2か年継続研究 1年次)

発行	令和5年3月
発行所	十勝教育研究所
発行人	山田 洋
印刷所	株式会社クナウパブリッシング